

東京帝大對關西學院蹴球戰 前半關西學院が逆襲に移つたところ

Tokyo Imperial-Kansei Gakuin association football game. A return attack by Kansei after an invasion of her territory by Tokyo in the first half.

第三回東西優勝校争覇蹴球試合

攻防の祕策を盡し東大、關學遂に引分けとなる
強蹴、ドリブル、好走の三拍子備へた關學の目覺しい攻撃

鈴木駿一郎

關西學院對東京帝大の第三回東西優勝校対抗蹴球争覇戦は昭和六年度蹴球界の最後を飾る大試合として又東西の異つたチームの対戦として多大の興味の下に十二月十三日神宮球場で行はれ力攻と好守文字通りの大接戦を演じた強蹴とドリブルに得意だと云はれる關學との「寄せ」に巧みな帝大との一戦は結局2対2の無勝負に終り遠征の關學の方が却つて元氣に溢れよくその強い長蹴を利して不振の帝大を十分壓し六分通りの試合を運んだのは目覺しい奮闘であつた。

關西學院 2(0—1)2 東京帝大

【東 大】	【關 學】
村藤島田山村澤	FW 西東界赤川三石安伊丹
中内手和高木野林	H B
竹田阿部	F B
1 2 17 0	G K P K
C K F K G K P K	6 2 19 0

機敏な両軍の寄せ

これまで關東のリーグ戦、例へば早慶、慶帝、帝早戦では、ハーフウエイラインを挟んでの敵味方の應酬が盛んでいはゆる「寄せ」の機會を捕へるのに苦心してゐたのに反し、この試合はそ

い長蹴によるところが多く、また帝大が關學のH・B線を破れば、途中カットされないで最後までおしたのは、關學のH・Bの動きの遅かつたことが一つの原因であつたと思ふ。

關學が最後のショットを決めるか帝大がH・Bからの好送球を得て「寄せ」にF・Wが活躍するかが、この試合の勝負處であった。

前半好調の東大

前半風上に陣した帝大は守り過ぎた關學に對してH・Bから好送球が出てR・W高山君は駿足を以つてしばしば自り、遂に彼からのセンタリングでゴールインして一點を先取した。これに對して關學は主にL・W島君からC・F東浦君に送球して帝大のゴールに肉薄しようとしてゐた様であつたが兩インサイドが後れて機會を作るまでに至らず、前半中頃から兩インサイドも進出して來て、後半盛んに示

したやうに帝大ゴールに迫つたが竹内君、木村君の好守にクリヤーされて帝大を窮地に陥れることが出来なかつた。

かくて帝大は優勢裡に試合を運び、幾度かL・W中村君に好送球があつて、チャンスと思はれたが、そのセンタリングが出来ず、高山君もまたR・I和田君に接近しすぎて得意の活躍が出来なくなつて、一點を得たままで前半を終つた。

開學後半の力圖

後半關學が風上に陣してからはその強い長蹴で見事にF・Wに送球して、帝大ゴールに盛んに殺到し出した。おまけに帝大のH・B線は撤はず、またその送球の加減が悪く、縦に流れたり、また風のために球が浮いて、體の大きな關學のバッケにヘッドを許すやうになり、中盤の戦ひでは、關學は斷然帝大を壓し去つた感がある。殊にC・H三浦君の活躍は物凄く、常に

好位置を占めて、敏捷なあの手島君をよくマークして、機を見て巧みなドリブルで帝大H・Bを抜き、F・W、殊にR・W赤田君に好送球をしてみた。丁度、兩軍のC・Hは逆の立場に置かれたやうで、野澤君はいつものすごい當りを見せず、結果は關學のバックのカットに會ひ、強蹴を放たれて頭上を抜かれ、防禦に干渉できない位置に残されてゐた、これ等のことが關學をミドルボールで断然優勢に導いたのであると思はれる。

關學のゴールキックから球は島君、東浦君と渡り、東浦君の見事なショットで一對一となり試合は激しさを加へて來たが、その後關學のミスに附け入りL・W中村君の送球は手島君より高山君に行き、又一點をリードして「寄せ」の巧さを見せた。これに勢を得て、攻撃に出た帝大を、關學はゴールキックで抜き、最初の一點と同じやうに進み、遂にゴールを破りこゝで又二對二の同點となつた。

關學屢次得點を逸す

その後關學は頗りに壓迫を加へ、W形のF・Wで帝大ゴールに迫つたが、遂に得點なく、帝大は球をカットされ勝てF・Wの猛襲を浴せかけることが出来なかつた。

試合は終始關學が優勢に攻め立てたのだから、當然もつと大きな得點を示してゐるはずであつたのに最後のショットを常に

日々と防がれてしまつてゐた。其の來る所を考へて見るとその一つはキックする動作そのものが遅かつたこと、即ち足に合はせるためによちよちしたり狙ひをつけたりしてゐる間にF・Bに潰された事であつた。この場合、足先で突くとか少し滑かに足が振られたなら、得點してあたと思はれた。狙ひを付けるために多くは1/2秒内外の時間を費してゐたやうだが最後の瞬間に、

* 右ページへつづく

年頭の辭

第十回國際オリンピック大會が舉行される昭和七年は遂に來た。

吾人はこの年この大會の來ることを如何に久しい前から待つてゐたことか。

パリで開催された第八回大會は我國の實力がやうやく國際的に認められかけてきた大會であつた。吾々大和民族のスポーツを通じての力——それはまだ開發せられてゐないけれども將來恐るべしと觀念を廣く國際的に植ゑつけた、と同時に、吾々もまた當

時すでに數回の経験を経て、おぼろげながら吾等の持つ力を認識する事が出來て努力の如何によつては歐米選手必ずしも恐るゝに足らずといふ氣持が早くも一部に醸成され、そのころまでともすれば彼我實力の相違を、民族が持つ力の本質的相違に歸因するものとなす様な卑屈な觀念が漸時一掃され、わがスポーツ界には来るべき新時代の曙光が輝き始めた。

時 恰も第十回大會はいよいよロサンゼルス市で舉

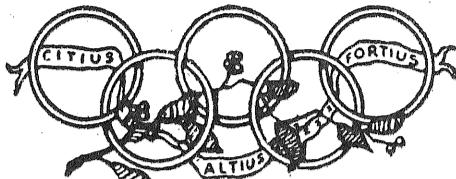
行されることに正式に定められた。わがスポーツ界の心ある者が一縷に「この大會に

かくして二オリンピアドの以前から、わがスポーツ界努力の目標となつてきただけ

何に重大性をもつてゐるか、それは更新らしく説明するまでもない。こゝには只八年も前から「この大會こそ」と念じてきた一事を繰りかへせば十分である。

情勢から夏期大會に對し當初の計畫通り完全なる代表選手團が組織し得られるか否かである。

傳へられるところによれば政府の補助金以外六大學野球聯盟から十萬圓の寄附金があり鳴山新文相も更に派遣費調達のために積極的助力を惜しまない意向のやうで、いさか意を安んずるところがあるとはいへ、この上とも各方面の理解ある協力により是非とも完全なる代表選手團を派遣し得るやう切望にたへない。



オリンピックの年を迎へて

そ」と目標をこの大會においたことは勿論當然のことであつた。

回大會の年をこゝに迎へることとなつた。

この大會がわが國に對し如

たゞ懸念されるのは現下の

これだけの時間を敵方に與へたために、敵のF・BとG・Kとによってゴールは極めて安全に陥ばれられたやうであった。

必然な關學の缺點

もう一つはゴールシュートに移らうとする動作があまり簡単に判り易いために、敵H・Bに思ひ切って動作を起されてゐたやうである。このことは關學の示した「寄せ」に必然的に伴つて来る缺點と思はれる。この傾向は前半戦に多く、例へばL・Wからの球をC・Fは後向き加減にもらつてゐたので、その處理が難しく、體勢を崩しながら無理にも後から突進して来るインサイドに渡し、そのシュートに待たうとしたやうであるけれどC・Fの體勢が一時崩れるために何等敵のバツクを牽制する事が出来ず、また球を得たインサイドにしてもパスすべき適當の所がなく勢ひドリブルではづしシュートを試みるやうになり、その結果帝大バツク、殊にF・Bに十分な活躍を與へてゐたや

うであった。あるから、關學としては軽い足のスwingも取入れ、また假令攻め寄せる度數が減じたとしても、最後のシュートをもつて決定的に出来るやうに、その「寄せ」に無理の這入つて來ないやうに工夫されなければならぬと思ふ。

関東に見られぬ 關學の攻撃法

帝大のF・Wの「寄せ」に入つた事の少なかつたのは、關學の好守もさることながら、帝大のH・B線が聯絡を缺き、あまり早く球を出し過ぎたりして、その時機を誤り、正確さを缺いていたためであつたと思ふ。若しH・Bがもう少し球を持ちこたへてF・Wにいゝ送球が出来たなら牛島君を主力とするその「寄せ」によつて活躍し十分效果を挙げてゐたであらうと思ふ。

終りに臨んで、關學は強いキックを有し、關東に見られないドリブルの巧みさを示し、又全體としてピッチのランニングを

してゐたことは、關東の蹴球界に寄與する事が多大であつたと信するものである。

帝大は慶、早の大敵に對戦し直ぐに關學と對戦しなければならない不利の状態にありながら今は届せず最後まで奮闘した事に對しては感謝を惜まない。

東西對抗戰績

第一回(昭和四年)

東大 2-1 關學

第二回(昭和五年)

東大 3-2 京大

試合経過

【前半】 東大は先蹴からボールを風に流して關學陣に攻撃を續け四分R.W.高山の送球をC.F.手島さつてシュートせんとしたが關學のバツクよくはづし六分中央線に自由蹴を得たが無為、關學八分R.H.石井の長蹴でF.W.チャーチして右隅蹴を得たがこれまた無為、十二分東大はC.H.野澤フィードをR.W.中村レュートしたが關學G.K.丹羽セーブし東大のリードで前半を終る。【東大1-0關學】

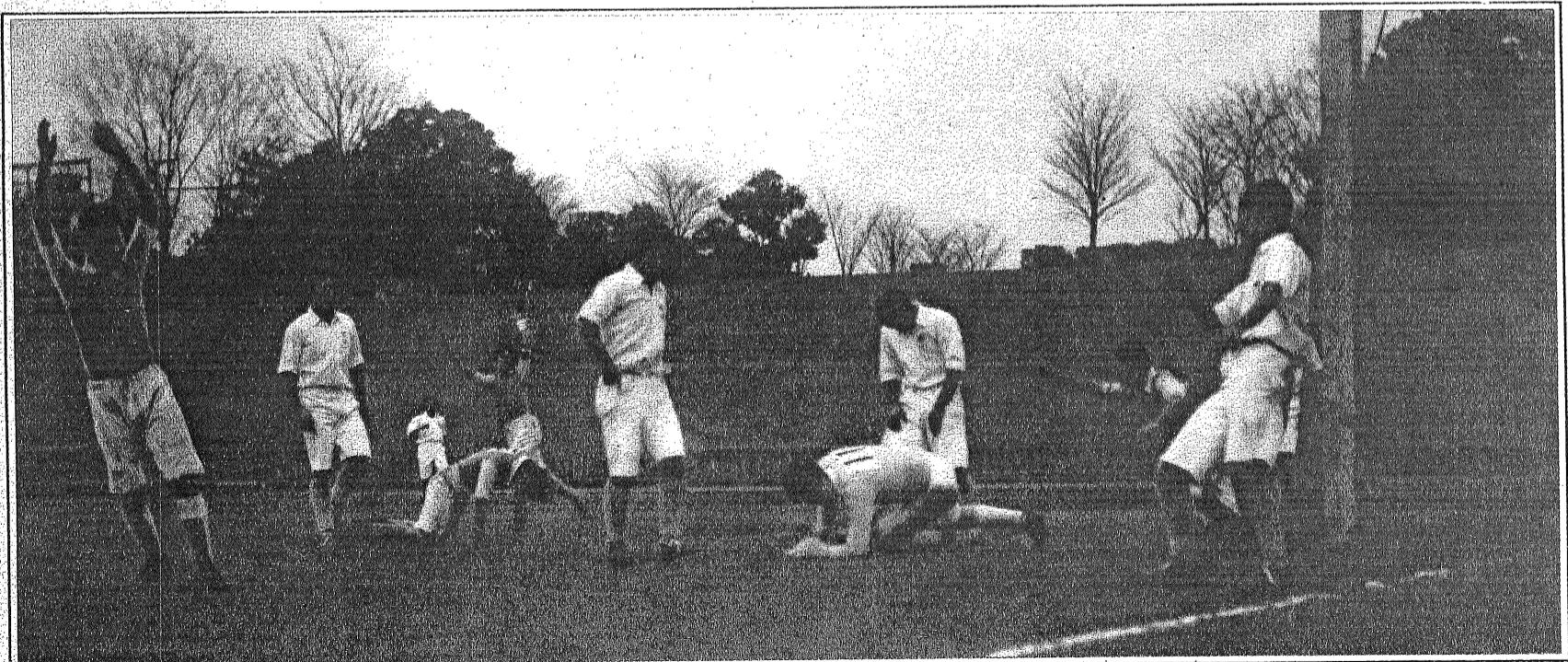
ーも效果なくボールはゴール左柱を弾いて入り東大一點を先取△關學は二十分三崎、堺井、島さ連続的にシュートしたが東大G.K.阿部のクリヤーするところとなり二十七分東大右隅蹴を得たがゴールアウトに終り三十二分關學はR.F.伊藤の長送球をL.I.西邑強シュートしたが惜くもはづれ試合はこのごろから一進一退、關學は四十二分C.F.東浦の強引のドリブル成功してゴールに迫つたが東大田村のタスクルに逢ひ、この漏球はゴール近くにあつたがフオローなくして好機を逃しハーフ。タイム直前東大はL.W.中村レュートしたが關學G.K.丹羽セーブし東大のリードで前半を終る。【東大1-0關學】

L.W.島の棚いた球をC.F.東浦レュートし左柱を弾いて戻るをL.I.西邑レュートして再び同點となる△三十二分東大は右側から捌いた球で内藤、手島のチャーチとなり關學危機となつたがG.K.丹羽辛くもはづし三十五分關學C.F.東浦中央線附近からドリブルに出で右側に捌いたのを東大竹内カットし損じR.W.赤井さつて東大の危機となつたが凡蹴に止み關學更に攻めたが得點なく、東大は四十四分の強襲G.K.丹羽進出のすきにL.H.木村レュートしたがはづれ關學最後の強襲も效なく引分となる。【關學2-1東大】

アサヒ・スポーツ・カレンダー

毎月一日號本誌に添付

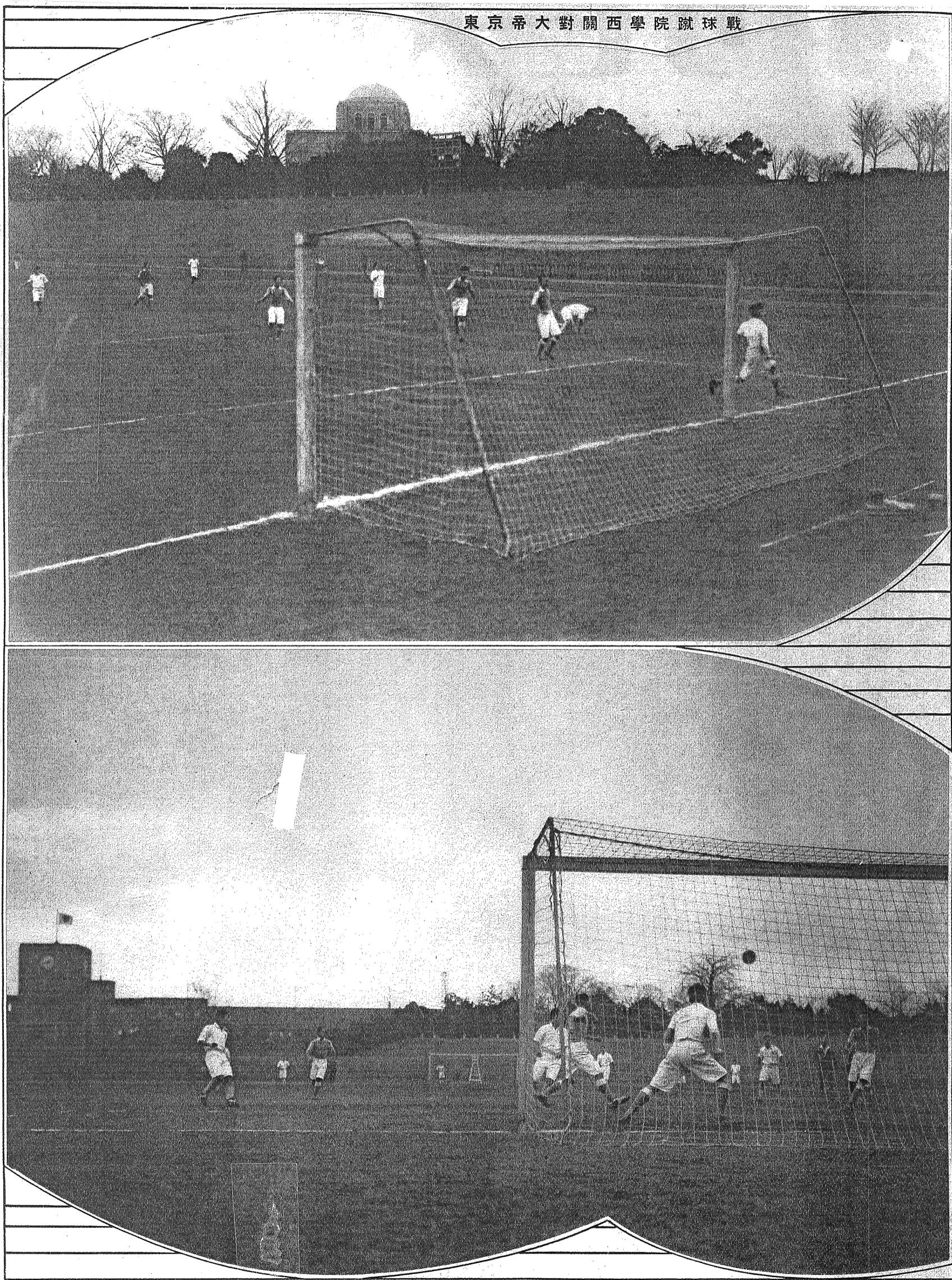
運動競技寫眞、七曜表及明細な競技日程を記した寫眞附録



東京帝大對關西學院蹴球戰

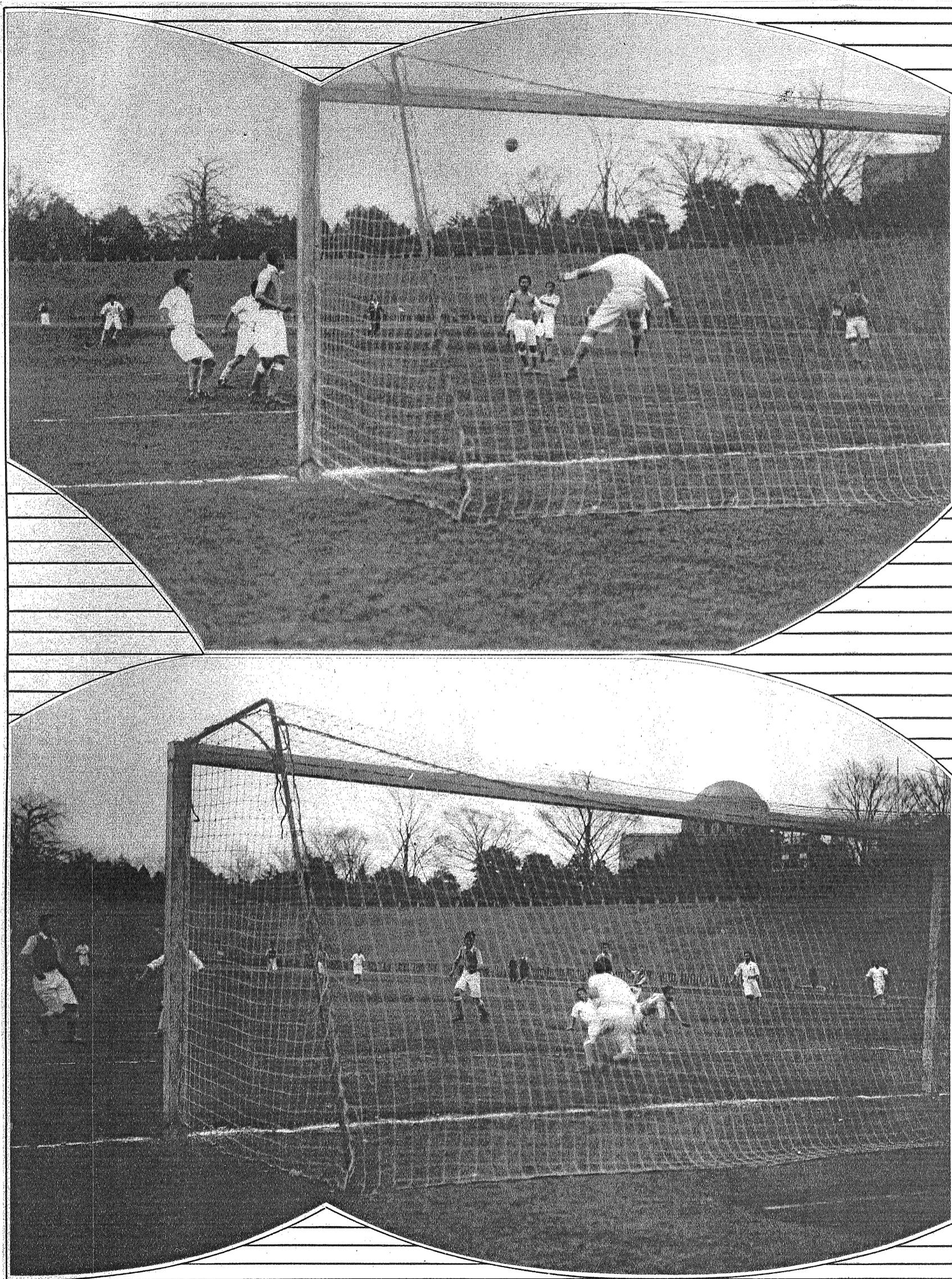
後半關西學院が得點して1対1の同點となつた瞬間

Tokyo Imperial-Kansei Gakuin association football game. Kansei Gakuin makes a goal, evening the score at 1 to 1 in the second half.



東京帝大對關西學院蹴球戰は十二月十三日神宮競技場で行はれ2対2の引分となつた(上圖)前半
關學G K丹羽君がゴールアウトとして危機を逃がれ帝大がコーナー・キックを得た瞬間(下圖)
前半帝大の高山君がセンターリングして球が關學ゴール前に落ちるところ

Tokyo Imperial-Kwansei Gakuin association football game, Meiji Shrine, December 13, which ended in a 2 to 2 tie. Top: Niwa, Kansei goalkeeper, prevents a goal, sending the ball out. Bottom: Takayama (Imperial) kicks the ball up in front of the Kansei goal in the first half.



東京帝大對關西學院蹴球戰 (上圖)前半帝大内藤君のショットを關學丹羽君がクリヤーしたところ(下圖)前半帝大手島君の強蹴を關學丹羽君が好捕したところ

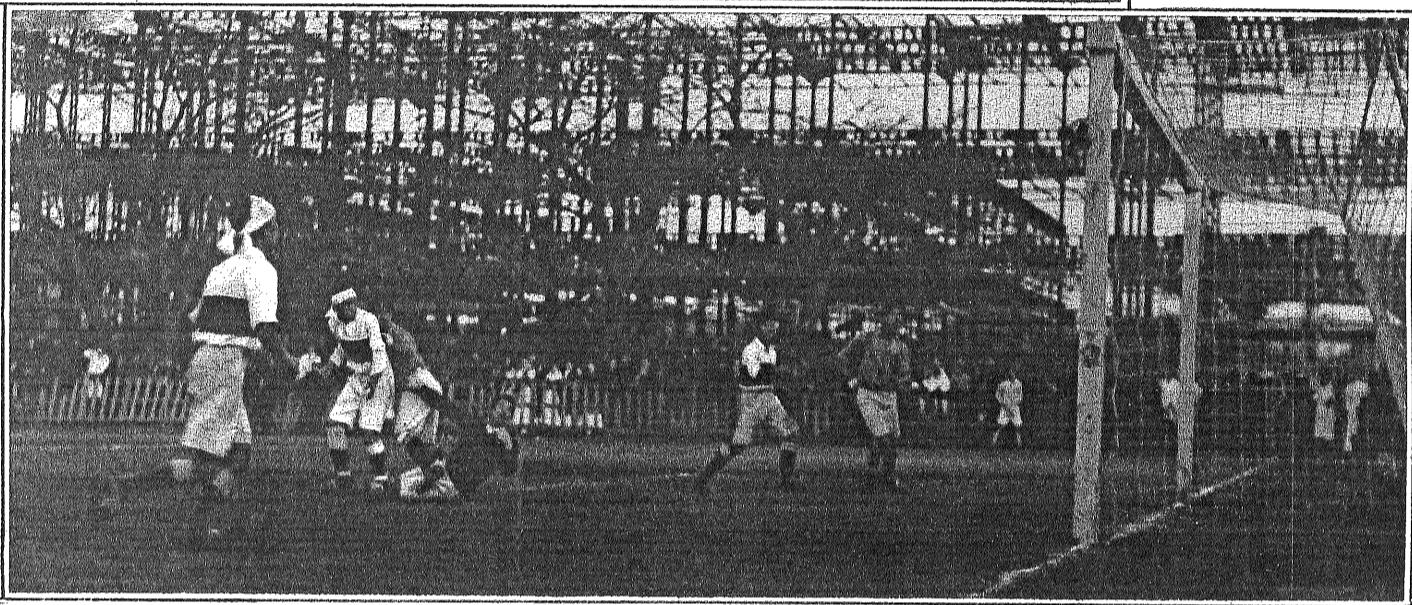
Kansei Gakuin-Tokyo Imperial association football game. Top: Niwa (Kansei) stops a shot by Naito in the first half. Bottom: Niwa (Kansei) stops a fast kick by Tejima in the first half.

全國高校蹴球大會



All-Japan high school association football games, Tokyo Imperial field, January 1 to 6, won by Mito high School. Top: Okubo (Mito) heading in the second half of the final game with Tokyo High. Bottom: Okubo (Mito) makes a shot for the goal just before time is up in the second half of the final game, but the ball strikes the bar and bounces back.

全国高校蹴球大會は一月一日から六日間東京帝大球場で行はれ水戸高校が優勝した。寫眞は何れも水戸高と東京高の優勝戦で(上圖)後半35分水戸大久保君がヘッディングした瞬間(下圖)後半タイムアップ前1分水戸大久保君のショットが東京ゴールのバーに當り得点とならなかつたところ



← 水戸高 建築中の東大病院

第九回全國高校蹴球大會

各チームの技術は逐年向上するが
高校式氣力の練成がこれに伴はぬ

竹 腰 重 九

蹴球の技術的新分野開拓の使命が大學チームに移つた今日高校チームはその技術的向上を計る點において、初期高校大會時代に較べると、甚だ容易になつたと看ることで出来る。それ故か高校チームの技術は近年一様に向上し、今回も前年の大會に比較して全體に一層進歩した様に見受けられた。しかし、その反面において各選手の持つ氣力、チームとして出す氣合といふ點では、一、二の例外を除くと技術の進歩に伴はない感がある。勿論初期大會ごろのたゞ「頑張れ」式の練習では、今日或は最後の勝利を摑むことは困難かも知れないけれども、チームとしての氣力、氣合の點では數年前のものの方に優れたのが多かつた様に思はれる。そして數年前に比較して、技術が甚しく複雑になつた現在では、大學チームの試合においても、勝敗の鍵は「氣合」であり、殊に本大會の如き大會で最後の勝者たるには、是非チームとしての氣力を體得する事が必要である。

現に昨年武藏が早高を破り

六高が優勝戦で一高に勝つたのは、夫々技術的な優劣による結果ではなくて、チームとしての氣合の有無に左右されたといふ事が出来る。また今年水戸が早高を壓倒し、個人的技術の遙かに劣つた松山が六高を壓しつづけ得たのも、この適例であると信ずる。なほ本大會では第一回、第二回と早高が連續優勝したのみで、その後連續優勝の記録を作つたものがない。これは一面において、各校の實力が均等であること、各校共毎年選手の變動が著しいこと等にもよるであらうが、他面優勝校は優勝した時に、他より技術的にすぐれて居たことのみが頭に残り、翌年には技術上の缺陷を補ひ、或は技術上のすぐれた處を伸ばせば良いと考へ、技術以外に忘れてならないチームとしての「氣合」を兎角失ひ勝なことを重要な原因となつて居ると信ずる。

數年前に比較してその強さ正確さにおいて殆ど進歩していないと思はれる技術はヘッディングであるが、これは基礎的なフォームから極めずに、始めから應用的な、高級な技術を練習する傾があるからではなからうかと想像される。

攻撃戦法は、速攻法一本槍のものが多く、球を得たら直ちに前方に送らうと努めるためか、後方よりの送球は荒れ勝で、相手に無意図に球を渡すもの多かつた。これは一考を要するこ

とで、今少し滑らかなパス・ワークを研究したまゝ個々の動作に敏捷さと強さを出すことに努めて、相手の逆モーションを衝くことが出来る様になれば、現在ほど焦つて球を前方に蹴出さなくとも良くなると思はれる。ただ相手を外す事と、突込みの鋭くなる事とは、とかく氣分の上で兩立し難い一面を持つことを念頭に置いて練習する必要がある。

守備法は、一般的にはさして進歩を認め難く、水戸、一高、松山、東京等數チームのみがまとまりを持ち、或は相手の長短を知つて、思ひ切つた守備法を講じて居たのが眼に残るのみで、一般的には粗雑な攻撃法に對する守備に終り、個人的な活動では多少進歩の跡があるけれども、緊密に結合した守備陣を持つチームは少く、これと球操作能力の不十分なこと、相俟つて、防禦から攻撃への轉換が滑らかに行はれないものが多かつた様である。

兎に角平常の練習において、一般に氣合の重要さを忘れて、形式的な技術に走る傾向があるのではないかを多少危惧するけ

れども、参加チームすべてが「此一戰」の意氣込を以て終始されたことは認められるのであって、故意の反則が殆ど全く行はれないことゝもに斯界のため同慶に堪へぬ次第である。

元旦には第一回戦の四試合が行はれた。

浦和は早高のすぐれた技術の前に惨敗した。技術的に見ても纏りなく、C・H、および兩F・Bの健脚はあつても、試合中一度も全部が結束した氣勢を示し得なかつた。

水戸に對した山形は、何故玉碎する積りで戦はなかつたのであらうか。

松山は六高に二対一で敗れたが、その氣合の鋭さにおいては出場チーム中隨一で、技の優越した六高を壓迫し、強襲に續く強襲で花々しい戦ひ振りであった。松山の守備はマーク良く全般として出足が早く、六高が球を弄して止り勝なのに乘じてこれを潰して攻撃して居た。

十回に及ぶ好機を失したのは一に技の不足に歸する。激しく動き乍らヘッドとかシュートとかすると、正確さが著しく減少する事が大きい缺點である。ギーバーの戦前からの負傷がなほつたら或は勝利を摑み得たかも知れない、兎に角最上級の質辭に値する健闘であつた。

二高對武藏は延長戦となり、武藏が辛じて一點を擧げて勝つたが、武藏C・Fに突込みの強さがあつたら、二高C・Hを牽制して、あれほどの活躍はさせられぬ。二は捉へ得たであらう。

二高はC・Hを中心兩F・Bがよく頑張つたが、個人が弱くF・Wに點をキメる能力の乏しい事が敗因だ。

二日は前夜の降雨の爲に泥濘となり各チーム共惡戦した。一高と静岡は、體格すぐれず技術に鋭さのない静岡が敗れたのは當然で、一高は堅實な守備を示した。

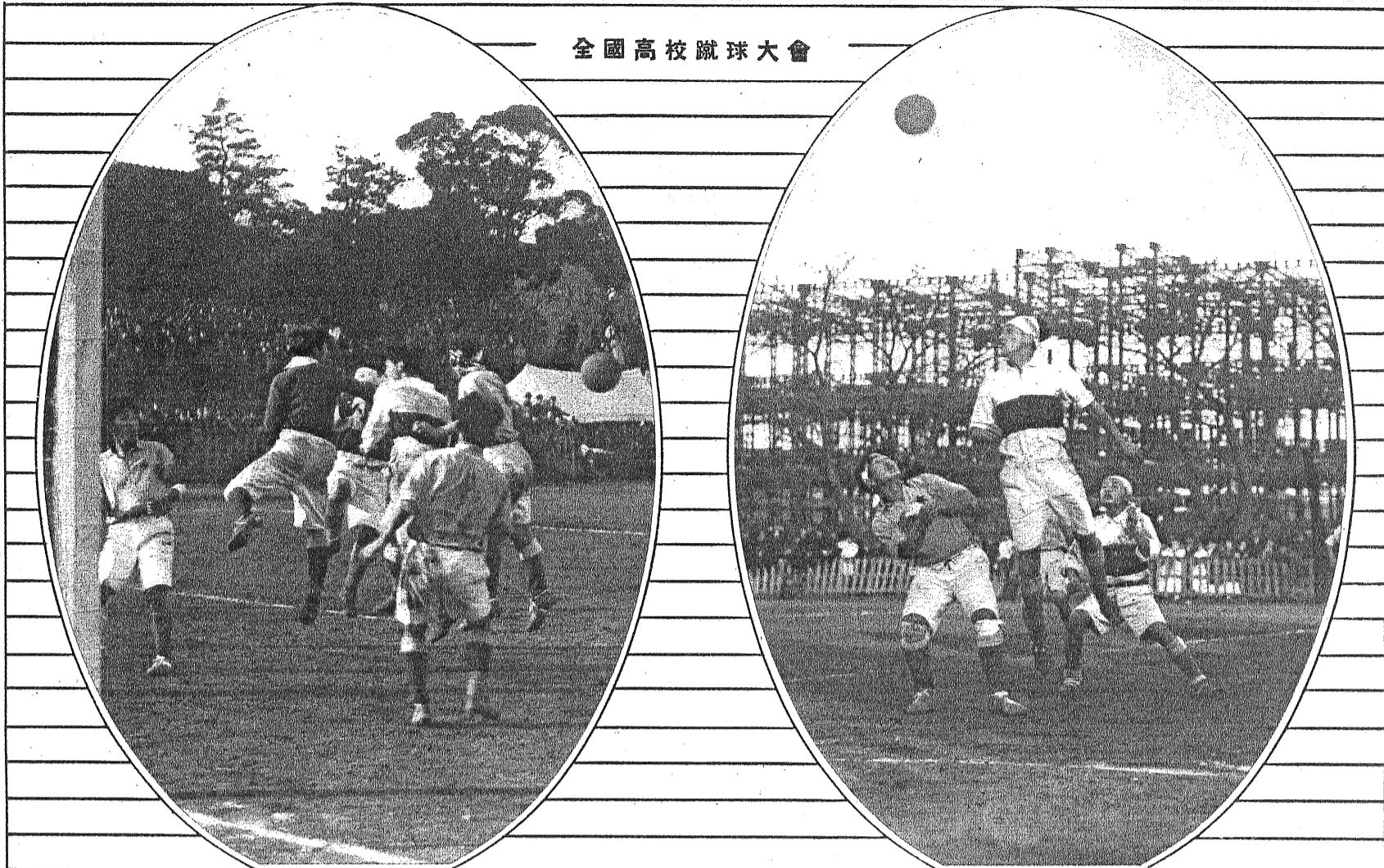
初參加の府立並びに佐賀は、夫々成蹊、法政に敗れ、佐賀は球のある部分の者のみ動く感あり、幾多の改良すべき點はあつたが、山形、五高、武藏、成蹊等が初めて參加した時よりも、兩チーム共遙かにすぐれた技術を持つて居り、將來續けて出場する事によつて容易に他チームに比肩出来るに至るであらう。

八高は成蹊に敗れたが、泥濘を考へ自己の型を破つたために、寧ろ善戦したといふべきで、平常の練習に、縮まつてゐかいで伸びのびと激しい動作が出来るやうにすべきではなからうか。

七高は松本に二対零で敗れた

* 右ページへつづく

全国高校蹴球大会



×左へ→やくづく↓

この二寫眞も水戸高校対東京高校の優勝戦で(左圖)前半東京の野田君、高橋君が猛烈に攻める水戸のゴールキーパー大村君が叩いて逃がれたところ(右圖)後半水戸が東京のゴール前に攻める在東京の吉野君ヘッディングして危機を脱す

All-Japan high school association football games. Left: Mito goalkeeper stops an attack by Noda and Takahashi (Mito) in the final game. Right: Yoshino (Tokyo) heads the ball when Mito High attacks his goal in the final game.

が、これはバスを用ひず、徒らに蹴つて突込んだためである。その猪突的なところは良とするも、それを生かすには今一段、個々の動作を敏捷にする必要がある。

滑らかなバス。ワークを持つ東京に惜敗した廣島の缺陷は球のストップと次の動作に基く段がつき、又一つのバスと次の活動とにも段がつく爲、相手の逆モーションをとれないことである。それに慣れた守備も、東京の持つ攻撃法に對しては弱く混亂し勝て前方へも良いスピードがなかつたのが敗因である。

◇

三日には第二回戦の残り四試合が行はれた。水戸対早高の試合は、未だグラウンドは十分に乾かず攻撃のスピードは減殺された。開始後十分早高、次の十分は水戸、次の十分は再び早高に機会が多く、早高先づ一點を得たが、水戸は速い逆襲と鋭い突つ込みに續けて二點を擧げた。その間早高は良く球を得たが、H・BはF・Wへ球を送るに時間をつひやして逆襲の機会を失し、F・W内でも不確実なバスが多く、後陣からのファードに手間取らぬ水戸に逆襲の機会を與へた。後半水戸は翼H・Bが、早高の翼F・Wをマークする浅い守備陣を張つたために、早高の兩I・Fはドリブルの機会を得たが、その後の處理悪くまたF・Bの缺陷を水戸の速攻

に衝かれて、H・Bも混亂し、遂にはF・Wの活動も鈍り、水戸に更に一點を與へて敗退した。

四高は五高に十四點を與へた球につられて一方に集り過ぎ、F・Bが著しく後退した爲め、諸所に大きな空隙を作つて、五高F・Wに意のまゝの活動をゆるした。この敗退は當然であるが、五高C・FおよびC・Hの明敏な球さばきがなければ、この大差は出來なかつたことゝ思はれる。

六高対武藏は二對一で六高が勝つたが、戦況から見れば兩者の得点は少な過ぎた感がある。六高は左翼F・W穂野君の物すごいスピードと、好時機の内送球は屢次好機を迎へたが、兩I・Fが武藏の懶迫に耐へるために後退し過ぎて間に合はず、その内送球できまらなければ攻撃はそれまでとなり勝ちであり、武藏は兩翼、殊に左翼F・W徳田君の活躍により機会があつたが、肝要なC・Fが著しく振はず、またミッド・フィールドで一翼に寄り過ぎる傾向があつたので、ゴール前の形整はず得點に至らなかつた。武藏はタックルの當りに強さが出たが、一般にバスする際スピードが落ちるため、六高的守備を容易ならしめたことが大きい缺陷である。

成蹊は一高に四對零で敗れたが、技術に格段の差あり、一高に軽く外され、確實にキープされて施す術なく、前日に示した鋭い逆襲も出し得なかつた。

◇ 戰に先づ水戸

は五高を四對一で破つたが、後半九分一對一の後五高の迎へた決定的な機会がまとめてみたら果して結果は如何? 然し五高+前半戦の健闘を以て満足すべきで、敗退は實力の差である。一高対六高の試合、昨年一高が技術に優りながら優勝戦に敗退したが六高に昨年の弱氣なく二對零で敗退した。六高の缺陷は廣島と同様で一高の確實なバスに混亂した。一高が速攻のチームでないにも拘はらず、一高が球を得れば六高的守備は一高の前進を妨げず、後退したのは、自己の缺陷を知つての策であらうが、少し強氣に出るべきであつた。六高は一年置きに強くなるチームであるかも知れないが「六高の意氣を見よ」といひ得るだけの頑張りは持ち續けるべきであると思ふ。

法政駒澤は佐賀との試合に良い纏まりと強い動きによつて壓倒的に勝ち、成蹊には全く勝味のない試合ではあつたが、堅實なるC・H及びR・B動きの強いC・Fを主力として善戦した。

松本は東京を破り大會参加以來初めて一勝の記録を得たが、その態度は感心しかねる、もつと真摯な態度で精進されんことを希望する。

◇ 五日の准優勝

は何れも疲労

の色を現はし、試合のテンポは可なり緩漫となつた。

殊に一高は甚しく、C・H、L・Hは明敏な判断を持ちながら動きが弱くなつたため、水戸のF・Wに突切られ、又バックは球を得ても平常の正確なファードを出し得なくなり、鋭いダッシュを持つR・I、L・Wもその強味を示し得ず、水戸の形の浅い守備陣を決定的に破る力がなかつた。一高は六高との試合においてはL・IからL・Wへ良いバスが出て勝因を作つたが、この日は両イン・サイドが後退して戦つたため、L・W小川君はマークされ、F・W中央も手薄となり、水戸C・Hに縦横の活躍を許した。勝敗は一高バックの不運の一失で決したが失點の少いのはG・K川島君の健闘に負ふところが多い。兩チームとも良く纏つてゐたが、一高は外すことなく、水戸は鋭い突込みに特徴を持つてゐたことに對照的な面白味がある。

東京対成蹊の試合は、兩チームとも點をきめる力が不足の爲め遂に無得點のまゝ延長戦を演じた。東京はF・W内でロング・バスを用ひ得ないこと、及びシートする際轉倒しても蹴るだけの果敢さがないのが得點

力のない原因であり、成蹊は一般に球を受けて出る時停り勝で

ドリブルが永くなり、兩翼F・Wが利かぬ爲めF・Wの形が悪くなり勝なのがその原因である。兩翼の利かぬことは一面後陣からの大きいキックの處理に難渋しました中三人の負擔を大きくて前二試合だけで疲れさせた。兩チームの此の缺陷は、東京が前半戦中項に迎へた數度の絶好の機会を失したこと、成蹊F・Wが後半戦及延長戦に、H・B、F・B殊にC・Hの奮戦を生かし得なかつたことに現はれて居る。成蹊チームの完成はF・W各個人の動作を敏捷にし一人一人各個人として持つ氣合がチームとしての各氣合となる迄の練習を積む事によつて達せられやうと思ふ。

◇

優勝戦は東京

が前日迄の三

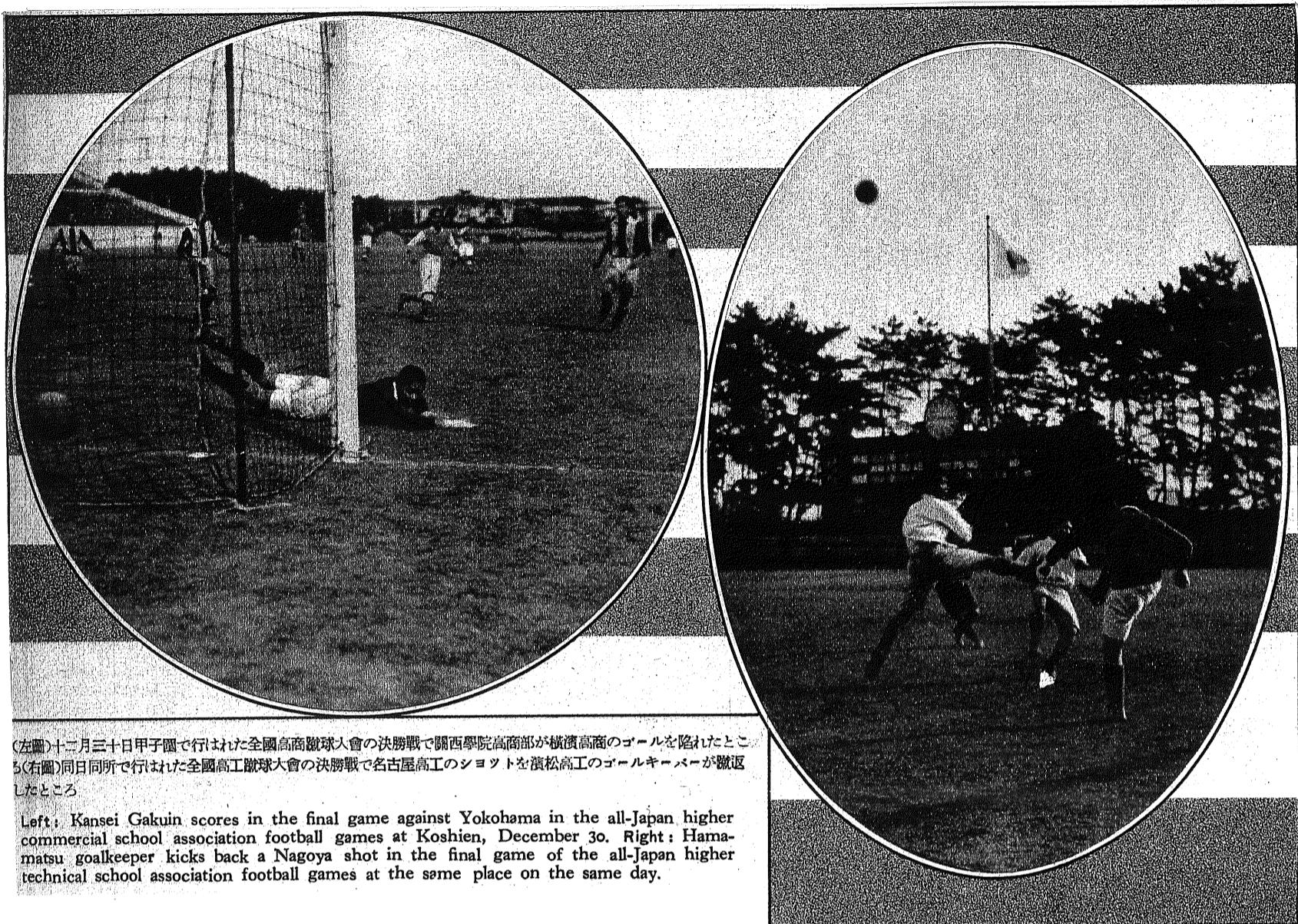
試合に全く疲労した爲、試合内容は乏しかつたが、故意の反則は全くなくその點では水戸対一高と共に模範的試合であつた。

東京は三人の揃つたH・Bランインを中心に纏つて、克明に良く動き、洩れ玉を良く取り、翼F・Wに球が出た時鋭い寄せを持つ事が強味であつたが、L・

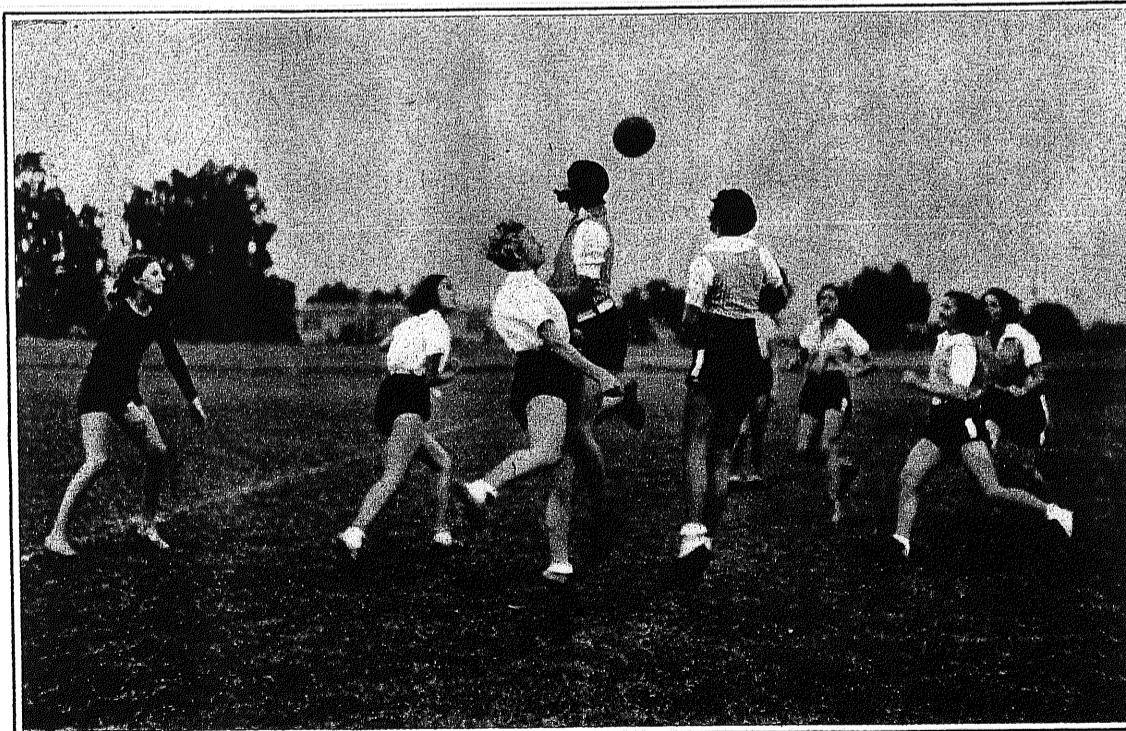
W高橋君は走力すぐれた水戸R・Hにマークされ、一般に基しく疲労した爲動きが不揃ひとたつて、全くその強味を表はし得ず、わざなにR・B及L・Hが體力の衰へを見せず善戦したのみに終つた。水戸の優勝は當然であるC・H横田君C・F太田君が身軽で、しかも激しく巧味のある業が出来る外傑出した選手は少いが、激しさと滑らかさを備へた技術を基礎として、良く纏つて居る技術上の強みとともに、チームとしての氣合が揃ふだけの練習を積んで居たことによつて順調に覇權を握つた

強味の特色が「巧く外す」ことなく、「鋭い突込み」にあつたことは、第四回大會に優勝した時の水戸に似て居り、東京のG・Kが前三戦の確実な守備にも似ず、不運に失つた最初の一點は、水戸F・Wの突込みを警戒したと想像されるし、守備の強さもマークの巧みな事と、果敢な突込みに據つて居ると考へられる。巧く外すことと、チームの氣合を鋭くする事をと兩立させることは、技術すぐれた大學チームでさへも容易に達し難い處で、水戸の出した特色は高校チームの生きる賢明な道を示すものといふ事が出来る。

S 7 - 1 - 15



S 7 - 1 - 15



蹴球試合は殆んど男子のみに限られてゐるがこの寫眞は十二月四日ロサンゼルスで行はれたマグヤース対バセナ・アスレチック倶楽部の女子蹴球試合の光景である
Women's association football, Magyars vs. Pasadena Athletic Club, Los Angeles, December 4.

早慶兩球團の西下によつて

展開された四大蹴球試合

早大=慶應=關學=關大=外人

三宅二郎

インターラグチ試合の幕を閉むるともに、寂寥を感じてゐた關西蹴球界は、早、慶兩大學生の西下によつて、時ならぬ賑はひを見せた。

試合は一月二十三、四の兩日阪神甲子園運動場で舉行され早稻田は第一戦の關西學院に七對一の大スコアで敗れたが、關西大學には四對二で勝ち、慶應は早大と同じく全關西外人と第一戦に二對零で敗れたが、關西學院に大接戦の末五對四で勝ち、東都の二豪はともに一勝一敗の成績を残して歸東した二十三日は朝來の雨でグラウンドのコンディショシ悪く、各チームが持つ實力を十二分に發揮し得なかつたのは遺憾であつた。

早大對關學

早大對關大的試合は、恒例による定期對抗試合で、從來の成績は早大が四引分、一勝二敗の一回負け越しとなつるので、早大の意氣物凄く、火の出る様な激戦が展開されるものと豫想されてゐた。

然るに結果は豫期に反して早

大振はず、關學のために徹頭徹尾打ちのめされ、七對一の大スコアを以て早大の敗戦に歸した。この日早大のF・WラインはL・Wの眞山を退けて浅井を

L・Wに、浅井の跡へ新人平松を起用してC・Fに横濱がへしてゐたが、そこには味はふべき妙味の何物も見出し得なかつた。センター・スリーは無爲無策、R・W阿部の位置悪く、浅

井の左サイドから、僅かにチャシスらしいものが作られたが、浅井はウイングのポジションに慣れてゐないためか、球放れ悪く、バスすべき時にバスせず、好機を逸してゐたのをしばしば見受けた。たまたま見事なセンターリングをしても、センタースリーの出足揃はず支離滅裂で、關學バツクをして易々と防備陣を布かしめ、却つて逆襲の機を與へ、自ら墓穴を掘るの觀があつた。

◆ ◆ ◆

もつとも早大敗因の責をフォアワードのみに歸することは酷で、H・B線、F・B線もまたその責の一半を負はねばならない。早大右サイドは、關學の

チヤンス・メーカーたるL・W島の活躍を封ぜんとして、右側に重點が置かれてゐたため、左サイドに空隙を生じ、その隙を關學のために突かれてゐた。ただ早大は關學R・W赤田が病氣のため、そのボデーションに起用された弱冠武井を見くびつてゐたためか、マーク薄く、ために武井は全然フリーとなつて易々と早大陣を突破し、關學大勝の因をなしてゐた。

これに反して關學の動きは全員一致、近來稀に見る好プレーに終始し、F・W西邑、東浦、堺井のセンター・スリーは圓熟した球捌きと見事なダッシュを示して、早大バツクを割り、チヤンスを見逃がさず得點を得た。今まで關學F・Wの缺點とされてゐたのは敵ゴール前において無効なバスを繰り返へし、機會を逸してゐたことであるが、對早大戦にはその影を消し、臨機應變見事なゴール・ショットを放つて、早大G・K熊井をして呆然たらしめてゐた。

◆ ◆ ◆

關學F・Wをして、かく自在

奔放なプレーを演ぜしめたのはいふまでもなくH・B線、F・B線の支援によるもので、H・B三崎、石井の布く攻防の妙、F・B阿部、伊藤の好守もまた見逃がすことが出来ない。

最後に一言特記せねばならないことは早大G・K熊井が、終始苦戦を續けながらもよく奮闘し、難球をよく處理してゐたことである。熊井の健闘がなかつたなら、スコアはまだ大きなものとなつてゐたらう。

早大對關大

關學は今期カレッヂ・リーグで好戦したF・W中から市橋、右近、長谷川の三君がある事情のため退部したので、津村、塙部、駒崎の三君を起用せねばならなくなつた。

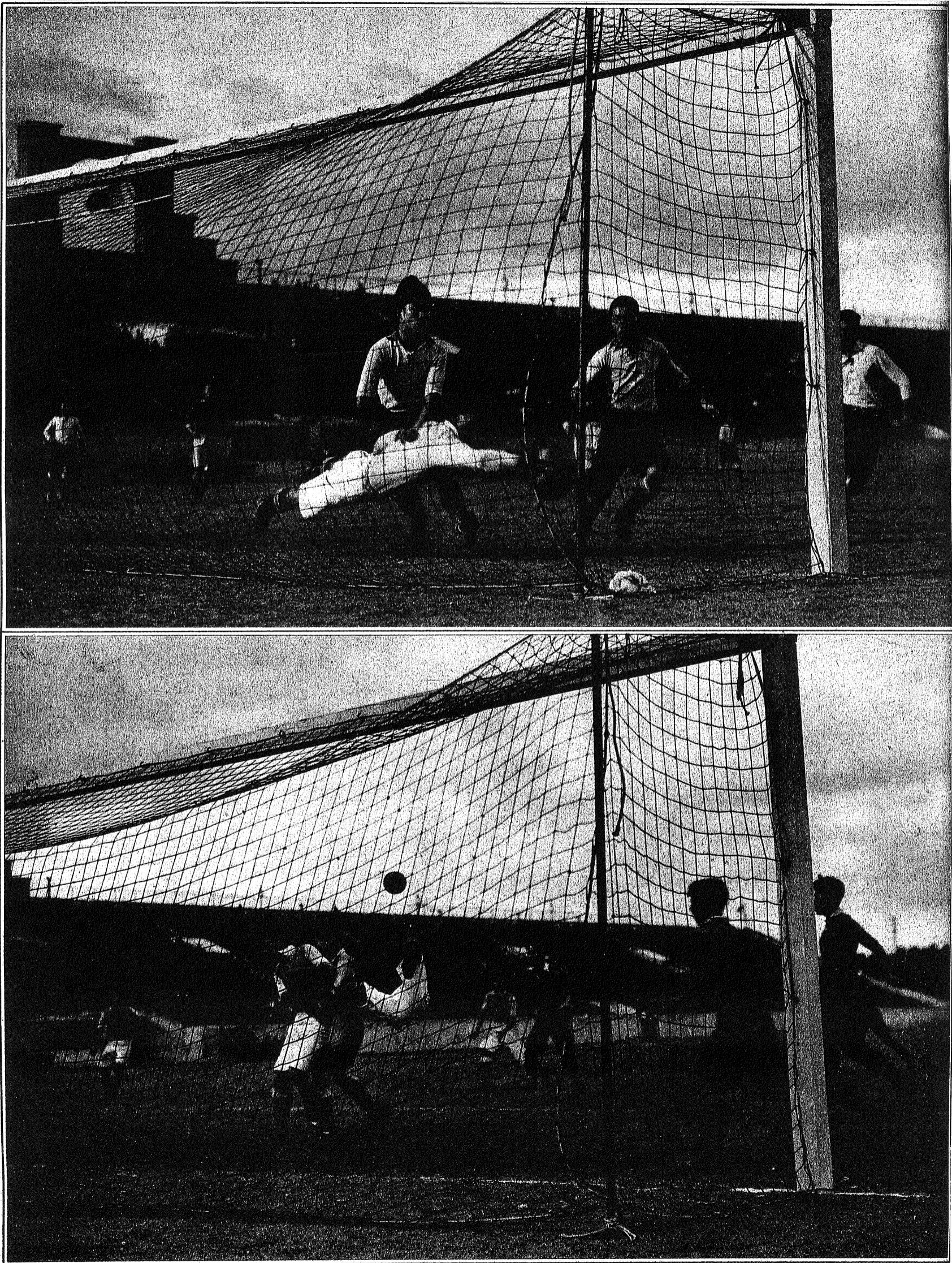
第一日の對全關西外人には互角以上に試合をすゝめながら、F・Wラインの氣合ひ揃はず、あたら好機を逸して新陣容のスターをつまづいたが、對關西學院には前回とは見違へる程整備して、前日の不運をここに雪いで。關西學院は前半四對一と慶應を断然リードし勝敗を決したものと思はれたが、後半に入つてからの慶應は、風を背にして着々得點を重ね、遂に一點を勝ち越し五對四のクロス・ボイントで慶應が凱歌を奏した。慶應エレバンは宿舎に引き上げ

てから、涙を流して戰勝を祝し合つたといふが、前半で完全に失つたと思はれた試合であるだけに、感慨深きものがあつたらう。

◆ ◆ ◆

關西學院は昨秋東都で行はれた全日本選手権大會で、東大・Bに敗戦したと同様の徑路をたどつてゐた。試合は前半五分五分であったが、關學F・Wの健闘によつて四點を奪ひ、慶應フォアワードより一枚上手のところを見てゐたが、後半に入つてからの慶應は、H・B大崎、岩波、F・B松丸等が縦横無人にグラウンドを馳騒して、完全に關學F・Wを押へ味方のF・Wを易々と進出せしめてゐた。慶應は得點を重ねるに従つてますます調子づき前日の對外人戦に無爲無策を非難されてゐた新人のF・Wは、この日長短取りませて押すべき時に押し、よくチャンスをとらへて快勝した。これに反して關學バツクは急激なる慶應の壓迫を受けてからは陣容甚だしく亂れ、收拾し能はざる混亂に陥つてしまつた。陣容を整へんとすればする程却つてそこに溝渠を生じ、慶應F・Wの乗する處となつてゐた。H・B線の布陣はとにかく角として、F・Bの進退は甚だしく齟齬を來たしてゐた。關學バツクは樂な試合をやつて、苦戦をした経験の少なきためもあるが、防戦の布陣は拙劣至極で、そのためG・K丹羽の活躍の範囲を狭めてゐた。關學はこれで今シーズン二度目の黒星をこゝに頂いた。

S 7 - 2 - 1



(上圖)一月二十四日甲子園で行はれた早大對關西大學の蹴球試合に早大のゴールキーパー熊井君が關大のラツシユを身を挺して防いでゐるところ(下圖)同日同所で行はれた慶應大學對關西學院の蹴球試合に慶應のゴールキーパー懸巒君が關學のヘッディングを飛びあがつて防いだところ

Top : Kumai, Waseda goal keeper, making a fine stop in the Waseda-Kansai U association football game at Koshien January 24. Bottom : Kokitsu, Keio goal keeper, jumping to block the ball in the Keio-Kansei Gakuin association football game at the same place on the same day.



東西對抗蹴球試合の前半關東高山君のショットがポストに當つてはわからへるを内藤君拾つて見事に得點したところ

Naito (Kanto) scores in the first half of the Kanto-Kansai association football game.

待望された第一回全關東對全關西選抜蹴球試合は二月六日午後零時四十分より甲子園運動場にて舉行された(主審高田、線審永井、山野)。日本蹴球の、世界的飛躍の助走たるこのゲームは、豫期に違はず激戦裡に六對三にて全關西軍の勝利となつたが、該ゲームが我が蹴球界に投じた波紋は如何なる展開を示すか、果してその收穫は得られただらうか。球界の將來を翫望し、所感を述べて見よう。

試合経過

ファースト・ハーフ

全關西 4-1 全關東
試合は最初より關西軍の必死的押しによつて開始され、關西側は風上(北側)に陣して益々その攻撃力を加へた。

關東のキックオフは直ちに關西FWに崩され、撲井の蹴前衛線突破より西邑へ急テンボに渡り、大谷一擧に右深く衝いて、2分半たもや關西右に攻めじ。Kを得たが非出のヘッドインに得點に至らじといへども、明かに關東バックスは出息を握かれその攻撃力を削減された。

6分關東逆襲に轉じて柳田一市橋一高山を渡つたが鈴木遅れて高山の好蹴もGKとなり。

關西最初の危機が、關西軍の最も怖れてゐた高山の急進的なドリブルであつた點、大谷、高山を好対照とした。

7分關西島得意のドリブルに敵陣深く攻めたが竹腰の見事なタックルに遭ひ、9分關東竹腰一鈴木一内藤とその左翼を用ひて進出したがバーを越える。關西軍は11分撲井から大谷の好パスに絶好の機を與へられたが大谷のショート蹴り12分、13分とも息も續かせず總攻撃をしたが物にならず。開始以來兩軍共に自重してか、活氣を示さなかつたが、10分後より漸く急調となつて來た。13分より14分半と、關東右翼高山の猛威を許した事は、關西小幡の中央偏位と、L・H三崎との間に隙間に隙があ

つたためである。

15分關西後藤一撲井一大谷と渡り大谷のセントリング門前に高くバウンドするを西邑軽くトスして永野に出す、熊井飛出したが間に合はず永野のショットゴールの右隅に入る(關西第一點)。19分關東竹内のハンドルに關西ペナルチを得、撲井のキックを熊井一度は返したが撲井すかさず飛び込む(關西第二點)。21分關東市橋一内藤一市橋と急闘に渡つて好機あるも安部の長蹴に逃し、22分關西後藤一撲井より大谷の長蹴あるも左に外れ關東FWの長蹴は22分ごろよりはじまり、關西FWを寄せつけず、右へ右へと出して高山を利して機を握まんとした。然るに關西は西村と安部との間にも齧跡を生じ、遂に關東に一點を貰いしめた。即ち23分關東高山のバス左翼に流れで鈴木のシュートを西村合はさんでいたが、微に擦れて球はポストに衝り、返る市橋軽くあてる。(關東第一點)

25分頃より球は關西陣に多く、關東軍の優勢となつて來た、明かに關西が關東のロングバスに引づられた貌であった。

28分關東鈴木のシュート、ゴールの正面を衝いてならず、31分野澤傷いて一分間タイム。32分竹腰一市橋一藤岡と渡つたが小幡よくカットし

ゲームの動きは更にボーナンとなり、球の動きも進退の深度を増して34分關西は敵門前30m處で後藤一撲井一後藤一撲井と急テンボに中央突破を試み、爲めに竹腰対後藤の白兵戦、加ふ

第一回全關東對全關西蹴球試合記

全關西方の活躍目覚しく6-3で快勝す 攻守に現はれた全關東チームの敗因

米澤理一

$6\{4-1\}3$

が陣容の立直しの實験がつたかに見えたが、關西これを許さず。

8分より逆襲せるも島のシュート外れ、11分大谷よりの球を撲井引掛けば永野スルーパスし西邑のショットで5-2と引離し(關西第五點)。

關西FWのパスワークの極致は遺憾無く示された。關東は其後風を利して燃んに攻め立てたが常に門前の決え悪く、又球を得ながらも餘りに當然過ぎるパスなるが故に、關西FWをして容易にカットさせてゐた。17分關西大谷のドリブルに對してFWのフォローが無かつたのは、寧ろ彼の駆足を物語るものといへるが、22分ごろ積け様に好機を持つ島が非出を完全に抜き得ず、早開戦當時の調子を出すこの出来なかつたことは寧ろ非出の健闘によるものとしたい。

27分關東は竹腰一内藤一市橋のバスに關西軍を押し、30分關西は大谷の快足に攻めたがともに無爲。32分關東左より攻め鈴木の見事なドリブルは藤岡一市橋一鈴木と渡つたが惜しくもGKとなり、33分竹腰一内藤一野澤へとバツクバスすれば丹羽視線を遮られ野澤のシュート得點となるも(關東第三點)關西は34分撲井よりの球を永野シュートして又も6-3と引離し(關西第六點)。

關東は37分鈴木一藤岡のショット、40分野澤一高山のシュート等押しながらタタイムとなる。關東軍は後半に入つて漸く調子を出したやうであるが、そのパスは敵の防禦陣を崩壊せしめるためよりも、敵門前の防禦密になつた際敵を説出するため多く用ひられた様であつた。

關西 関東

(關學)島	LW	鈴木(東大)
(關學)西邑	IL	藤岡(慶應)
(京大)永野	C	市橋(慶應)
(關學)撲井	IR	内藤(東大)
(神農)大谷	RW	高山(東大)
(關學)三崎	LH	柳田(成城)
(關學)後藤	CH	竹腰(卒)
(京大)西村	RH	野澤(東大)
(京大)小幡	LF	竹内(東大)
(關學)安部	RF	井出(早大)
(關學)丹羽	GK	熊井(早大)

16 G K 15

5 C K 8

0 F K 1

1 P K 0

【概評】

關西軍の一勝因

として、最も懸念されてゐたF・B線の好調は見逃せない、殊に小幡、前半中央偏位の傾き

あつたとはいへ、彼の健闘は安部の強蹴とともにそのH・Bを

して心残りなく攻撃に向はしめた。されど西村、安部兩者ともに右側プレイヤーでなかつたことが、往年の諷味を失つたはずの關東鈴木に可成りの活躍機を與へたのである。

關西FWの好調はRW・大谷の快足と、無理と思われるまでに彼を走らせた撲井の好パスとが相俟つた事にあるが、このダーツクホース大谷に備ふるにビッグゲームに経験少き柳田をもつてした事はストラテジ上關東の失敗といへる。

更に關東の敗因

として、その防禦的缺陷より寧ろ攻撃的不振をいはねばならぬが、CH・竹腰がチーム全體

の合理的(妥當的)動きに意を用ひ過ぎた事が却つて、(殊に前半)關西方バックスをしてその球の動きに対する意識を適確ならしめた感がある。このバックス濫用の不結果は観る者をして、竹腰なるが故に特に、不覺といはせ、兎もすれば彼老いたるには非ずやとの疑を抱かしめたのである。

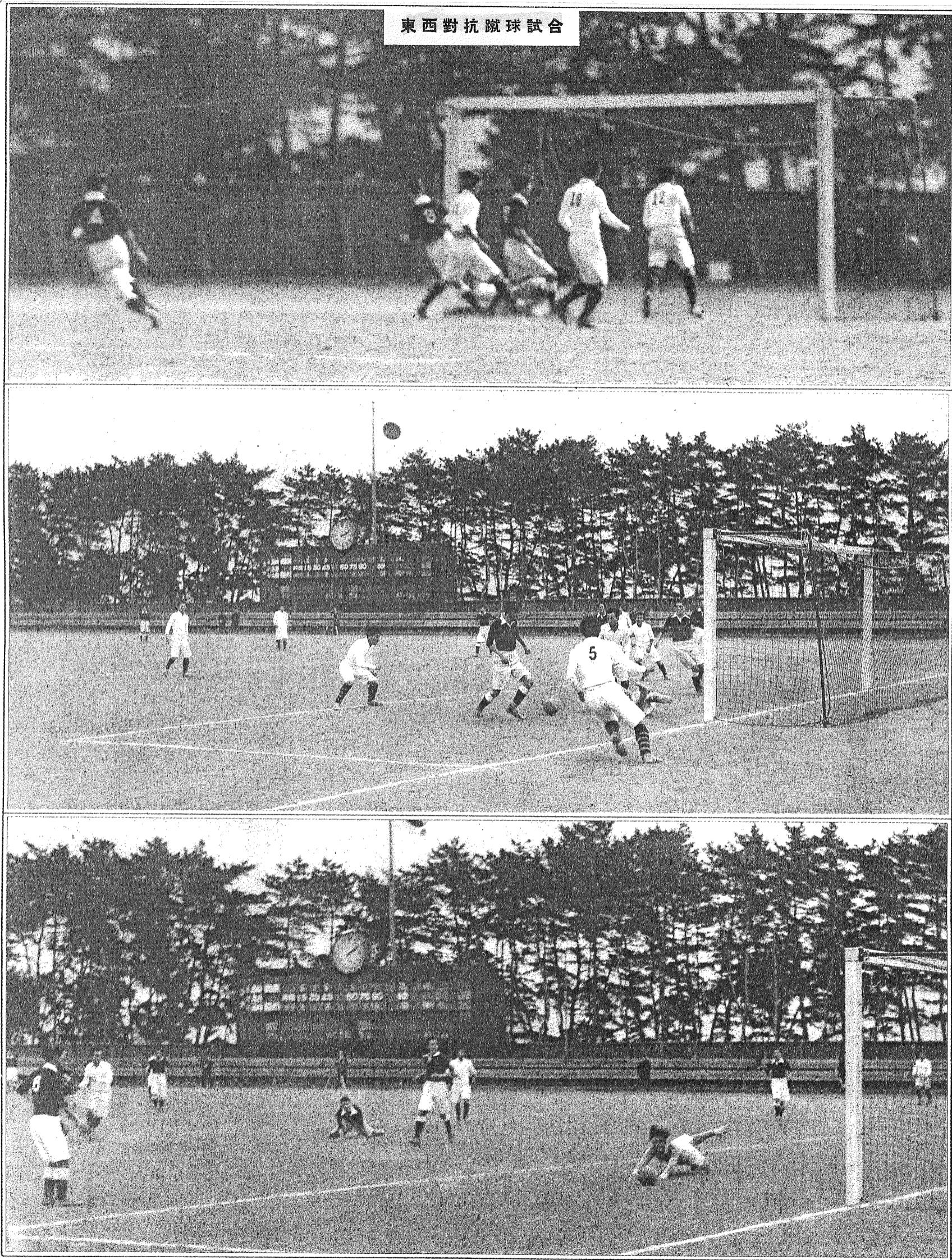
主将としてC・Hとして、後藤、竹腰兩者のプレーを比較し前者を「軍の先頭に起つて躍ふ闘将」と見、後者を「鵜飼における鵜の網を捌く漁夫」と見るもまた一つの見方ではないか。

門蹴16-15に對する得點6-3は明かに關東FWの寄せと決めとの物足りなさを立證し、得點6を許したのは關東バックスの防禦的コンビネーションの缺陷を暴露したもので、即ち關西F・Wセンタースリーの攻撃に際して、翼をつぶさずフリーに残し、從らにゴールのカヴァーに氣取られH・B相互は勿論H・B、F・B間の缺陷よりひいてはF・B線の破綻を説いた。

關東の敗戦は

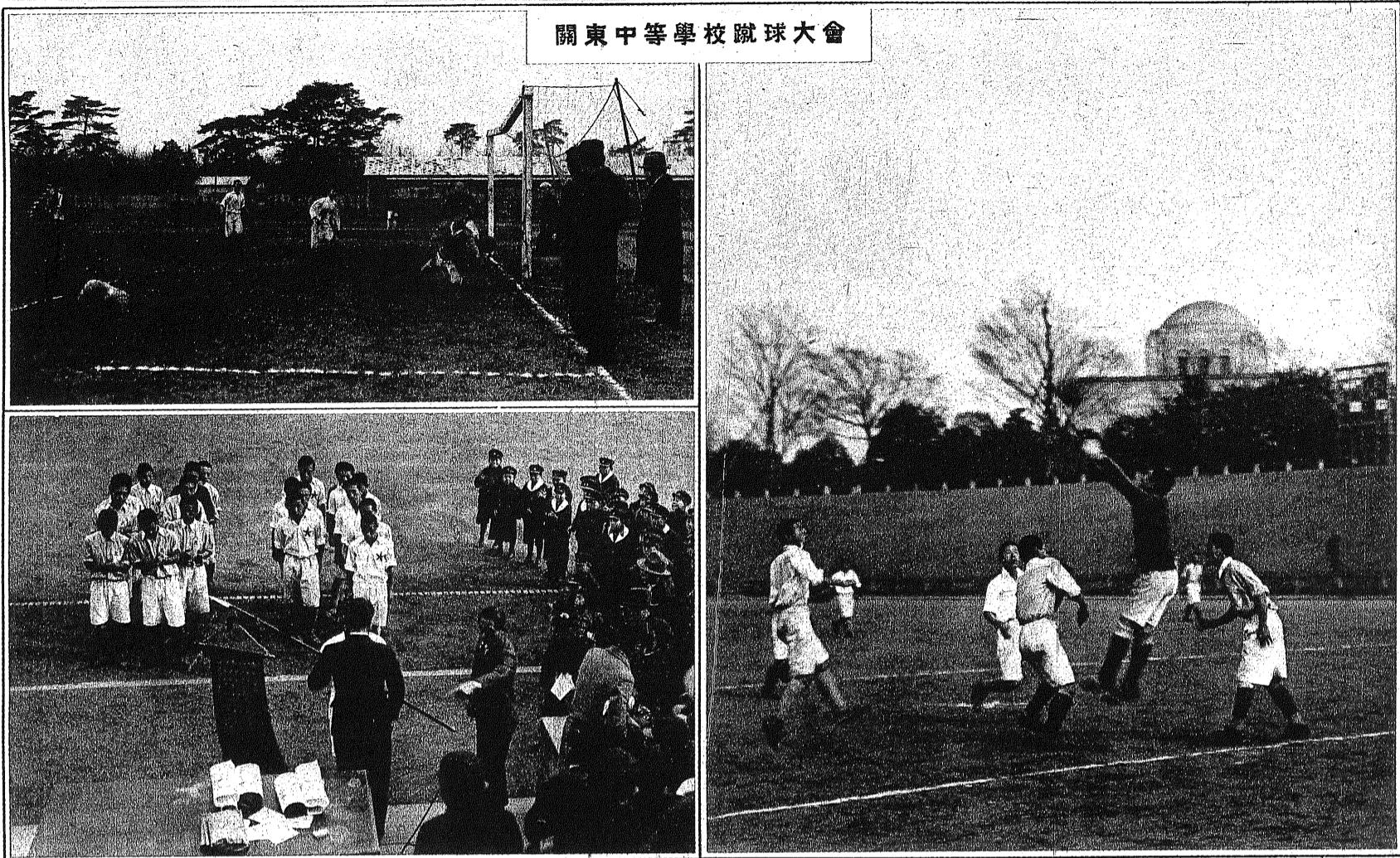
要するに「攻撃の不振は必ず守備の不振を生み、その守備の不振は攻撃の不振を加重する」との竹腰氏の某試合感想記をまさに彼自身に裏書きしたに過ぎない。

該ゲームを通じての現象として、僅かに前半34分ころの竹腰後藤、井出の三巴戦を除いては個人的競合といふものが少かつたこと及び中央線を挙んでの一進一退の川中島戦が如きミドルホールドにおけるプレー少く互に深く攻め合つてゐたことで前者は各プレイヤーが行詰らぬ前にパスしてゐたことを物語り、後者は各プレイヤーの動きの範囲の大なるを示すものを見るべく共に選抜されたものの質祿を示してゐる。



東西對抗蹴球試合は二月七日甲子園で行はれ6対3で關西が勝つた(上圖)前半、關東ゴール前に
迫つた關西の大谷、堺井、永野君が關東バツクを抜いて永野君得點したところ(中圖)後半關東
市橋君のショットがポストに當つたが更にそれを高山君シュートし關西ゴールキーパー丹羽君
好防するところ(下圖)後半關東市橋君のショットを關西の丹羽君止めんとするところ

Kanto-Kansai association football game, Koshien, February 7, won by
Kansai. Top: Nagano (Kansai) scores. Center: Niwa, Kansai goalie, stops
a shot by Ichihashi



関東中等學校蹴球大會は一月七日から毎日曜東京上井草球場で行はれた(上左)第一回戦の光景(下左)優勝した青山師範の主将安室君が優勝旗を受ける(右圖)青山師範對東京五中の優勝戦に青師杉山君の長蹴をセーブせんとする五中のゴールキーパー

Kanto intermediate school association football series, Sundays from January 7 to 30 inclusive. Top-Left: View during the first round. Bottom-Left: Captain of the Aoyama Normals receiving the victors pennant. Right: final game between the Aoyama Normals and the Tokyo Fifth Middles.

観衆は此ゲーム

に期待した何物かを需め得なかつたのではなからうか。その物足りなさは關東軍に囲志なきことに起因してはゐないか。

由來多くのビッグゲームを常に關東軍に一步譲らねばならずまた少くとも勝を制することの出来なかつた關西軍が、このゲームにおいてこそは日ごろの不覺を償はんとの氣持から、對關東闘争心を燃ならしめたに反し關東軍には一層となつてどこまでも關東に名を得しめようとの氣概がなかつたやうである。唯スター・プレヤースの集合以外、何等精神的背景を見得なかつた。

敢て關東、關西の意識的對立を求めるのではなく、また現時プロレタリヤスポーツにおいていはれる「スポーツの集団性」を云々するのでもないが、一チームとしては技術的以外に或る纏つた意識を中心に戦争を續けるべきではないか。技術的向上以外には勝敗を無視する理想家にとつては知らず、少くともスポーツをエンジョイせんとする者にとつてはある程度までの氣分の纏まりと、孰は無視することは出來ない。

吾々はこのゲームをして單に臨時選抜軍の對立のみに止めたくない。全日本軍編成の豫備的ゲームとしても完全にある意識的團結が必要ではないか。

青山師範三年振りに優勝

関東中等學校蹴球大會を見る

宮本能冬

回を重ねること

こゝに十四、蒼然たる古色に包まれた優勝旗は三年振りに青山師範の把握する所となり、一月七日以來八日間に亘る大會は一月卅一日神宮スタディアムに最終の幕は降された。参加チーム二十九、戦ふ所即ち意氣に溢れ、勝敗の分かる所即ち感激は燃やされた。以下若人達によつて刻みつけられた足跡を顧み印象を記すこととする。

不幸一回戦に退場した古豪新進夫々相當に見るべきものもあつたが府立八中晴星等に不運の感は深い。前者は昨年3-1で青師を破り一躍關東の重鎮となつたが、今年はまんまと復讐されスコアまで逆に3-1であつたのは妙な因縁だつた。戦法としては大部分の責をH・Bが負はねばなるまい。G・K服部R・W大槻らの選手が多かつたが技術よりは精神的な壓迫が大きく働いてゐたのは事實だつた。後者は往年關東北を切り從へたことさへあつたのだが今日の實力では五中に潰滅するのも已むを

得ぬだらう。その他往年の強豪成城中も曾ての迫力は失せ、野武士の風貌ある水海中に4-1と開かれたのも寂しい。同じ一回戦組の柏壁、明學、千葉師は練習の跡こそあれ未成品の域を脱し得ぬし、慶賀、明中、立教中等では如何に善意の中立を守つても強しとはいひ難い。

二回戦では獨協中

の没落を勵かねばならぬ。古いことだが土屋渡川又笠原笠松と顔を揃へて断然たる強味があつたことも昔の夢。同じ思ひは目白中にもあらう。尹のやうなズバ抜けたフットワークならずとも田村級の名手を輩出せしむるに難くはあるまい。兩者のために奮起を望む。以下府立園藝川越中、不動岡中、本郷中と二回戦組を同一水準から眺めておくが、眺め切れないのは五中を幾度か死地に陥れた日大二中の善戦とG・K川本の素晴らしき好防であつた。

亂軍の中に奮迅のプレーを示したG・K西海は府立二中が青師の銳鋒を九點に直撃止めた

最大の殊勳者であつた。なほこの准々決勝では埼玉師の堅壁に向つて華々しく戦ひ、前半一指だにそめしめざりし府立一商の健闘は賞讃に値する。中村以下のH・Bが石川、牧野、G・K八木と合縱しての奮戦は目ざましかつた。

去年は決勝に残つた青學中が不運に附け廻されて五中の軍門に降つたのと、レギュラーを一人失つて北海道に名を成さしめた東京高等の不運とは深く同情を寄せねばなるまい。この四チームの實力には甲乙無してあらう。

准決勝試合は

五中と埼師、青師と水海中で行はれた。優勝第一候補で、昨年度の覇者埼玉師範が烈風中のゲームに思はぬ不運をとつた、1-0こそ彼等には忘れられぬものがあらう。九月の全國大會でも七分の勝目を持ちながら急轉直下静岡の軍門に降つたり、御影師範を粉砕すべくして惜敗したり、今年の埼師は遂に不幸から脱し得なかつた觀があつた。

虎視耽々十四年にして漸く覇者たりし一年前から碎身の練習を積んでこの不運は同情に堪へぬ。統制のとれた各ライシの粒捕ひは二十九チーム中の白眉であり確實を誇るバツクメンの堅陣は自他共に許すNO・Iたる貴祿十分ながら、雖をいへばさゝか小策を弄し過ぎる。

古武者を擁してこの缺點は解し兼ねるがもつとも師範チームとしての特徴に徹底して行つた方が得策では無かつたか。何れにしても過渡期であることは去年青師がなめた敗北と、同一の轍を踏むものと見ねばからぬ。水海道中は此處まで來たのは寧ろ出来すぎた觀さへあつた。強引以外に術のない同チームのためにもつと組織的な戦法が望ましい。

決勝戦の顔合せ

は一昨年と同じで興味津々たるものがあつた。此日のゲームを支配したのは實に兩軍H・Bの持久戦であらう。青師方のH・Bがザエラン新井以下杉山飯泉と疲れを知らぬ奮闘に引き換へ、病後の西島にC・Hの重責を負はしめねばならなかつた五中としては乙骨、佐竹に四面六臂の勇ありとも五分の角力は時間的に當然くづされよう、戦前の豫想既に斯の如くであつたが果して1-0と優勢裡に前半を終つた五中が、時と共にディフ

エンス漸く亂れ高橋、上田の兩F・Bの負擔はG・K名手不破にして遂に補ふに由かく、二十分にして敗色頃に濃厚となつた。一方青師も頗る不調で宿將吉岡の失策は屢々ピンチに見舞はれ、五中のR・W大槻に往年の猪突の意氣がにあらば何う轉んだかわからない。G・K菊地が優勝チームには珍らしい脆弱なプレーを示してゐた事から此の感は更に深い。

前年早くも此の弱點を狙つて盛にキック・エンド・ラッシュの戦法で進んだ五中の策戦は當を得たものであつたが遺憾ながらセンタースリーにダッシュが足りず新井、杉山の挺身プレーに潰されて丁つたのは是非なき結果であらう。かくして冬陽を浴びた芝生に2-1のスコアは掲げられて三年振りに青師に制覇は成つた。



三月六日甲子園で行われた東西O・B蹴球試合において関西の追撃を關東の奥野君が防いでゐるところ

Kanto goal-keeper blocking the ball in the Kanto-Kansai O・B association football game at Koshien, March 6.

昨秋來歩一步とプレーの向上に邁進しへ毎に關東軍を敗退せしめて來た關西蹴球界の確實味はもはや斷然關東軍を壓し「蹴球の殿堂關西に移動す」とサッカーフアンの誰もにも考へさずに至つたことは京大、關學チームの關東のそれと斷然異つた特徴を持つた組織的サッカー修練に精進したお蔭である。

本質的なサッカー研究よりも日本のサッカー、日本人に則したサッカーを基礎としての科學研究において、關東チームの殊に竹腰式のそれと秀でたるところが關西軍の強味となつたことは確かである。

竹腰式もサッカーブレーカーのティビカルなものに違ひないが、それではやはり支那代表チームと引分けをするやうなチーム以上に向ふしない、一昨年の極東大會の支那代表チームによく似たチームにしかならない。やはり日本チームはいはゆる日本獨特のプレーを持つものでなければならぬ。

日本人獨特のプレー振りとは何かそれは個人的にはランニングの強いこと、キックの正確なこと全體的には均齊の取れてあること。しかも絶対に個人プレーにならずスピードのあるコンビネーションであるべきだ。

昨年度關學が京大を破つたのも東西對抗に關西軍が勝つたのも、また此度のO・B對抗戦もあらゆるゲームを通じて關西には關西獨特のプレーがある。是は日本のプレーと名づけてよいものだと思ふ。

第三回東西對抗O・B戦は、個人的には或は關東軍に秀でたる關士が揃つてゐるかも知れないが餘りにも切り離されたプレー振りだつた。

FW線を眺めても關東軍FW

第三回東西O・B對抗蹴球試合

關東振はず關西見事に勝つ 日本蹴球を代表する關西獨自のプレイ

岩野次郎

線は、前歯の抜けたやうな感じがする。しかもランニングの特に遅い所、横の連絡のない所シートに自信ある者のない所は得點するに到らない。關東軍の缺點だつた。

關西方FW線 はどこといふウインクポイントはない。しかもピカ一もない誰もが同じやうな強さで理想通りにオフェンスの強味を有してゐる。一番弱味と思はれた琴井谷がむしろ光つてゐた。二点も單身關東軍のFB線を割つてドリブル・アンド・ショートに成功してゐる。FW線は四分六分の割合だつた。鹽澤、鈴木重の配列は順當でない。途中で竹腰と、鹽澤を入れ替へたのはむしろ關東軍に自信のないことを示したものだ。

H B 線は先づ五分五分の割合だつた。東西共にこのHB線は一番強い所だつた。竹腰、瀬田もよく頑張つたが西村、杉村の奮闘も見逃せない。殊に病後の杉村の奮闘は相當關西軍の強味となつた。關東竹腰の縦横無盡な強引振りは却つてFW線を亂し、FB線に位置の判断をにくらせた。

FB線は 七分三分であると思ふ。殊に後藤の確實なプレーはゴール前のセイヴィングに安心せしめた。關東FBは全然自信なく、互ひにゆづり合ひ、しかもたゞ自信のないゴ

關 西		4(1—0)1		關 東	
鈴木	(帝)	谷	(御)	井	師
横岸	(早)	城	(慶)	城	(慶)
伊藤	(文理)	澤	(關學)	澤	(關學)
鈴木	(帝)	玉	(早)	井	(早)
稻	(帝)	西	(京)	村	(京)
竹	(帝)	杉	(早)	村	(早)
濱	(慶)	後	(慶)	腰	(慶)
城	(帝)	大	(慶)	前	(慶)
船	(帝)	瀬	(慶)	殿	(慶)
小	(帝)	米	(慶)	澤	(慶)
奥	(帝)	門	(慶)	脇	(慶)
		GK	渡	邊	(學)
		26		10	
		3		2	
		4		4	
		1		0	

ルキーの活躍をぶらせてゐた。關西方渡邊位の自信を持つことは、GKとしては當然必要だ。

先づ關東の敗因はFW線が個人プレーにたり勝ちでハーフのフォロー不足がなほ薄い攻撃力となつて現はれたこと、またFB線の不振とFB線HB線に開きが大きすぎたため逆襲に逢つて何ら防禦姿勢になれたかつたこと關西軍は全員一致し殊にHB線とFB線の厚いディフェンスは關東のFWのコンビネーションを崩すに十分すぎた。懲をいへば後半の終り頃に兩軍共疲労を見せゲームの進展がおそくなつたとは面白くないことだ。

試合経過

【前半】關西風を背にして順風に帆を上げたる如く關東陣をひた押しに攻め五分LW結城のバ

たが後藤のキックによつて逃れた△三十五分關西清家のセンターリングを檀野受けで玉井にパス、玉井すかさず強球を放てばGK奥野の正面にあたり奥野バーの上を越えてCKに逃る△四十一分關西結城のセンターリングを檀野、玉井これを看過するを清家ゴール左隅を割つて先づ最初の得點をあげた。

【後半】位置を變へて關東優勢を持したが△十二分關西清家右タッチに沿うてドリブルし玉井バス、玉井關東O F竹腰に阻まれたが檀野に渡し檀野そのまま蹴つて得點△その後關西は清家のロングバスを琴井谷ドリブルし關東R F船岡をかはして得點△十九分關西またも琴井谷のドリブル・エンド・ショートで得點を重ねて大勢を決した△二十六分關東は關西のハンドにPKを得、竹腰のシート見事に入つて漸く一點を奪ふ△その後兩軍疲労の色見えボールの運行は遅々として進まずタイム・アップとなる。

豫期以上の勝利

——★——

關西チーム主將 玉井操

O Bの試合といへばダルゲームと考へられ、然しながらこの試合は自分の感じた所スピーディーなゲームであり、稀に見る猛烈さ眞剣さ、且つ内容の豊富な試合だったと思ふ。

關西軍は門脇君が軍務關係上の出場出来ず、渡邊君、松村君また軍務のため前日までその場の

可能か否かさへ判明せず加ふるに西村君も病床にあるなど、チームの統一と編成上かなりの心配と焦燥の中に當日を迎へた練習の點から見るも各ブレーカーが阪神間その他廣汎なる區域に居住せる關係上纏つて練習する機會なく唯漠然と機會ある度毎に不揃ながら練習したに過ぎないのであつた。

◇—◇

關 東軍の陣容を見た時負けるとは思はなかつたがそのゲームの經過並にスコアの上にかかる大差を生ずるやうにならうとは思へなかつた、全く豫期以上の好成績であつたといひ得る、各ラインに中心的ブレーカーを配した事、各ブレーカーがよく一致しての結果そのチームワークを見るべきものがあつた事及び個人的技術において全般として關東軍が優れてゐた事等にその勝因が求められる。

關東軍はフォワードに全般威力なく關西のバツクメンに完全に封ぜられ且つフルバツクも豫想外に不振で關西フォワードハーフの乗ずる所となつた。

關東軍ハーフ、フル共に出過ぎ且つかたまりすぎた結果關西軍の深い縦のバスが有效にチャンスを作つてゐた。

◇—◇

後 牛の終り近くると流石O・B選手とて各人に疲労の色が見えた事は争はれない、練習不足のためである、やはり練習、少しでも多く練習する事、然も纏つて練習する事の必要缺くべからざることを如實に證明した。

日本人の惡習ともいふべきか、學校を卒業すると若々しさが無くなり老人臭くなることを考へると此種O・B戦の開催は決して無意義でない事を深く信ずるものである、所謂現役にお

※ 右ページへづく

※ 左ページからつづく

いて見る事の出来ぬ老手、面白味が多分に見られる。

從來關西は關東に比し見劣りありと思はれ、また思つてゐた、然し昨年來その實力はその差殆んど見られず、更に本シーズンは完全に關東を押へた、然し一方これを個々に見る時優秀なるチームの數においては關東は優れてゐる、自分はドイツチームの遠征を目前に控へ關西に於て關學、京大に相匹敵すべきチームの出現を望んでやまない、關西大學、同志社、大阪商大、神戸商大、兵庫高商等の奮起を祈る次第である。

良い刺激を得た試合

關東チーム主將 濱田 謙吉

暢 島と試合をエンジョイする様な氣持になり切つてゐるのは勿論の事、現役の連中に劣るとか衰へたとかいはれると人一倍口惜しがつて貞惜しみ——自分ぢや正當の事をいつてるつもりだがどうも甚だ心外にも他の奴等はそうとるらしい——を並べるのが俺達だと誰かがいつた。

それだけにたとへ試合に負けても大抵のことなら弱音を吐かないで、この次にはきっと勝つてやるぞと昂然といひ返せるんだが、今度の試合だけは完全に敗れたといふ氣持が先に立つて何もいいなかつた。

全 關東が慘敗して連年

てゐるとの信念がペシヤンコに

なつた直後とて今度は決して相手をナメタとか見縋つたとか、ふ氣持はサラサラなく、全くO・Bの手で全關東の用合戦をするつもりだった、それなのに此日の關東O・Bの試合振りは全

く支離滅裂、個人としては夫々其最善を盡したといへやうが、チームとしては何等の纏まりもなく、前半戦にはリードの機會もあつた様に思はれたが、後半に至つて脆くも潰滅し去つた。

敗因としては、FW高山君以下二三有力な脚士の缺場によりチームの不整頓を來し、ハーフ・タイム直前一點を先んじて調

子に乗つた關西軍のためにその弱點をつかれたこと、二月中毎日曜日に舉行されたO・Bリーグの樂戦に馴れ過ぎたこと、並に遠征の不利等が挙げられるだらう。

としての進歩向上に、又後輩選手の指導に一層の精進を積むたいとの新鮮な氣持が湧上るのを覚える。

それに次にはドイツのチームも來朝することだ、近日中に新しくO・Bになる新銃を加へてもう一度自分らは頑張る。

然 し敗れたからといつてもまだ勝利の喜びを夢見ることを忘れない自分等は決して悲観してはゐない、却つて昨シーズン中に目覺ましい躍進を遂げた關西蹴球界の人達に敬意を表すると共に、新しく之に對抗意識を燃し自身フットボーラー



三月六日甲子園で行はれた東西O・B蹴球試合に關西の琴井谷君がドリブルからシューして第二點を入れるところ

Kotoidani (Kansai) scoring the second point in the Kanto-Kansai O. B. association football game.

OB蹴球リーグ戦展望

東大OB豫想通り勝つ

乗富丈夫

二月二十八日

今シーズンの掉尾を飾つたOBリーグ戦も帝大OBの優勝に無事その幕を閉じた。第三年目を迎へてOBリーグ戦も年毎にその形式と内容とを整へ、力強く将来に何者かを約束する如く思はれるのは蹴球の進展にとって慶賀すべきことである。

覇権は帝大OBの手に把握されて、帝大OBは三年連勝の記録を残した。このリーグ戦の戦績を一瞥すれば

帝大OB=三勝一引分△BW(白耳義大使館)二勝二敗△慶應農大聯合OB=早稻田法政聯合OB各一勝二敗一引分=文理大明治聯合OB=で、聯合チームは同成績であった。本年度

東大OBの陣容

は竹腰、鈴木、岸山、奥野の老朽に新進高山、稻田を加へて帝大自身としてもまた他チームに比しても斷然充實せる内容を盛つてゐた。

然し乍ら豫測の如く優勝はしたものゝその顔ぶれの割合には期待された程の華々しい活躍は見られなかつた。統制された戦法や個人技術としての巧妙さは十分うかゞはれたが。

BWはその顔觸にも前年に比し二三の變更が見られてチームとしての強さにもまた努力にも大いに見るべきものがあつた。チームとしての統制は相當よく行はれて居るがその間體力や技術上の格段の差異がチーム全體にむらを興へてゐた然し乍らその進境に見るべきものがあつたが最終の對帝大の試合に於て己

むなき事情とは言へ棄権を以つて敗退したのは遺憾な事であつた。

慶應聯合OBは大體慶應六、農大五位の割合の編成にて、其の統制、及び闘志に於ては他チームに比して賞讃に倣するものがあつた。慶應の濱田、小池、農大的城田を中軸として組合を完成して善戦した。

文明聯合OBは文理大六、明治五の割合にて、チームとしてはむらがあつたが、文理大の鹽澤、明治の原田、伊藤を中堅として、堅實に戦つてゐた。特記すべきは

多數の古顔

の参加である。即ち佐々木、小野、野澤、井染の諸氏の出場は古き蹴球を知るものにとつて懐かしい場面であつた。

早法聯合OBは早稻田の鈴木野村、横村、法政の渡邊を主力として、早稻田七、法政四の割合の編成にて、前年の全敗を盛返へして將來を期待せしむるに足る活躍を殘した。

OBリーグ戦を概観して前年に比してその統制、戦法等に向上せしめられた個々の諸點を見遺す事は出来ないが急速なチームを以つて整備され、發展しつつある蹴球界にあつて、些かの遺憾と期待すべき多くをもつとも否定出来ない。

リーグ戦を顧みて

特記すべき何ものもない。その組織において、また戦法、技術、體力等について見るべきものゝ少かつた事は已むを得ない、としても觀る者をして些か落漠

過數による制限より来るものである。即ち恒久的のものである將來このOBリーグが各自獨立のチームにより対抗を目標とする限り、その數において殆んどカレッヂリーグ加盟校の數に近くなることは疑ふ餘地がない。その場合は如何にしてリーグ戦を行ふかは近き將來に必ず提出せらるべき問題であらう。

その時に再びこの聯合編成が規定的恒久的方法として問題とされるであらう。元来リーグ戦においてはトーナメント式の大會と趣を異にして、最後の勝者を目的とするよりもむしろ、一試合毎に内容あるものとする必要と責任がある。量的よりもむしろ質的な内容が期待されてゐる原則よりすればOBリーグにおいてもその數的な擴大よりもむしろ質的な充實が望ましい。

過去二ヶ年

の苦難を混沌の域を脱して、浮び上つた光明を見出したOBリーグ、たゞ春秋に富むOBリーグの創生時代にあつて、將來を如何に推進すべきかを慎重に検討するの必要を十分に感ずるものである。かかる意味において聯合編成の缺點を拂し聯合編成の完成を企圖するも徒爾ではないでなからうか。

OBリーグにおいてBWチー

ムの存在は皆が奇異の感を抱かせる。然しながらリーグの成立を顧るならば、ベルギー大使を中心とする在京外交團の功績は忘れ難きものであらう。このリーグ戦の發端において起因をなし、動機を興へたのは正しくこのBWであった。本年度までのリーグの形式としてはBWを包含してその目的とする所や收穫は別個の問題とし同一進路を辿るものである。將來においても兩者が同一軌道上にあるべきか否かは残された問題であらう。

未完成より生ずる

幾多の不備不満はリーグ戦としてのOBチームに物足りなさを興へてゐるがリーグとしての間接の收穫は見通し得ざるものがある。即ちそれは一度學窓を離れてより或は蹴球とも疎遠になり勝ちなりし人々をゲームの興奮の中に投じて、再び蹴球に對する心と興味と研究とを喚び覚まさせて、相互に親睦を加くると共に、OB自身の向上と共に蹴球全般の動きを見るの機會を興へた事である。蹴球界の中堅として大いに活躍を期待されつゝあるリーグOBの横の連絡はかくして得られて、カレッヂリーグ及び蹴球全般の推進に役立つであらうことはOBリーグ戦のもたらせる最大なる收穫であった。

聯合の編成

はかかる點より、その統制のみならず戦法や位置についても不利な點が多い。この不利なる聯合編成に關しては二様の觀察がなされ得る。即ち一は上述の一時的便宜法によるものであつて、他は將に叢生の機運にあるカレッヂリーグのOBチームの

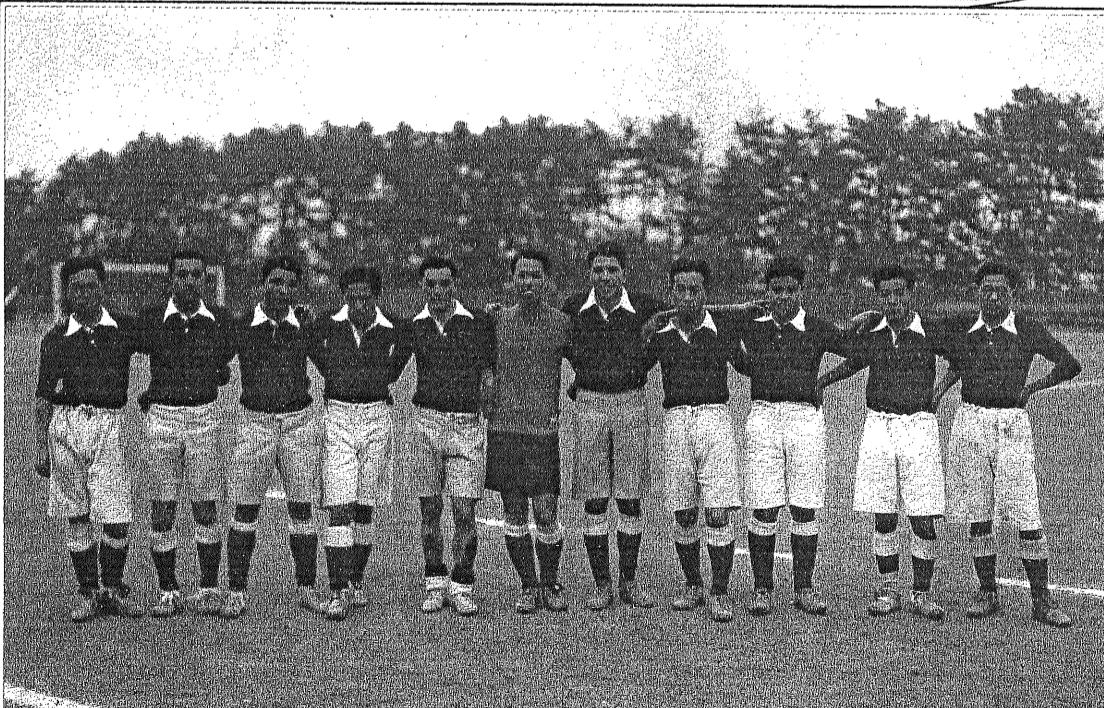
S7-3-15

関西OB 4-1 関東OB (3月6日 甲子園)

東西OB 対抗蹴球試合



東西OB 対抗蹴球試合は三月六日甲子園で行はれ 4 対 1 で関西が勝つた(上圖)関東のフォアワード突進したが關西のGK渡邊君これをかはして逃げる(中圖)後半十三分關西の琴井谷君が得點する瞬間(下圖)勝つた關西チーム



Kanto-Kansai O. B. association football game, Koshien, March 6, won by Kansai, 4 to 1. Top: Kansai goal-keeper blocking an advance by the Kanto forwards. Center: Kotoidani (Kansai) scoring thirteen minutes after the beginning of play in the second half. Bottom: Victorious Kansai team.

英國カッブ・ファイナル蹴球試合挿話

在ロンドン 千葉生

A PEEP INTO
THE FUTURE
CENTENARY
PILGRIMAGE
OF ARSENAL
FANS IN
THE YEAR
2032

'ERE Y'ARE LADIES & GENTLEMEN THE BRASS PLATE MARKS THE
H'IDENTICAL SPOT WHERE IT APPENDED ON H'APRIL THE TWENTY THIRD NINETEEN THIRTY TWO!

To THE SCENE OF SATURDAY'S DISPUTED GOAL!

十萬の観衆

イギリスのスポーツ界でアメリカのワールドシリーズ野球戦に匹敵する地位と人気とを有するものは毎年シーズンの終りに行はれるウェンブレーのカッブ・ファイナル蹴球戦であらう、フットボールはイギリスの國技であるから皇帝も毎年この蹴球戦に臨幸あるを常としてをり、全國から集まる觀衆もウエンブレーの大スタンドを埋めつくして十萬を下らない。であるからスポーツ・ファンの血を湧かすこと日本の早慶戦に比して優るとも劣らない。今年のカッブ・ファイナル戦はシェークスピア誕生記念祭（四月二十三日）及びアヴァン劇場（沙翁劇場）開場式とかち合つたが、世界的の行事だらうが何だらうが、カッブ・ファイナルの人気には敵は無いのである。

土地としては未曾有のお祭騒ぎをやつた、寒村アヴァンに於てさへ村人の心はカッブ・ファイナルに奪はれてゐると土地の新聞が告白した。それだけではない數年前國の死活に關する總同盟罷業が行はれ、交通機關も止まり、新聞も少なかつたあの數日間に何を國民が一番知りたかつたか、それはカッブ・ファイナル。

リザルターである。十何哩をくつてもこの一戦だけは見落せないといふ熱狂ぶりである。

問題のゴール

ところで今年のこのカッブ・ファイナル戦に飛んでもない失態が持ち上つた。話の順序として該カッブ・ファイナル戦の経過を簡単に述べると今年該ファイナルに勝残つたのはニューカッスル・チームとロンドンのピカーチームアーセナルとでこの決勝戦にこの兩チームが白熱的接戦を演じたわけなのだが、前半アーセナルまづゴールを獲得しニユーカッスルついでゴールしてタイとなし後半ニユーカッスルの一ゴールで試合を決定したのであるが問題となつたのはニユーカッスルの最初のゴールである。即ち攻勢に出たニユーカッスルが球を追つてゴールに攻め寄せた際、球がゴールラインに觸れると見えた瞬間アウトサイド。プレーヤーは漸く追ひついでこれをフックしインサイドに蹴返しこれを受けたプレーヤーが直ちにゴールとしたものである。

この時近くにゐたアーセナル側のプレーヤーは直ちに球がラインの外に出てゐたことを主張してプロテストしたが

レフェリーはこれをとり上げずゴールの裁断を下したものである。ところが寫眞で見る通り球は明かにゴールラインを越してから蹴返されてゐるのである。レフェリーはこの時、早い球に追ひ付けずはるか後方にあり、二人のライズメンも球から可なりの距離にあるから、之が判らなかつたのも無理はないといへるが、アーセナルにとつては何としてもあきらめ切れぬ一點である。

ファンの態度

さて僕はスポーツ専門家ではないからこゝで蹴球のルールがどうかうといふ問題を持ち出さうとするのではない。僕が興味を感じたのはファンの態度なのである。断つて置きたいのは敗けたアーセナルはロンドンの地元のチームであることだ。

無論觀衆も相當騒ぎ立てたが、レフェリーの裁断は最終である。夜になつて活動寫眞によつて誤審が明になつた時

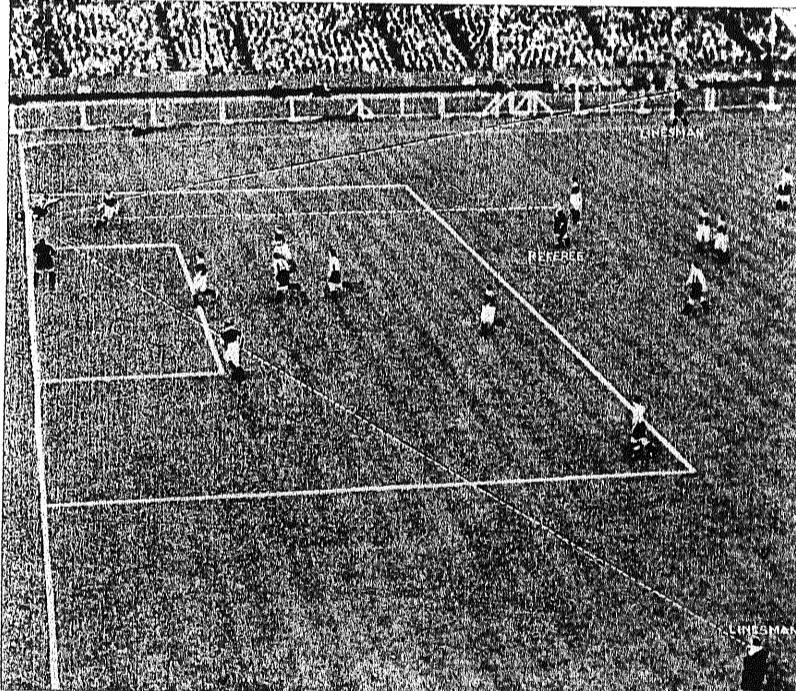
アーセナル側は何といつたか。『フィルムによつてその點が明かになつてゐるとすれば吾々は恐ろしく運が悪かつたわけだ、しかし勿論これはどうしようもない事だ、審判が裁断を下した以上それが最後である筈だ』と。そしてその夜恒例の兩チーム合同の晩餐會で互に敵の技術を賞め合つて、互に敵方の色の服を着てこの一夜を楽しく踊つたのである。

新聞も寫眞によつて誤審の

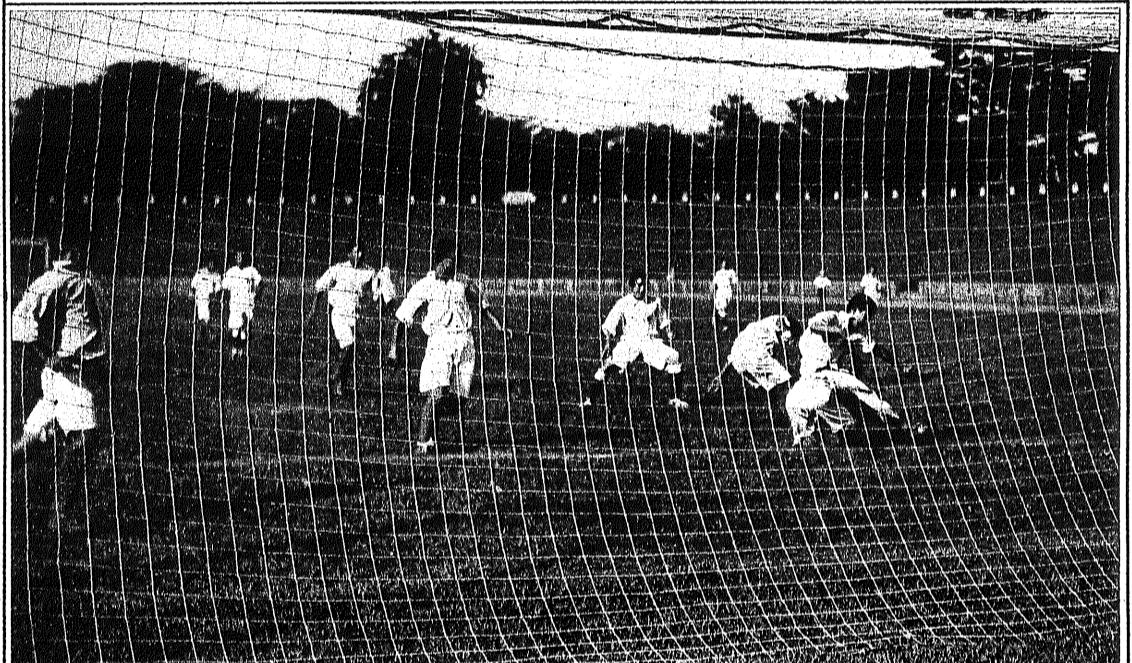
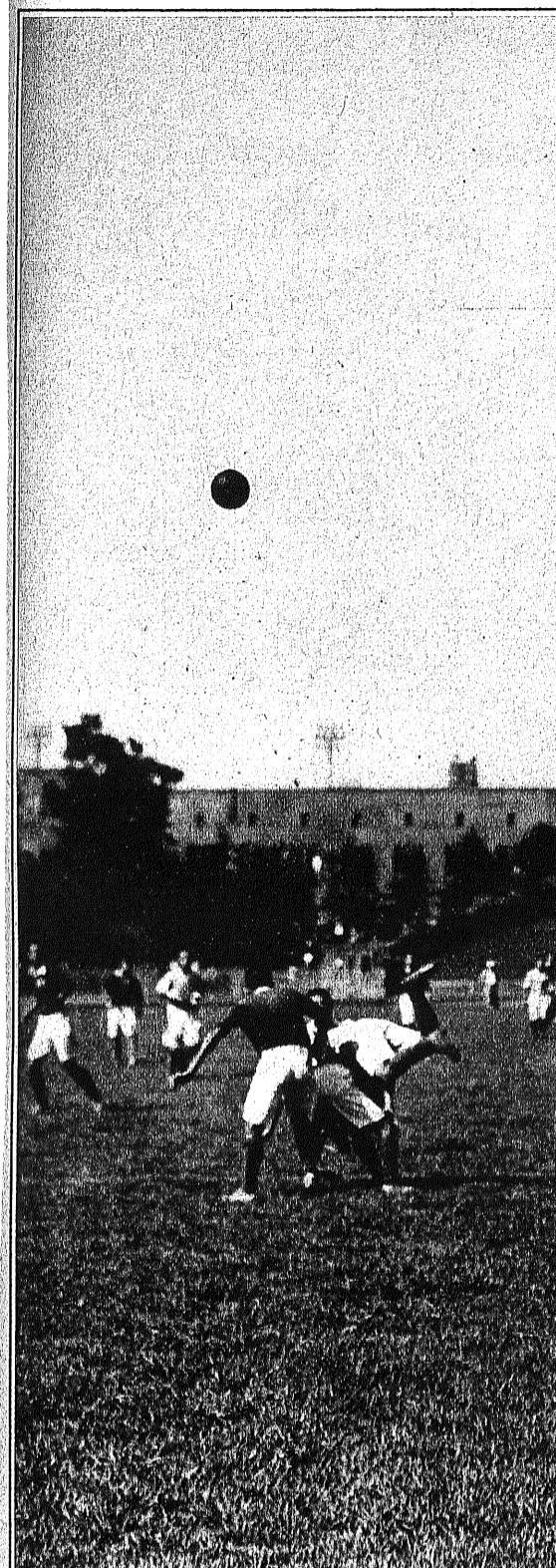
事實を指摘はしたが、孰れも試合の勝敗はニューカッスルにあつたとし、より善きチームが善きチームに勝つたのだとしてこれを咎めだして口吻をもらす者もなかつた。ある新聞などはニユーカッスルが勝つゝ事をした、ロンドンが勝つたのでは大都會のことだから何のことはないが一番深刻な失業苦に悩んでゐるニユーカッスルが勝つて市民をうるほすことの出来ただけでもいいことだと皮肉でなしに書いてゐた。そしてユーモア好きの英國人はいきり立つ前にこれを漫畫化してゐた

英人氣質

漫畫は「問題のカッブ・ファイナル百年祭」といふので問題の球がラインから出た箇所には真鍮板がはめ込んである百年後のアーセナル・ファンが此記念日に押すな押すなで古跡巡視にやつて來る圖で説明者が「この真鍮板のはめ込んだ所が百年前の今月今日問題となつた箇所であります」と説明してゐる。これが英國のスポーツマンシップでありファン氣質である。若し日本でこんな事が起つたら、かう簡単に事がおさまつたであらうか。【寫眞はフジルムに收められた問題の寫眞】



S7-9-15



東京文理大學主催の全國中等學校競球大會は八月二十五日から神宮競技場で行はれ第二部は京都師範、第一部は附屬中學が優勝した(左圖及び上右)京都師範對埼玉師範の第二部優勝戰光景(下右)志太中學對東京附屬中學の第一部優勝戰の光景

The Intermediate School Soccer Games were held under the auspices of the Tokyo Bunri University at Meiji Shrine on and after Aug. 25, in which the middle school attached to the university won in the first section and the Kyoto Normal School in the second section. Left and Top-Right: Final game in the second section between the Kyoto Normal School and Saitama Normal School. Bottom-Right: Final game in the first section between the Shida Middle School and the attached middle school.



東京カレッジ蹴球の帝大對文理大學の試合に帝大の利田君得點したところ

Association football, Tokyo Imperial vs. Bunri.

東京學生蹴球の陣容を語る

☆ ☆ ☆ ☆

豫想される今シーズンの波瀾

☆ ☆ ☆ ☆

竹腰重丸

前哨戦？決勝戦？

今シーズンの蹴球東京カレッジリーグ第一部の試合は例年よりも早く十月一日から開始され帝大對一高戦を勝負に同日早大對農大、十月八日に慶大對農大、

および帝大對文理大更に二十一日慶大對一高と既に五試合を経過し日程の三分の一を終了した。毎年試合毎に多少の曲折はあるがながらも全般を通じて、またシーズンの終末近くに達した強

さから見れば帝、慶、早の三者は他の三チームに比して一段上位に在ると考へられ十月月中旬には、諸試合は前哨戦的なものとせられて居たけれども今年は目下のところ各チームの實力は

紙一重の差に過ぎないために各試合皆非常な熱戦となり戦前の氣持はもとより結果からいつてもそれが前哨戦か決勝戦か判断に苦しむ場合が多い。

プレイの傾向

しかし各チームとも未だ十分に経つ感じを與へず素材のままで試合してゐる感が深いので十一月の初旬を過ぎなければ各々の技術的特色を抽出することは困難であるが概略的にいつて傾向としては前年を受け継いで何を置いてもスピーディな試合、テムボの速い試合をと望んで練習してゐる様に見受けられる。基礎技術の進歩するにつれてスピーディになりテムボの速い試合をする様になるのは自然であるが昨年以來の傾向は無理であるが、それでもその傾向を作つて、それに慣れるのを待つといふ行き方である。従つて三、四年前に見た器械の様に正確なパス・ワーク、相手の逆をとつて滑らかに進む巧味もなければ、ジリジリと相手を重圧のうちに押し抜めて打ち取る守備も見られない。

然し乍ら三、四年前に現在よ

りも緩いテンポで行はれてゐた試合運行方法の觀念だけは飽き必要であつて各チームとも如何にして現在のテンポのうちにそれを盛るべきかには心掛けであるらしく思はれる節が多いがそれには一般選手の球慣れの程度が低く又基礎技術のフォーム研究が不足なために現在十分に目的を達してゐるチームはなく又今シーズンの末になつても達し得るチームは僅少であらう。

フォーム研究

フォーム研究の不足はすべてに現はれてゐるが簡単な例について見てもキックする際に腰を後に引いて足先から振るフォームのものが優秀チームのうちににも可なり多く見受けられそれらの選手は激しく動きながら強く正確なキックをすることが出来るためにロング・パスは荒れ、またシューイングの前にドリブルの速力を落したりしなければならぬために寸時の差で相手に潰されたりして居る。

同様のことはドリーリングにもヘッディングにも、タフクリ

ングにも現はれて居るが、フォームの研究不足といつても今まで最善であったものが通用しなくなつて新しいものを求めねばならなくなつたのではなくて從來最善であったものに適しさへすれば現在位の速さには十分に順應出来ると思はれる。基礎技術に照應しない速さに直ちに入ることは可なり危険なことであるとはいへ一定期間を一計画期間としてなら効果を挙げ得ると信ずるがそれも基礎技術のフォーム研究を伴はぬ練習では全く砂上に樓閣を築かうとする努力に等しいといはなければならぬ。

激刺たる試合

兎も角も今までの諸試合は粗雑で巧味に乏しいことは多少の物足りなさを感じるけれども勝敗豫測の困難な事と關聯して各チーム揃つて闘志は非常に旺んで、一高は先づ帝大と戦つて捨身の強味をあらはして人を感嘆させ、帝大は一高との試合には我等帝大出身者には情なく思はれる程氣力のない戦ひ振りであつたが次の文理大戦には餘力

↙左下へづく

↙右上からづく

を残さず戦つて、文理大と共に怒濤の様な猛襲、爆撃の破裂を思はせる強力なタックル等諒味のあるプレイの連續に技術的な巧味は兎も角として氣合の籠つて居ることからいつてこれを今シーズンの優勝戦としてもはづかしくない試合をした。早大對農大の試合に於てはすべてに優越してゐる早大が強気に出たのは當然として兩者のグラウンド一杯の布陣は農大が飽きても強氣に戦はうとした證據で二對零と早大が決定的に得点する迄の戦況は目覺しいものゝ一つであつた。

慶大も對農大試合には農大の闘志とキック・アンド・ラッシュ式戦法に押されて危ふ氣の多い試合をしたが、二十一日の對一高戦には焦慮のため點がきまらない傾きがあつたとはいへ既に回生の一步を踏み出したと見る事が出来る。何れにせよ今シーズンのリーグ戦は技術的な巧味、圓熟に興味を覚えさせるのではなくて、奔放に飽くまでも激刺として學生新技の名に相應しい闘志溢るゝ試合振りに無限

の感激を織り込むであらう。

早大への興味

今までのところ最も大きい底力を藏して危ふ氣を見せぬチームは早大である、老練で而も強引さを失はぬ主将井出君は多年のF・Bの位置を後進に譲つて新たにC・Hとなり吉澤、熊井兩君と共に攻守の核心となりチームの太い脊骨となつてゐる。未だ兩翼H・Bに多少の缺陷が見出されるけれども全盤として基礎技術の強さは六チーム中随一で奔放な戦略を成功させるには最適のチームである。F・Wの連絡は多少粗雑の傾きがあるが前記の三君からの良いフィードとF・W各人の巧みな球操作及び強力なショットによつて大きい得點を持つてゐる。

若しも對文理大戦に勝利しなければ満帆の勢で残る三試合に進むものと思はれ優勝の可能性は著しく増大する。しかして疲労を知らぬ十一人と最もすぐれた基礎技術を持つてゐるチームとして今シーズン何處迄伸びるかは非常に興味のある問題である。

二十一日の試合においては一高に對して個人的能力がすべての方面にすぐれて居るためにそれを利して樂に戦を進めたけれども、動きの激しい試合を豫想される次週の對文理大その次の對早大試合において果してこの缺陷を露はさずに戦ひを有利に導

帝慶の基礎技術

帝大、慶大は基礎技術の強さにおいて早大に一步を譲つてゐる。帝大はドリーリングの拙劣なことが著しく目立ち各方面に不利を招いてゐるがドリーリングにスピードがないために非常に有效なパスが出てそれを生かして決定的な寄せに移ることが出来ず又バックメンのファードの悪いこととバスの判断を誤ること等の多くドリーリングの拙劣に起因して居ると見ることが出来やう。

帝大の日程によれば農大との試合後對早大戦迄に約一ヶ月の練習期間を持つて居る。早慶に對して昨年までの歴史を守るためににはその期間の練習において一段と球操作の能力を高めることが必要であらう。慶大は球操作能力においてそのF・Wは帝大F・Wよりも多少上位に在るがH・B及びF・Bにおいては同等或はそれ以下でありなほキックについて見れば兩翼F・W及びバックメン中の二三の者以外フォームが出来て居ない爲に激しく動きながらのバスや滑るグラウンドでのキックには危ふ氣多く感じさせるものである。二十一日の試合においては一高に對して個人的能力がすべての方面にすぐれて居るためにそれを利して樂に戦を進めたけれども、動きの激しい試合を豫想される次週の對文理大その次の對早大試合において果してこの缺陷を露はさずに戦ひを有利に導



東京カレッジ蹴球の慶應對農大戦光景
Association football, Keio vs. Tokyo Aggies.

くことが出来るであらうか。

農大と文理大

農大は出来不出来の多いチームで體力、走力にすぐれながら一つの動作に移るのに滑らかさがない爲に一度外した相手に追ひ着かれて、折角の好機を潰したりバスに際して相手に先廻りされて思はぬ逆襲を蒙ることが多い。農大は六チーム中良くて最も奔放で、霸氣のある隊形を探り悪くいへば最も粗雑な試合をするチームである。農大の守備は全く個人的な頑張りによつてゐるが體格の良いために可なりの強味を持ち攻撃の端緒はL・B友納君のC・Fへの長蹴及びC・H石井君から相手C・Hを外してそのC・Fへ縦のバスを出す形に得てゐる。たゞ早く相手ゴール前に達したがらきめ手を持たぬことが大き

な缺陷である。

文理大も農大と同様段のつく硬い感じのプレイが多いが早慶農三者と同様すぐれた體躯を持つて走力のすぐれて居ることは非常に強味である。その戦法は簡単だけれども走力がそれを生かしました簡単なるが故に既に他よりも纏つて居る。對帝大戦には體格の劣つて居り未だ纏つてゐなかつた帝大を突き崩して活氣のある試合となつたが身體の調子に支配されることは他チームよりも甚しい事と思はれる

豫想される波瀾

一高は基礎技術の最も劣つたチームで體格も一番悪い。他のチームの選手と同程度の技術を持つ者は兩I・F、C・H及びG・Kと數へる程しかゐない。これは蹴球を始めて間もない選手が多いことから起るので或程度やむを得ぬ事であるが、

チームとしては最も基礎となるランニングの練習から始め先づ腰をきめて次に種々の技術に進むべきであらう。現在のまゝでは如何に闘志がすぐれてゐても亦G・Kの超人的な活躍があつても早大に對して例年の苦戦の歴史を誤り返すことは非常に困難であると信ずる。

ともあれ帝大對一高のシーズン冒頭の一戦が非常に接戦となつたことは今シーズンの波瀾を豫想させるものゝ様に思はれるその後の諸試合も結果において大差が出来ても試合内容から見れば皆非常に接戦が多く、勝敗は全く紙一重の差で順當に行けば覇權は帝早慶三者の一に歸するであらうけれどもその過程においては如何なる波瀾を生むか豫想困難で該三者と雖も何れの一戦も忽せに出来ない不気味な状態に在ると見ることが出来る。

(十月二十一日)

S7-11-15

早稻田對慶應蹴球試合
十一月五日神宮で舉行
2—2の引分となる



前半早大平松君のチャージを慶應ゴールキーパー細瀬君がノックする瞬間



Waseda-Keio Association football, Meiji Shrine, November 5, which ended in a 2 to 2 tie. Top: Goal keeper knocks the ball out of danger after a charge by Hiramatsu (Waseda) in the first half. Bottom: Goal keeper kicks a shot by Ichihashi (Keio) in the second half.

後半慶應市橋君の中央への送球を早大ゴールキーパー熊井君取つてキックせんとする剣那

※ 左からフグく

とを考慮に入れるは當人には氣の毒な反則であり、また井出君の剛球がゴール・キーパーの右側近くを通つたにも拘らず嶺嶽君とその際R・Bの位置に居た者との連絡悪く、飽氣ない一點を與へたために慶大は重苦しいスタートを切ることとなつた。この最初の一一點の後早大は矢つき早に機會を迎へ開始後十分までに更に一點を加へるかと思はせたがF・W中三人の連絡悪くクリーン・シートとならず又ゴール・キーパーが捕球して處理した後にチャーチする様な結果となつて徒らに焦慮してゐる感を與へた。早大が十分頃迄に更に一點を附加して二対零と離すか、或はまた、前半戦なかば過ぎ頃早大ゴール・キーパー熊井君が飛び出した隙に飛球がゴールに入らうとしたのをR・H立原君が急いでバツク・アップしゴール・ライン半位の處でヘッディングに返した直後早大が迎へた機会——兩軍に異常なショックがあつた後で好機だつた——に一點を加へて居たならば早大は後半戦更に得點を増したであらうと思ふ。更に又この立原君のヘッディングがなかつたならば前半戦に慶大は一対一と同點に回復する結果として後半戦には、更に樂に戦つて纏つたチーム・ワークによつて危氣なく勝つことが出來たのではなかつたらうか。

後半戦には

兩軍ともに前半戦の興奮から醒めて實力の片鱗を見せ、慶大は市橋君の不振により左側からの機會は少かつたがR・W駒崎君の快走によつて早大陣の左側を破り得意の型に入れて一対一

の同點とし、二対二と恢復した際の得點もC・H大崎君およびR・H右近君と右側F・Wの好聯絡から得たものであつてそれは慶大の對一高戦に既に銳鋒をあらはしてゐたものである。後半戦の早大は、そのH・Bは前半戦の奮闘に多少疲勞した感があるがたゞは且つ賞揚するに足るあたりを示して落ち着いて来た慶大に壓倒されず得點の機會も決して慶大よりも少くはなかつ

たがF・Wの聯絡不調によつて紙一重の處を破ることが出来ず洩れ球を得て得意の強戦に一點を擧げたに止まつた。

全試合を通じ

ての印象は兩軍共に固くなつて多少亂暴になつた傾きはあるがたゞは且つ賞揚するに足るあたりの強さと溢るゝ躍進とに依つて稀有の熱戦となり些かも情氣を見せぬ好試合であつた。

無勝負に終つた事及び豫想外に得點の少かつたのは緊張のあまり早大は得點を先んじながらまた慶應は後半押し氣味となりながら徹底的に試合をリードして各々自チームの型に導き入れ得なかつた爲と見てよからうまた大試合には老練選手が活躍するのが通例であるがこの試合はこの型を破つて慶應の右近君早大の立原、中村兩君等比較的若い選手が非常に活躍した。

の一つはFWラインに均整のとれないためスムーズなコンビネーションを現はし得ず關大バツクをして容易にマークせしめたことによる。

L・H川西、C・H三崎のボディションは攻防ともに先づ非難はないが問題はR・HでR・I同様に同チームにとつては大きな懸念である、關大戦に出場した朝比奈がピッグゲームに出場することになるであらうが、朝比奈のプレーには今一步のところがあるため三崎とR・F伊藤の守備範囲が甚だしく擴大され、従つてそこに空虚を生ぜしめ相手側の乘ずるところとなつてゐた、對京大戦にはまだ半ヶ月の時日が残されてゐるから如何に陣容を整へるか興味のあるところである。

バツクの弱味

京大バツクを翻弄した大谷は對神戸商大戦には完全にマークされて手も足も出ずFWによる一點を得たのみであつた、その大谷の動きを京大は何故シャットアウトし得なかつたのであらうか、彼我事情を異にするため一律にその缺陷を批評出来ないが、要するに京大のバツクは目下摸索時代といふべく、對神戸商大戦におけるその運用振りは全く無能無能に近かつた、形成する各分子を解剖するならば概して駿足、強引なれども惜しまらくは彼等は球の操作未だ不十分で全線の氣合またビタリと合致してゐない、また攻撃に移らんとするとき餘りにもバツクを收め得たが、神戸高商には前半三対二とリードされ收拾し能はざる混亂に陥り後半に入つて三対一とスコアし結局五対四の接戦で危く神戸高商の内薄を退けたが、タイムアップのホイップスルが鳴るまで何れが勝つか全く五里霧中に置かれてゐた。

京大はこの日FW中から伊藤中野の兩君が缺場してゐたため攻撃力が甚だしくマイナスされてゐたことは勿論であるが、それにもよるだらうが、その原因といふことは何といつても守備力の薄弱さを物語つてゐる、四點のうちの一点はC・Kからによる得點であるが、他の三點は殆んど神戸高商のFW大谷の強引なプレーに眩惑されて奪はれたものであつた大谷はOFプレイヤーとしてはリーグ中隨一の士で彼の技におよぶものは先づないが、彼一人といつても過言でないほどのFWに撃墜されたのは餘りにも醜態であつた。

苦戦の京大

前シーズン四對三の大接戦を演じて惜しくも關學のため勝利を奪取された京大は今春澤野、永野、小幡、武村、奥野の五君を學窓より送り出したのは何より大きな痛手で、これがため全線の動きは甚だしく圓滑を缺いてゐる、對大阪商大のトップゲームでは六対零で先づ無難に勝利を收め得たが、神戸高商には前半三対二とリードされ收拾し能はざる混亂に陥り後半に入つて三対一とスコアし結局五対四の接戦で危く神戸高商の内薄を退けたが、タイムアップのホイップスルが鳴るまで何れが勝つか全く五里霧中に置かれてゐた。

京大はこの日FW中から伊藤中野の兩君が缺場してゐたため攻撃力が甚だしくマイナスされてゐたことは勿論であるが、それにもよるだらうが、その原因

今年の關學と京大

関西蹴球カレチ・リーグ戦を観て

三宅二郎

神戸高商の擔頭

關西蹴球カレチ・リーグは去る九月二十五日第二部の大阪高醫對大阪外語の試合をトップとしてその幕を切つて以來、二部ともスケデュールの約半數を終へた。

關大の倒落以来リーグは關學京大の二校が壓倒的優勢を持てゐるが、試合はスコアの開きに反して異常な接戦を演じ波瀾曲折内容の豊富なものであつた對關大戦において後半島の得點後は問題ではなかつたが、前半風上の有利な位置を占めてゐながら關大的ため殆んどボールを奪取され約七、三の割合で壓迫され觀る者をして意外の感にうたしめたほどであつた。

由來兩大學はリーグ創始以來からの苦手で、技術を離れて精神的の作用がそこに醸成されたためかゝる奇現象を現出したの

でもあらうが關學としては確か

めにもよるだらうが、一面神戸高商及び關大の躍進による結果がしからしめたものであることは否めない。

今季の關學

今シーズンの關學は對神戸高商に五対一、對關大に六対零で二勝して依然王者の貫禄を持てゐるが、試合はスコアの開きに反して異常な接戦を演じ波瀾曲折内容の豊富なものであつた對關大戦において後半島の得點後は問題ではなかつたが、前半風上の有利な位置を占めてゐながら關大的ため殆んどボールを奪取され約七、三の割合で壓迫され觀る者をして意外の感にうたしめたほどであつた。

これに關學、京大の實力が前シーズンよりもやゝ低下したた

めにもよるだらうが、一面神戸高商及び關大の躍進による結果論かも知れないが關大FWにゴルゲツターがあつたら關學はより以上の苦戦を嘗めねばならなかつたかも知れない。

關學の陣容

L・W島、L・I西邑、O・F東浦は前シーズンに比して優るとも劣らぬ好調を持てており殊に西邑、東浦のバスワーカーは縦へのスピードも加はつて眞に鮮やかなもので左側は他チームに見ることの出来ない重厚な攻撃層を藏してゐるがこれに反して堺井の跡を襲つたR・I山藤は精悍なれども制球力を缺き、またR・W武井の技術が冴えず左側の優勢さに比して右側は格段の見劣りがしてゐる、對關大戦の前半において關大H・Bをして縦横無人で活躍せしめたのは關學バツクのフィードが有效でなかつたことにもよるだらうが、その原因

早？慶？

波瀾重疊の興味を呼ぶ 東京カレチ蹴球リーグ

山田
午郎

東京学生蹴球リーグの第一部は早大が六シーズン連覇の東大を破って争冠圏外に追ひ出し残る唯一の試合である慶帝戦が慶應の勝利となれば早慶は四勝一引分の同成績の下にこのシーズン再び相見えて覇権を争ふことになる。東大がこの最終戦を物すれば早大は過日行はれた早帝戦の勝利をその儘に榮えある優勝決定の一戦として球史を飾ることにもなるといふ意味ある試合を残すだけとなつた。兎に角このリーグ創立以來の波瀾を呼んだシーズンである。

農大 4 {3-0} ○一高

動きの純い一高 FW

十一月十五日に確定されてゐたこの試合は前日の荒天にあつて球場は足首の水を満たした爲めに十六日に延期して東高で行はれた、然し十六日の天候も恵まれず悪コンディションの中に行はれた。農大はこの日 FW線好調でよくチャンスを生かしてバックスの活躍を意義あらしめたが一高は OH大内君のよい球捌きも FW線の動き鈍く決定的のチャンスさへのがして零敗に終つた。勿論この裏には農大バックスの好位、好走、好球捌きによる堅實な守備のもつたのは、ふまでもない。

一高は不良のコンディションに災されたばかりでなくチームワークも悪くこのシーズン最劣の試合を演じた、守備のたのみとする GK 萩谷君も球速、球道の判定を誤るやうな稀に見る不出来なプレイであつたのではこの結果は當然であつた。

文大 2 {1-0} ○農大

農大の敗因は FW の不振

農大のこのシーズンにおける四試合を通じて豫想するものなどは文大の麻絡乏しいのに對しては一點の差を残す位で最終を飾ると見られてゐた。然るに GK 藤田君が傷ついて出場覺束なかつたことが敗因の導火線となつたかも知れないが FW 線は OH 石井君の確實なファードで生ずるチャンスを得點することが出来なかつた。FW 線の出足は悪いものではないが球を待ち氣味でありシートする機會に球を弄び過ぎて潰してゐた。敗因を FW 線の不振に歸しても差支へはなからう。文大と對等の機會を得てゐた試合であつた。

これに引かへ文大は冒頭固くなつてゐたが二十分ごろからよく球を上げてその力走を利かした攻法で有利な試合を行つたのは友納君がゴールに氣を引かれでか退り氣味の農大の消極的

フェンスに對しては頗るあたつてゐた。文大はこの試合において漸くその特徴を發揮することが出来たといへる。L F 原崎君

の前線給球は特に目立つてゐたことを稱へて置こう。

覇者 東大の零敗

【對 早大蹴球試合】

厚味ある疾風迅雷的攻撃が早大の勝因

【評】 島田晋

早大(4-0)東大	
名取	LW
本多	LI
平松	C F
野長	R I
谷江	R W
井出	L H
原田	R H
澤木	L F
立井	R F
吉田	G K
鈴鹿	G K
3	CK
3	FK
18	PK
0	PK
8	
2	
22	
0	

幸先よい早大

早帝戦の批評(?)をするといふことは死屍に轟うつに等しい……死屍——事實、六年間の覇者が意外のスコアを以て遂に王座を下つた時、その姿は全くズタズタに切り倒された死屍を思はせた。たとへ、一調間の後に未だ對慶戦を殘してゐるといへ(その試合の結果帝大は二位か三位を占めるのだが)過去の傳統の餘りにも輝かしかつたが故に、この敗戦の日の帝大が觀る者の心に一層慘めなものに映つたのだ。

疑ひもなくその夜の帝大イレヴァンは假借なき自己批判を行つたことだらう。それ故にこの苦盃を経験した後の帝大が對慶戦に示す實力こそが觀物である總てはこの試合の後にいはなければなるまい。

コンディション一晴天、北微風土地の乾燥程度可。早大は前半風上のエンド(時計台側)を占めた。このエンドは後半戦になると落日がプレイヤーの顔に殆んど真正面に指して試合がしにくくなる。從つて前半にこの側をとつたこと、同時に微風ながらも風上に先づ位置したといふことは闘志に燃えて居た早大イレヴァンに幸先よきものを感じさせたがらう。

左を狙ふ東大

キックオフ直後の二三分間の赤と白の二十二人の激い動き——鋭いカヴァーと、フライシユテルレンと、ボールの競合ひは忽ち僕等を有頂天にした。それは正しく早帝戦の名に恥ぢぬ堂々たる風格と氣魄を持つた動きの連續であつた。兩軍の必勝の意氣がこの數分間に完全に示された。

帝大は最初攻撃の重點を左に置いたのが慶次 LW 菊池君にボールを出した。菊池君もよくそ

のボールをとり早大陣に持ち込んで居たが、結局それが帝大のいはゆる有機的ブレイブにまで結合せられず單なる個人的ブレイブに終つて、帝大の攻撃意圖は空しく挫折するばかりだつた。併し帝大 FW 線中身體の状態が良好だったのは菊池君一人だつたといふ話を聞けば、先づ重點を左に置いた帝大の攻撃方針は正しいとしなければならぬ。

早大疾走の賜物

八分早大一點を先取。この一点は早大フォワードの球を追つての懸命な疾走の賜物である。實に早大前線の五人はこの日よく走つた。帝大バツクメンをして遂に五点を許されたものは、結局單純な急角度のバスに伴ふこの疾走に外ならなかつたもののやうである。特に、ミッドフィールドにおいては(幾つかたくなつてあたせいか)しばしばミスを犯しながらも決定的な瞬間にゴールポスト近くの好位置に走り込み、自ら得點し、また好機をも作つた LW 名取君の眞剣な努力には頭が下る。

この八分目の一点が帝大に與へた影響は決して小さくなかった。

少くとも早大に對して十分の自信を持つて居なかつたであらう帝大には……。それに反して、早大はより一層の闘志と、氣持の上のゆとりをこの一点から得たやうであつた。

十八分の井出君の妻いショットは誰の足に當つたのか、幸運にもテイアップして、爲す所なき

G K の右側をゴールの隅へ這入つた。此日の早大 HB 線はよく FW 線に追従してゴールを包圍し、厚味のある大波のやうな攻撃力を發揮した。

この試合開始後二十分ならずしての二點の開きが、精神的に殆ど勝敗を決して了つたやうに思はれた。

東大の敗因

帝大の敗因はスラムブに陥つて居たのかも知れぬが、明かにイレヴァン大半の闘志の缺陷にあるさういつて悪ければ、早大の倒壊的な闘志の前に萎縮したのだ。殊に FW 線の無氣力を。早大の五人の疾風のやうな突進に比して、これはまた無意味な横バスと、後への三角形ブレイブ断乎として早大防禦陣を突破する決意を示す FW の一人も無かつたこと、そして守勢に立つて攻撃に助力しなかつた HB 従つて攻撃は薄く、力弱く、觀衆の心ある者をして既に前半戦の前半において帝大の零敗を豫想させた。若し此日の帝大になほ數人の高山君と田村君が居たならば——、そしてバスは責任のがれのためにするものでなく、敵を抜くためにするものであるといふことを FW が實際に示したならば……。

無氣力の東大 FW

帝大 FW の無氣力さは守備の堅きを以つて鳴る早大バツクメンをして憂ひなく攻撃に参加させた。G K 熊井君の餘裕シャク

シャクたるブレイブがこの FW の

前に益々餘裕あるものに見え、早大の前の十人を安心させた。

かうして試合は前半戦において4-0と開いて六年間の覇者はもろくも致命的な止めを刺されて了つてゐた。

後半戦は、帝大最初兩インナーを後退させず入れ返して行くといふ攻撃的決意を見せて居たが、それも何時の間にか消えて、威力なき攻撃が屢々展開させただけであり。早大は樂な

氣持でブレイブし續けた。

結局、早大はその持つ實力を此一戦に完全に發揮し盡し、帝大はそれを盡さなかつた。そしてまた早大もまだ曾つて戦はなかつたよき戦ひをこの日に戰ひ帝大は昨年よりもその實力を低下させた。

我々は我らのフットボールのレゲルをもつと高めるために帝大の奮起と早大のより一層の精進を願ふものである。

關大力闘して京大と引分

相手のキツクエンドラツシユ

に曳きづられて苦戦した京大

【評】 前田純一

關大 2 {0-1} 2 京大

津	松	和	武	森	島	野	中	真	吉	田	井	邊	木	村
田	本	泉	田	長	山	戸	江	田	山	小	山	木	木	澤

關大への興味

關大は今夏蘭領瓜哇へ遠征を敢行し、二三年不動のメンバーにいよいよ磨きをかけられ本年こそ關學、京大に拮抗して興味ある巴状戦を演ずるであらうと期待されてゐたが、果然十一月三日甲子園で行はれた對關學戦には結果において六一〇で敗れたとはいへ技術の差は得点の差が語る程では無く特に關大 HB 線の堅固な守備、その猛烈な潰しは前半全く成功し七分の球を物する有様であつた、たゞ關大 FW 線に確実なゴールゲッターなきを遺憾とするが、對神戸高商に假令二三の補缺を入れてみるといへ遺憾無くその HB の缺陷と FB の脆弱を暴露した京大との一戦は興味ある豫想のなかに十一月十九日甲子園南運動場で玉井主審の下に關大の先頭を以つて行はれた。

京大は病缺の伊藤の跡を補ふため吉井を起用し同時に FW 線

の大進革を行ひ RW の中野を C F に、吉井を RW に、C F の松江を L I に廻し、快足の中野の中央突破を策し、關大は兩翼に老練な津田、森を配して京大 HB の弱點を衝くの策に出た、H B は京大高木負傷して出づ、代りに R F の小山田をあげ、その跡を玉木に襲はしめた、京大伊藤、高木の休場は攻守の両面に相當な打撃を與へたものと察せらる。

前半の京大

戦は先づ京大優勢の裡に開始された、四分京大 OH 山本より大きく LW 西村に出たバスを西村二十ヤードよりシートして一點を挙げ、その後十五分には西村のシート、二十五分には松江のヘッディング等の好機あつたが點とならず、四十分には LW 西村の中央送球を關大 G K 森突進して處理せんとして C F 中野のチャージに會ひ森の倒れた後に球が轉々するの危機があつたが中野眼鏡を落して躊躇したため僅に免るゝ京大六分の優勢を持して進み關大は時々 H B 線よりのロングバスに依り京大陣に突進するも FW 線に入を缺くために、まだゴールを陥るるに到らなかつた、然しながら俄編成の京大 FW に何等の有機的な聯絡無く日頃のショート・バス・システムは影をひそめ、キツク・アンドラツシユの關大の粗笨な攻口に曳きづられて兩翼へ大きく蹴出しては好機を失して居た、これは無論關大の有力な HB のため京大センタースリーの活動を全く封ぜられて居たにもよるが京大が自己的戦法を捨て唯懸命に大きく蹴出しては前進を急いだためと思われる。

關大の迫撃

後半京大は FW 線の編成を變へ、C F 中野を RW に、L I 松江を C F に、吉井を I L に廻して對戦したが關大 HB 線の活躍物凄く忽ち京大を壓迫してゴール前に殺到したが兩インナーの無力と京大後衛懸命の防禦に未



東京カレッジ蹴球リーグの早大対京大試合に勝つた早稲田大学チーム
Waseda association football team, victors in the Waseda-Tokyo Imperial game.

神宮競技場で十一月十九日舉行の —早稲田對東京帝大サツカ— 試合 —六年連覇の帝大敗れ 5-0 で早大勝つ



早大の収めた第一點 黒ユニフォーム早大

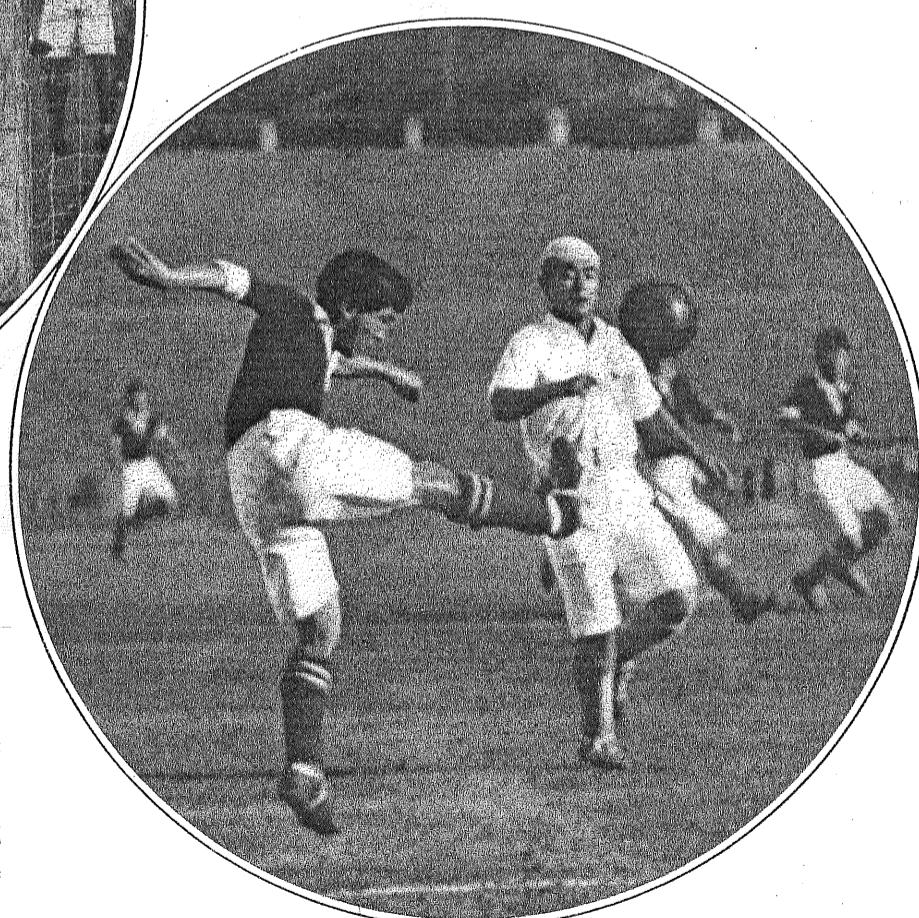
前半九分早大は堀江君から名取君へ更に平松君へ送球し平松君ミス・キックしたがフォロウした野澤君がこれをブッシュして得點



帝大猛烈に早大ゴール前に肉薄したが早大のゴールキーパー熊井君ノックして危機を逃がる

Waseda-Tokyo Imperial association football game, November 19, won by Waseda. Top: Nozawa, pushes over the first point for Waseda. Center: Kumai, Waseda goalkeeper, knocks the ball out of danger. Bottom: Hasegawa, Waseda forward right wing, centers the ball.

早大、RW長谷川君がセンターリングする刹那



* 左ページからつづく

だゴールを得出ず、然るに五分京大逆襲に出でOH山本のパスを受けたRW中野三十ヤードリブルして關大LF奈良は抜き中へ送るCF松江引掛けてゴールを割り一點を加へた得點は二一〇となつたが形勢は依然關大に有利で京大RI眞田傷き吉井は練習の不足とポジション不備のため全く位置を失し三人のFWで戦ふの状態となつた、二十五分京大ゴール前の混戦よりの漏れ球を關大OH山野強蹴して一點剥いてからは四分六分の戦

は三分七分となり遂に四十二分關大LW津田よりの球をCF和泉胸に當て出でゴールを陥れて二一二のタイとした。

両軍の缺陷

京大が苦戦に陥つた第一の原因是關大のキックアンドラッシュに現きずられて自己の有するショートバスを捨てた所にその攻撃の不振を藏してゐる、之は一面關大HBの見事な襷と京大伊藤缺場に依るFW線の不備とに依り孰らんとするも孰り得なかつたとも見られる、關大H

Bの頑強な守備にセンター・ストリーの押を封ぜられた京大としては僅に兩翼の個人的技術により二點を物したに過ぎなかつたのも是非無いことであらう、

一方關大は立派なHBを持ちながらFW線に優秀なく幾多の好機を逸してゐた。特に球の持過ぎと兩インナーの位置の悪さに攻撃力を殺がれてゐた。このチームが自己に適した攻撃法をマスターした時、關西蹴球界は一段と光彩を添へるであらう。

東西学生蹴球のNO.1が決定するまで

慶應5(2-1)2早大

早慶試合が示した新蹴球への轉向
敏活な動き、全線連絡が慶應の勝因

【評】朝生要人

一慶應—早大

橋岡村部崎波崎近崎越縦	LW L I C F R I R W L H C H R H L F R F G K	名川平野長谷中井立吉鈴能	取本松澤川村出原澤木井
4	C K F K G K P K	8 10 16 0	4 4 28 0

兩雄の強味

東京學生カレチ蹴球本年度のリーグ戦において四勝一引分の同成績を残ししかも連年の覇者帝大を奇しくも五対零の同スコアを以て破り去った早慶両チームが覇權を決する再會戦こそは今シーズンの興味と興奮とを盛るものとして戦前より異常の熱戦を期待せられてゐた。

十二月五日を期して行はれた戦は果然豫期の如くスピーディーな白熱戦を展開し五対二を以て慶應快勝し、遂に今シーズンの王座を獲得した。

第一回早慶戦後の兩チームを見るに慶應は藤岡君を筆頭に津村、塙部兩君共に進境著しくこれに駿足の兩翼を加へてFWラインは整備しHBの動きも一段の強さを増し攻撃に厚味を持つに至つた。之に對して早大がどれだけの進境を示してあるかに問題があり興味のかゝつてゐるところであつた。第一回早慶戦において連絡不十分であつた早大FWもその後行はれた對帝大戦にはよく纏まりを示し懐樞無比奔放なる攻撃を以て帝大を壓倒し去つた。

帝大バックの弱さもさることながら此の日の早大川本、平松野澤のセンター・スリーは球をキープする力強く攻撃力に一段の鋭さを加へたかに見えた。而して吉澤、鈴木の兩FBの正確なるFWへのロングバスは定評のあるところ守勢をたちまち一轉して攻勢に移らしめる強味を有してゐる。

慶應の強い動き

かく觀じ来れば結局兩軍の實力は依然として互角、何れが勝つも負つても僅少の差をつけるに過ぎないものと豫想されてゐた。しかるに試合開始となるや慶應は始めより好調を示し満々

たる闘志を以て戦を進め、五分塙部君のシュートに一點を先取してより終始ゲームをリードした。かく慶應がゲームをリードせる理由は全軍の動きの強さに求めることが出来る、慶應は全く質によく動いて球をキープしその得意の型に入れて得點した。この慶應の動きが早大に比して數段の強さを示したことが慶應勝利の最大原因をなしてゐる。

開始五分慶HBよりのゴール前送球を早の吉澤すべつてミスキックするや息もつかせず三人一度に躍り込み塙部とつてショートにこれを極めて最初の得點を挙げたるあたり必ずしも慶の幸運とのみ一概にはいひ切れない、その動きの鋭さを認めべきである。

早大FWの弱點

これに反して早大FWは豫期に反して動き弱く球をキープすること少くHBとの連絡も悪きため一度の寄せに失敗すれば直ちに攻撃を中斷される憾みがあつた。早大FWには新人多きためかゲームをリードせらるゝに及んでは徒らに焦つて無益の長蹴を放ち自ら機會を捨て去ること多く獨自の型に入れて攻撃することとは甚だ少かつた。

早大FWはキックエンドダッシュの攻法をしばしば用ひてみたがこれは時に奇功を奏することもあるが正攻法として常用す

べきものとは思はれない。もつと理詰めの得點法を考へなければならない。

早大FWは味方のHBより遙かに離れて深く位置し而も前後の動きが不足したため球をキープすること少く自然チャンスを作り得ない結果となつてゐた。L I川本君は全くデウエンスに干渉せず味方HBより遙かに遊離してゐたのは特に目につく所であった。

中斷された連絡

由來早大はFB強く正確なるロングバスをFWに給する攻法を有してゐるのでFWの深き布陣も一應首肯されたのである、とはいへ深き布陣においても強き動きの要求されることは言を俟たない、しかしにこの日の戦においては強いといはれた早大FBは全く慶FWに潰され味方FWへの給球は中斷されてゐた、こゝにおいて早大FWは速かに作戦を一變すべき必要に迫られてゐたのである、しかもこれをなさず、依然として同じ陣形を保ち味方のHBより遊離してこれとは別々の動きをなしてゐたために攻撃層に厚味無く慶HBにFW、HB間を全く中斷されてゐた。

かくFWの動きに格段の相違あつたため前回の接戦とは反対に慶の大優勢戦に戰を進めたことが多かつた。

かくFWの動きにおいて慶に壓せられた早大はHBの動きにも遜色を示してゐた。OH井出君獨り時に獨自のダッシュの鋭さを示すことはあつても、L H中村君はこの日全く慶RW駒崎君のマークを忘れたかの觀があつた、駒崎君は常に早L Hのマークを外して敵陣深く入り味方より深きクロスバスを受けて自由に球を處理する餘裕あるため攻勢移轉に常に成功ししばしば慶大側のチャンスを作つてゐた、慶HBのよくフォローし、またバックアップして厚味ある攻防陣を布けると好個の對照をなすものである。

早大の勝味乏し

戦前強いといはれた早大FBが脆弱であつたのはむしろ意外とするところである、これは足先の小技巧に拘はれ體全部を用ふる全身的プレーをせぬために意氣と意氣との白熱戦となつた場合にその缺陷を暴露したもので吉澤君においてこの感を特に深くした、これに反し幾分危惧された慶FWは却つてよく動き體全部を用ひて效果を收めてゐた、かく慶の大全線整備に對して早大に如上の缺陷があつたため所詮早大に勝味乏しきものとなつた。

後半戦に入るも前述の早の缺陷は改められず慶大の快足駒崎君は依然ノーマークのまゝ置かれ味方HBのよき掩護を受けつつ市橋君らと策應して活躍し一方早大のFWラインとHBラインとはいへよ離れて連絡を缺きしばらくは全く慶應軍の跳梁に任せてゐた。

最後の力闘

しかしながら早大もさるもの

である、四対一とリードされしころよりは捨身の戦法にやうやく慶應陣を脅かすこと多くなつた、慶大の攻撃を防ぐに専念してゐたHBも次第に攻撃に參加し、最後の十五分ほどは火の出るやうな熱戦が展開された、三十八分球は早大の長谷川、平松名取と渡つて一點を加へれば四十分には慶大藤岡、市橋の好聯絡に見事なる得點を重ねて試合はますます白熱化し四十一分に至つて早大の猛烈なる一齊攻撃慶大の死守に兩軍精魂を傾け盡して力竭し息づまる如き場面を現出し観る者をして手に汗を握らしめ早慶戦らしき興奮に誘ひ入れた。しかも早大のこの強襲も時既に遅く額勢を挽回するに至らず、慶應リードのまゝ戦の幕は閉ぢられた。

雨のためにグラウンドコンディションの惡かつたのは兩校選手に氣の毒なことであつた、然しこの惡コンディションにも拘らず兩軍共に比較的ミスキックも少くゲームもスピードイーブンはれたのは流石平素の修練のほども窺はれる次第である。兎に角シーズンの最後を飾るに相應しい大試合であつた。

開聯するものである。

慶大の勝因は全軍の動き強く體をよく用ひて全身的のプレーをなしHBの好位置の掩護によりFWの球をキープすること多かつた爲であり早大の敗因は動き弱く球の處理悪しくこれをキープすること少かつたためである。

なほこの試合においては從來の平面的バスのほかに立體的バスも多く用ひられ自然試合は立體的多角的に變化多く展開された、足の蹴球より上體をも加味せる蹴球への推移を示すものとしてこの意味からも興味あるものであつた。

雨のためにグラウンドコンディションの惡かつたのは兩校選手に氣の毒なことであつた、然しこの惡コンディションにも拘らず兩軍共に比較的ミスキックも少くゲームもスピードイーブンはれたのは流石平素の修練のほども窺はれる次第である。兎に角シーズンの最後を飾るに相應しい大試合であつた。

慶應5(3-0)0東大

体力、技倆兼備の慶應
東大ノーゴールで敗る

【評】鈴木重義

一慶應—東大

市橋	菊内	地藤
岡村	宮内	井田
津部	和田	川
塙崎	岩崎	田川
駒	波崎	田嶋
岩大	大江	江崎
右	横江	田嶋
岩崎	F B	市川
塙縦	F B	市川
	G K	大

13	C K	8
8	F K	4
18	G K	23
0	P K	1

凋落の東大

凡そ蹴球に第一義的に必要なのは一人のメンバーが個人的に強いこと、詳言すればその操球に、シーティングにヘッディングにパスに各個人が巧みであつて、これを一つの鎖でしつかりと結ばれてゐることがすなはち充實されたコンビネーションを有するなどである。これを完全に持つてゐることによって蹴球界に君臨するに資するものと思ふ。この意味に於て帝大は多數の洗練された選手を擁しよく統制をとり六年間東都蹴球界を完全に牛耳つたのであつた。然るに本年に至つて對一高戦、農大戦、文理大戦において

多少苦戦はしたものゝ最後の數分に見事な『ウツチャリ』を見せて『帝大依然強し』と思はせたが對早大戦において最も五対〇のスコアで惨敗してしまつた。これは帝大の調子が出て早大の幸運によつて破られたのではないかの感があつた。

それでこの帝慶戦は果して帝大凋落を思はせるか或はまた對早大戦は出来悪く眞實の帝大は別にあるのであるか、いづれかを裏書きするであらうといふ點に多大の興味を感じたが、この試合の結果は意外にも今年の帝大は個人的強みもまたそのコンビネーションの巧みもいづれも持たず、またまた五対〇の大スコアを以て敗れ帝大凋落を裏書きしてしまつた。

東大の配陣

この日帝大は攻撃線に菊内、内藤、宮内、和田、小川、ハーフ陣に木村、横田、江崎、フル・バッヂに市川、田村、G Kに大村といふ陣を張つた。

G Fにこれまで日高を出場せしめてゐた帝大は、この日宮内を出し、更に内藤主将を復歸せしめて、これまで最後の「トド



早稻田對慶應蹴球試合に勝つて開東學生蹴球界の覇者となつた慶應チーム
Keio association football team, Kanto intercollegiate champions by virtue of their victory over Waseda.

※ 左ページからつづく

メ」を刺すことに缺けていた點をおぎなはんと試みた。

H.B線は帝大の守備および攻撃の軸として活躍してゐた高山病氣のため缺場しこれに代るに横田を以てしF.BおよびG.Kは從來通りの配陣である。

由來帝大は特殊なシステムを持つチームで各個人の動きの強い事に併せて、その有機的なコンピネーションを有し特徴としたチームが、かくメンバーの變更を餘儀なくされた事はやがて破綻を生ずるは明かなことであつた。殊にチームの軸ともなり帝大唯一の頼みとしてゐた高山の不出場はこの試合は完全にあきらめねばならなかつたと思ふ。

この試合にあらはれた帝大のFWはその特徴とするまた唯一の頼みとするコンピネーションと強力なハーフのフォローと給球の巧みさは全くあらはれず、メンバー變更によつてたゞ多少個人的の強さと懸念を増したのみで、菊地、小川らによつて慶大のハーフおよびフルの穴をついて單身突進を試みられたのみで然も之等チャンスはセンタースリーと足並揃はず、トドメを刺すことに全部失敗に終り前半四十分ペナルターを得たがこれをも逸したるは運に恵まれなかつたばかりでなく、本年の帝大は實力においても低下したのではなからうかと考へられる。

攻撃は最大守備

防備においては高山の不出場は何といつても大きな痛手だ、帝大の守備は攻撃もまたさうではあるが、高山を中心として考へられてゐたのであつたが、今急に高山の缺場は精神的にも大打撃であつて、これに代つた横田も例の高校時代C・Hとして活躍したとはいへ、いきなりかかる大試合に僅か一週間の練習を以てしてC・Hとして對戦することは、殊に複雑化された帝大チームのシステムの中においては餘りにも重荷であつた様に思ふ。

慶大が之と逆の心理状態となり兩者間に十一の差をなし、どしどし中央を突破し三點まで得點を重ねたのであつた、これを見て見るに個人的強さと共にコンピネーションが蹴球に如何に重大なるかを如實に見せつけられる。

なほ更にこの試合においてハーフが餘りにも守備に懸命になり過ぎた感がある、殊に「攻撃は最大守備」のモットーを考へてゐるものに取つてこの日の帝大の餘りにも消極的態度には全然賛意を表し兼ねる。今の蹴球において無得點に終らうと努力するは理論上無理であつてより多く得點をすることに努むべきであつて、帝大が必要以上に後退して防禦にあつた點何とし

ても感心出来ない。

零敗に終つた原因もその得意するチャンスをFWが皆のがしかし不運の所もあつたが、またバックの今までのやうに攻撃に参加出来なかつたことによる所も大であつたらうと思ふ、更に蛇足を加へれば帝大バックは餘りにも弱氣に出たため從来の帝大に獨特に認められた攻撃の厚みなく敗退したものであつたらうと思ふ。

慶大の實力

これに對し慶大この日の配陣は對早、農、一高、文理大と同一のメンバーである。そしてこの十一人は試合ごとに調子を出して來てゐるのであるからこの配陣において既に帝大より遙か有利な立場に立つてゐたのであつた。慶應この日の出來は豫想外に好かつた。油の乗り切つた頂上にある感を深くした。

殊にフォワードのコンピネーションは帝大バックをして手も足も出ないやうにし、それにそのシュートの正確さ操球の巧さは完全に帝大を壓した。そして凡てのチャンスをよくつかみ、完全な勝因を造つた。殊に藤岡の出來は市橋の美技を實によく生かし、また津村をも完全にフリーの立場に置きよくチャンスを造つた。

きた一點も許さなかつた點においてG.K.織田及びC.H.大崎主將の活躍も忘れてはなるまい。また各個への體的にもまた技術においても帝大より遥かに優つてゐた。

唯之に對抗し勝利を得るはただその帝大チームのまとまりであつたのであるが、あの有機的システムを現し得ずに終つては五對零のスコアは止むを得ない。

面影なき東大

要するにこの試合によつて今年の帝大チームを見るに帝大は往年の帝大のおもかげ全く消え失せた、眞實の學生チームといふよりは一つのクラブチームを思はせる様なチームに化した様に思ふ、昨今あたりより見ると今年は多少選手に故障はあつた

にしても統括して個人的實力的に低下しこれに加へてその持つシステムを失つたに對し慶大は個人的技術又體力的に昨年よ

り優れて來て來つてこれまで幾分あやぶまれてゐた懸念の缺を完全にとりかへし、之に十一人のメンバーに一人の故障もなく

押切つた幸運と相まって八年間の臥薪嘗膽は完全に帝大を打倒したといへよう。

京大4(4-1)3關學

圖星を當てた京大前後衛の連絡

出足を挫かれて關學惜くも敗る

【評】三宅二郎

關學		京大	
島	呂	西	村
西	東	松	藤江
東	山	中	野口
山	武	山	邊
武	川	山	木
川	三	高	澤
三	福	鷹	木
福	萬	井	澤
萬	伊	代	金
伊	丹	藤	羽
丹			
14	G K	22	
4	C K	6	
4	F K	7	
1	P K	0	

王座を逸した關學

今シーズンの關西カレッジ蹴球リーグほど波瀾曲折風を呼んだ年は嘗てなかつた、去る十一月二十七日甲子園運動場で行はれた關西學院對京都帝大の試合を以て大団圓を告げたが京大は全く戰前の豫想を裏切つて大物關學を喰ひ危ぶまれてゐた關學は世人の期待に反して京大の軍門に下らねばならなかつた。「試合は水物」といはるがこの試合は正にその通りであつたところが羈縛を手元まで引き寄せてゐた關學がなぜ大漁を逸せねばならなかつたのだろう?

兩チームの懸み

その日は曇天、北方からの微風をうけてゐたがボールの運行はさまで妨げられず、たゞグラウンドの所々に濕地ありたるため足場を狂はせ、コンディションとしては決して良好ではなかつた。

京大は前半風上をとり關學は比較的濕地多き濱側に陣して試合の火蓋を切つた。

兩軍の陣容を一瞥して見逃せないことはそのFWの陣形である、京大のゴールゲッター伊藤

が病氣のため缺場したのは既定の事實であつたからこれに變るべきプレイヤーを如何に配するかは、京大得點の多寡に大きな影響をもつだけに深甚なる興味をもつて迎へられた、ところが兩軍メンバーの発表を見るに及んでこれは意外久しく出場しなかつた一藤をL.I.に起用してゐる京大主脳部の苦心は凡そ想像に難くないところである、しかし關學にも京大同様の大きな懸み

餘りにもそのスコアは大きな負擔となり、それがため後半戦における關學の動きは常に精神的重壓に災されて京大ゴールを屢々脅かしながらFWの足はしっかりと地につかず盲目的なショットを繰返して機を逸すること再三生命線たる一點から遂に見放されてしまった。

關學はなぜ敗れたか、それは種々の原因が横たはつてゐるが、最も大きな原因は京大の走力を利しての攻撃に面墻らつて最後まで陣容を整備する暇がなかつたことでそれは必然的に個人の凡失を招致し、また京大壓迫のとき(殊に前半戦)關學のH.B線とFW線の連繋は頗る拙劣で虎口から漸く脱したと思はれたボールもFWのポジション悪きため京大にカットされて益々不利な場面を展開してしまつた。關學バツクは京大FWを懸命に追ひかけた後であるからアーバーボールとなつて、さていざ蹴らんとしてもそこにはFWの姿見えずそこへ京大FWとH.Bがせき込んで来るから凡蹴となつて攻撃への活路をみすみす閉鎖されてしまう結果となつた。

關西バツクからFWへの給球は概してショートパスであるからあの場合FWは適宜に後退し前後衛一體となつて相手のバツクを攪乱すべきであつた、島、西邑間に時折巧妙なパスワークを見せ京大バツクを脅かしたことがあつたが如何にせん後續なくチヤンスを逸してゐた、その他G.K.丹羽のミスチャツチによる得點の獻上も關學敗因の主なもので、この日の丹羽は全く別人の如く目測を誤り、拙劣なプレーに終始した。

試合と出鼻

以上の事柄はグラウンドに現れたる缺陷であつたが、關學はこの試合によつてそのブレイを根本的に考へ直さねばならぬことを痛感しはしなかつた?——とくに試合の出足が勝敗を如何に大きく左右するかを、.....

關學は前半の立ち遅れから從来しばしば苦盃を嘗めたはずである、今後の研究問題として試合開始の際チーム全體の調子を如何に早く整へるべきかに心すべきことであらうと思ふ。今一つはグラウンドが濕潤の場合實力が著しく低下することである、この現象は當然の歸結ではあるが關學のそれは餘りにも甚だしい。ショートパスブレイは成程よいとしても、グラウンドが濕潤でボールの運行滑らかでない場合は他に探るべき戦法があるはずである、蹴球は晴雨を問はないがだけにコンディションに處する考へがとくに欲しいと思ふ。

然し試合全體の動きの跡を静かに考へるならば關學敗れたりとはいへその實力の京大に優ることは争はれない。



關西學院を破つて關西學生蹴球界の覇者となつた京都帝大チーム
Kyoto Imperial association football team, Kansai champions by virtue of their victory over Kansei Gakuin.

87-12-15

慶應對東大蹴球試合=十一月廿七日舉行 5—0 慶應勝つ



帝大のゴール前で慶應の市橋君がセンターリングした直後の光景、黒ユニフォーム慶應
Keio-Tokyo Imperial association football game, Meiji Shrine, November 27, won by Keio 5 to 0.
Photo shows the field just after Ichihashi (Keio) has centered the ball near the Imperial goal.

京都帝大對關西學院 蹴球試合

十一月二十七日甲子園で舉行
4—3 京大勝つ



前半京大が開學ゴール前に迫り京大山口君のチャージを開學ゴールキーパー丹羽君捌いてボールを叩き危機を逃れたところ

Kyoto Imperial-Kansei Gakuen association football game, Koshien, November 27, won by Kyoto 4 to 3. Photo shows Niwa, Gakuen goalie, knocking the ball away from his goal.

THE ASAHI SPORTS

アサヒ・スボーリ

The Japanese Twice-a-Month Illustrated Record of Athletics

新春寫眞特輯號



スポーツ・カレンダー添付



第十一卷第一號

一月一日號

Jan. 1st.

1933

内 容 目 次

漫畫「合宿の新春」(麻生豊).....(2)

年頭言「新春の希望」.....(3)

寫眞特輯ページ

春の六大學野球選抜軍を作
る(太田四州).....(4)

- 獨創テニスを開拓する人々
(佐藤儀太郎).....(5)
矚目される陸上競技界の新
人群(織田幹雄).....(6)
競泳日本の中堅スマート(松澤一鶴)(7)
活躍を期待される女流選手.....(8)
東西學生争覇蹴球試合(山田午郎).....(10)
明大対東大ラグビー戦(横尾俊郎).....(13)
全日本アーチュア拳銃(内藤稔).....(15)
新春ラグビー戦を語る(松見平八郎).....(14)
東京大學野球リーグ戦一季
制問題の検討(六氏).....(18)
庭球ランキング豫想(佐藤生).....(19)
日本最初のレスリング道場(山田生).....(19)
東西學生對抗籠球(坂削造).....(20)
出来上つた日光スケート場(小出生).....(20)
躍進しつゝあるスポーツ登
山(高橋健治).....(22)
スキージャンプの秘訣(シ
ーグムンド・ルード).....(24)
闘スキー場の思出(今井夫人).....(25)
コーチ生活廿三年(クロムエル).....(26)
【續】跳躍日本を守る(織田幹雄).....(27)
名選手に訊く=フルバツク
の苦心(明大笠原選手).....(28)
蹴球審判のコツ(野村正二郎).....(28)
研究指導ペー^チ(齋藤、森田、竹腰).....(29)
釣=寒ぶる釣り(魚住満道).....(30)

✓ 文章の始まり

慶應を誤る

東西學生蹴球界の王座を決する慶應対京大の争覇試合は去る十二月十一日午後一時半から南甲子園で舉行された。快晴無風絶好の天候、フィールドも若干箇所に濕地ありといふことまる、十二月としては申分ないコンディションといへるものであつた。

最後の二分において勝負を決定したこのクロスゲームもむしろ試合としては京大が勝つてゐたと断言できるもので慶應は幸運の辛勝で京大が惜敗に涙を呑んだといふのが試合の全貌といへる。

南甲子園の日射しは決してよいものではない拘らず慶應はサイドを向日に取つた。この試合の一週間前早大と東京の覇權を争ふ大試合のうち西下のハンデキヤツブを有しわづか一日の休養、しかもこの試合前において練習を行つてゐるのみの慶應がこのサイドを選んだのは妥當ではなかつた。ホームグラウンドとも見なせば見なせる京大に對し前半に勝敗を決定づける策としては慶應を得たりとは見ることができない。私はこれを一つの失敗として見るものである。

好調の京大

京大のキックオフは左側からさばかれたが早くもこれをつぶして京大サイドに出た慶應のスタートは好調を思はせるものがあつたけれどもそれは極めて瞬間的なもので三分早くもL.H.岩波君のもたらしたキックで慶應は危地に陥つてしまつた。

試合の形勢は京大の好調に進められた、慶應のR.H.右近君が對早大戦に傷ついてその出場さへあやぶまれるものであつたがためにこの日の出来悪く、それに完全にカムバックした岩波君のキックはみだれ勝ちで肝腎のハーフバックスは暗澹たるラインを形成して辛くも支へると見えるに引かへ京大のフォワーズはその動きにおいて端的ではあるがキックアンドラッシュの意味を局部的に示しながら強引に攻撃線を有利に進めてゐた。

極論すればこの試合はコンビネーションプレーを探求することが出来ない、一騎討の試合で期待して臨んだ我等にとつては真

京大—慶應

西	藤江	FW	市藤	橋岡	村
一松	野口		津駒	部崎	
中山			塚越		
田山	邊	HB	岩大		
高木					
樺野	金澤	FB	右	近崎	越縹
			豪		
4	C.K.	12			
6	F.K.	7			
21	G.K.	18			
0	P.K.	0			

東西優勝校争覇蹴球試合

2-1の接戦で京大を破り慶應霸權を握る
勝敗を決した市橋君のヘッディング

【評】 山田 午郎

に慾求を充足するものなく豫想した勝利が辛くも慶應の掌中に收められたといふにすぎない。

慶應苦戦の因

かくあらしめた原因は種々あつたにしても断片的に蹴球の特徴を瀟洒させるものはあつたとしても兩代表の顔合せとしては内容のとぼしい凡戦であつたといふよりほかはない。

全日本學生蹴球界の王座を九十分後に控へては焦慮を責むることはあらうかも知れないが少くも慶應に對しては對早大の第二次戦における試合の状態からして黙することが出来ない。京大は慶應がノーマークにあるをよく逆用して鋭い動きをもつて鋭い攻撃的慶應の裏をかくことを忘れなかつたのは確すべきであると思ふ。

慶應はハーフバックスの不調がたゞつたことは勿論であるがフォワーズの攻撃主力として多大の期待をかけられた藤岡君が常にその位置を示し球さばき遅く全能力を失つたかに見えるプレーをしたことは津村君のフォワード・ラインをリードする力を失つてゐたことよりも慶應にとつて大きな痛手であつたといへやう。

殊勲の市橋君

藤岡君も慶應不振の責を負はねばならぬ當面の人としてあげられるC.H.大崎君の後退判断錯誤、岩崎君のパートナー、塚越君をリードし得なかつたことなどそれは何れもかたくなつたところに原因してゐる。慶應は勝利の確信なくして臨んだこの試合であり京大は捨身に勝利を狙つたこの試合とも見てさしつかへながらう、チャンスメイカーのL.W.市橋君はこれも好プレーがなかつたのは京大R.H.高木君がダニの如くあくまでついて廻ることを忘れなかつたところに京大はスコアを小さくした原因があるのを見のがすことは出来ない。

高木君はかくれたる殊勳者として遇せらるべきである。しかし老練巧緻の市橋君は京大の一藤君がおさめた京大にとつての貴重な一点とともにこの試合を決定づける一點を收めることを忘れはしなかつた一度R.W.駒崎君から送られた高めのバスを進退をあやまつて後退その後にお

いて同様の徑路をとつて送られたバスを二度目には立派に決定してしまつた。

この功勞はいかに高木君でも中央によつて動きはじめた市橋君の潜行プレーに對して策はなかつたのである、これはやむを得ないものとして取扱ふよりほかにない。ただ懲りいはならば野澤君との連繋が完全であつたならばといへるがそれは結果論

にすぎない。

塚越君の功績

市橋君はカレチ生活を終るに際して思出多い一點となつたが比較的放り出されてゐた駒崎君のこの日の活躍は市橋君の動きのみを見る眼を轉じて同君に向かへた人には氣づかれるものであつた。駒崎君はまづ比較的によい位置を求めてその職責を果し

てゐた、これらがG.K.塚越君の健闘とともにこの日の慶應にとても精彩を放つてゐたところのものである、しかし局部的に觀察し個人的にこの日の出来榮えを云々する時に葬ることの出来ないものがある。

それは慶應フルバックスの無自覺な前出守備の裏をかいて後半三十六分R.W.山口君がドリブルラッシュしてチャンスとなつたのはおそらくも塚越君の真正面にたゞきつける結果となり續いて三十八分山口君がまたも慶應左側の前出の虚をついて快走再び機会となつた、この際に反対側からR.F.塚越君が疾走よくこの危機を潰し去つたがこの際に塚越君のタックルが効果を納めたなかつたならば一對一後七十五分にわたつて一進一退の試合においては正に京大のリードとなつて押切られるべきであつたと思ふ、この塚越君の功績は偉大なものとして記録さるべきである。

五分と五分の試合

これと反対に京大にとって三十六分と三十八分のこの機會は



全日本學生蹴球界の覇權を握つた慶應大學チーム
Keio association football team, all-Japan inter-collegiate football champs.

慶應幸運の勝利

慶應主將 大崎辰彌

慶應の勝利は

幸運のそれ以外の何物でも無かつたといひ切られて、も、苦しくない程この試合は形式的のものであり、勝つて嬉しかつたといひふより勝つて良かつたといつた方がむしろ今の氣持をよく表はしてゐる様な氣がする。

過日の早慶決勝において塾の全勢力は完全に使ひ盡されたといつても過言ではあるまい。

その後僅かに五日をおいて東西決勝である、假令肉体的疲労は回復出来るこも精神的緊張を持ち続ける事も建直す事も出来ず、唯當時の情勢での試合を迎へるのが唯一の道であつた。二週間の中に

三つの大試合

大の防禦層を攢乱する事で得點手段として練習に努めたクロスキック若しくはセントリングにより反対側の

ゴールポスト近くでイングFWが頭で受けるバスが見事に定つて京大の得点を凌ぐことが出来たのみである、決勝の一點こそ單に幸運といはんより市橋の苦しい一年間の努力を如實に表すものと考へたい。

守備に偏つた京大の敗因

京大先輩 X Y Z 生

一つのチーム

に對して非常に力強い期待を持ち得るといふのはそのチームがいかなる場合においても平常の實力を遺憾なく發揮せられる場合である。京都帝大は惡戰苦闘の末、さにもかくにも關西の代表チームとなつた、四分

六と稱されながらも遂に勝ち得た京大は六分と定評づけられた關學よりも未知数であるだけに作り出さるべき未来に大きな期待と興味が持たれた。

やうやくにして物せんとしてゐたFWのボディションは、他愛なく忘れられてゐ

勝利を逸した直接的のものであつたともいへる元氣な中野君は多少守備的に後退を多くしてゐたのは京大バックスの實力を知つてのこととも思はれるが、反対サイドの西村、一藤君との策應がうまくゆかず知つたなら山口君との連繋を強く緊密にして置いて欲しいものであつたと懸念も出る。

京大は捨身に出てゐるものなれば山本君の率ゐるハーフ・バックスはもう少し積極的に攻撃に加増して行くべきであつた慶應方にボールが出ると必ず後退して密集にゴールを衝つたのは攻撃に逆轉せしむるに過ぎなかつたものといはねばならない。とも角試合は五分と五分で幸運の試合を決定するものであつたと見るのは敢へて私のみではあるまい。

慶應FW線の不出來に際して山本君がH.B.線と植木、野澤兩君のF.B.線を交錯させたのは或は當つてみてスコアを縮小させたといふことになるかも知れないが、京大の攻撃に積極的に出ることの少かつたのは否まれない事實とせねばならぬ。

來年への期待

技術的に見てこの試合を云々するならば慶應のキックが脆弱であつたことが特に目立つてゐたといへやう、辛勝であつたが慶應がこのシーズンを獲得し關西も期待された關學が一敗地に墜れるなどの波瀾があつたこのシーズンは次シーズンに多くの期待をかけさせるものとして號球界のため慶賀してやまない。

た。京大の得意の攻撃力に効果を生じなかつたのはこの點にある。

彼等は恰かも昨日よりブレイをやり始めたかの觀がある。あるべき場所に、動くべき時機に何等の自信なく無聯絡に無秩序に終始したかの如き行動は觀る者をして得點に對する確信を抱かしめなかつた。

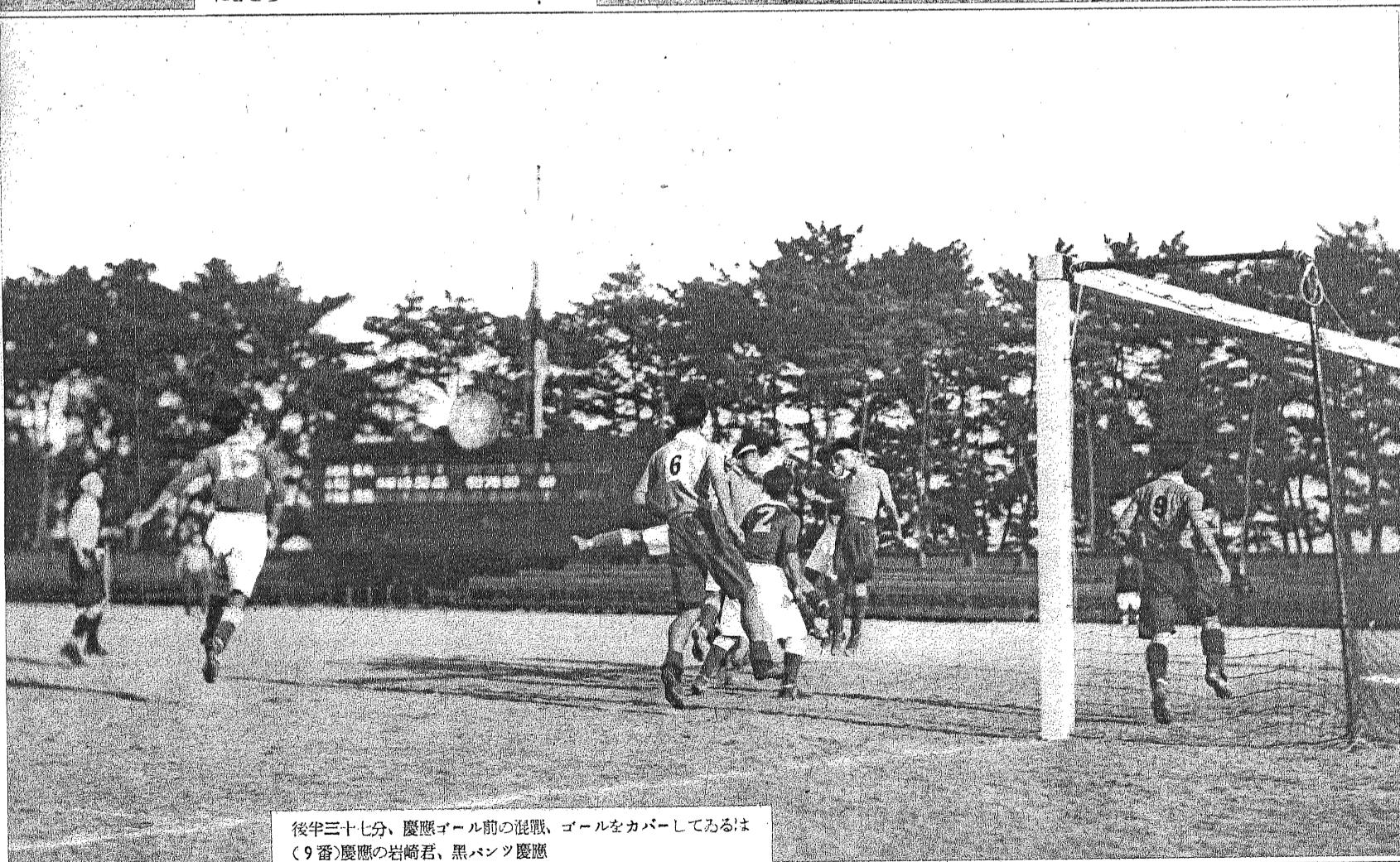
恐らくブレイヤー

自身すら試合が終了するまで感じなかつたであらう。かくなつた原因の大半は攻めるこゝを忘れて守備に没頭したためであると思ふ。兩インナーの退歩的なプレイのみでない、FWもH.B.もすべてが、「負けたくないが苦しんで勝ちたくない」こいつた風な消極的に一方の弱者たるに甘んじる氣持が全體を支配してゐたかに思へる。

アサヒ・スポーツ

十二月十一日
甲子園で舉行

=全日本學生蹴球爭霸試合=

2-1の接戦で
慶應京大を破る

Final game in the all-Japan intercollegiate association football championships. Top : Kanazawa, Kyoto
goalkeeper, jumps and blocks a fine kick by Komasaki, the third corner kick for Keio, in the second half.
Bottom : Mixing it up in front of the Keio goal in the second half.

アサヒ・スポーツ

全日本學生蹴球爭霸試合



後半慶應の攻撃を京大ヘッディングで逃がる



後半京大松江君(右)の突進を慶應岩崎君奪取せんとす



前半京大山口君の中央好送球を受け一藤君、西村君飛び込んで慶應GK嶽瀬君をチャージし球はゴール・インしたが一藤君反則を宣せられ無得点となつた場面

Final match between Kyoto Imperial and Keio in the all-Japan intercollegiate association football championships, won by Keio. Top-Left: Kyoto stops a second half Keio attack by heading. Top-Right: Iwasaki (Keio) taking the ball away from Matsue. Bottom: Just before Kyoto makes a goal, which is not allowed because of a foul by Ichifuji, in the first half.

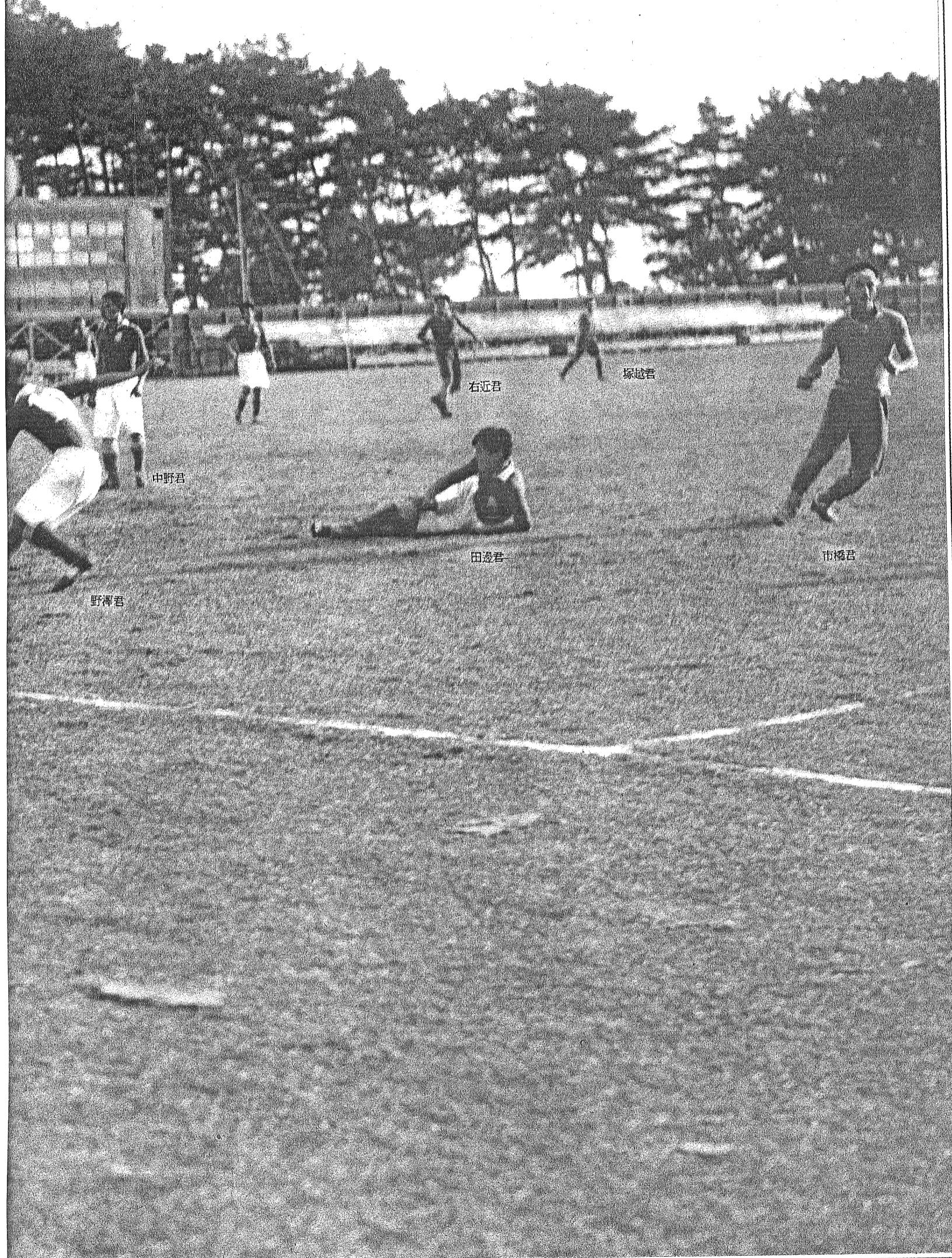


白パンツ京都帝大 後半四十三分慶應市橋君のヘッディングで決勝の一點を入れた直後

A moment after Ichihashi (Keio) heads the ball for the winning point after 43 minutes of play in the second half of the final game in the all-Japan intercollegiate association football championships. Ichihashi is the player at the extreme right.

全日本學生蹴球爭霸試合

ウイニング・ポイントを入れた刹那



關學四度早大を破る

【第九回定期蹴球試合】

堪能させた兩軍の妙技

【評】高師康夫

關學 早大

島	LW	平川	松本
邑	LI	名野	取澤
浦	C F	長谷	川村
東	R I	中	井原
山	R W	H	江
武	L H	立	井
川	C H	熊	村
三	R H	原	井
高	L F	原	出
伊	R F	藤	形
萬	G K	代	
丹	F K	羽	
	1 7	1 2	
	3	6	
	3	6	

早大對關學

第九回定期戦は一月廿一日明治神宮外苑競技場で舉行された、昨年迄の戦績は關西學院が三勝一敗四引分けで勝越し、昨年のごときは七對一の大差で勝つてゐる、本年は兩校ともリーグでは第二位となつたが、實力は第一流にあるものので東西両リーグの争覇戦の感もあり頗る期待を持たれてゐたが、一般には地元早大に歩があるかに見られてゐたが、結果は四對二でまたもや關學の勝に期した。

當日早大のメンバーを見ると名G・Kとしてうたはれた熊井がC・Hの重任を引うけ、G・Kには吉澤をしりぞけて志太中出の堀江を井出と共に据えた、G・Kには佐野、村形の中から高校戦の練習で腕をあげたといはれる村形を抜擢しただが守備陣のこの布陣は結果から見て失敗したものであつた。

後半の初頭

に生じた壘前からの絶好の洩れ球をつづけてあげてしまつた熊井、同じく不馴れからミスキックして關學R・W武井に致命的のシュートを許した堀江、最初の關學L・W島のセンターリングをファンブルし、後半關學F・B伊藤のチャーチボールを釣られて前進したため防ぎ得なかつた村形、これららの點を総合して見れば

大勢からは關學を壓してゐた早大が大事なポイントを簡単に關學に進上して敗れたといふ見方が必ずしも正しくないとはいへないわけである。

また、早大F・Wは善戦したが、F・Wとしての敵のマークに不足があり、随つて關學のバックメンに自由な給球を許した憾みがあつた、その間にあつて立原中村の兩サイドハーフは懸命に自己のポジションを守つて好戦し、F・Wでは名取川本等の強引な中央突破が目立つてゐた。

これに對して關學は、遠征の不利も手傳つたが

稍固くなつた

氣味があり最初の中はバツクにも伸びこしたキツクが見られなかつた關學のF・Wは深いW型の布陣を確守してインサイドは攻撃の

第一線といふよりも寧ろセミハーフとして働いてゐるかに見えた、關學の得點はよくバックしたインサイドから送られた球によつて得られたものが多かつた、またその陰には主將島の最初の得點の際に球を深く一直線に持込んだ快速G・C・F東浦が熊井、井出のマークを避けて壘前に生ずる機会をよく物にして確實な勝利へ導いた巧技は見逃し得ぬものである。

關學ハーフは早大F・Wの猛襲に苦みながらも互によくカバーし、曾ての長蹴萬能主義をすて、確實な給球を旨としてゐるかに見えたが、F・BがH・Bに近寄りすぎて危機を招く事が多かつたにも拘らず得點を許さなかつたのはG・K丹羽の妙技によるもので前半終りの十分ごろ早大の連續的好機を身を以て防ぎ、後半初から二十分ごろまでの猛襲をも遂に御け得た事は偉ミせねばならない。

丹羽の許した

得點は前半は早大C・F名取が左からの球を壘前に得てシュートしF・B萬代の足に當つて返る所を隙さずシュートしたものと後半三十分關學が早大陣に攻入り一氣に押切らうとした時G・K村形から出た球をR・W長谷川が長驅してゴールライン際まで運びセンターバスしたのを壘前に走り込んだL・W平松が見事なヘッディングで逆をつけボスト際を陥れたもので丹羽としては施すに手のなかつたものといへやう。

試合を部分的に見ればH・Bは銳さに於て早大、整然さに於て關學H・Bではサイドは早大、センターは三崎は堅實で熊井にはバツクアツブやマークの不足が見られてゐた。

F・Bは兩者ともH・Bのカバーに

狂奔した形

があり、F・B自身の快のプレイには乏しかつた兩軍ともラフなプレイは殆んとなくスピーディな展開を見せて觀衆を堪能させた唯何なく熱に缺けるところがあるかに見えたのは遺憾であつた、その理由としては早大側はリーグ戦の後高校戦が間に挟まつたために練習の調子が抜けた事で從來の習慣からこの試合になるご對抗意識がやゝ低められて大學部選手の中にはOB戦に出場するやうな氣分になるものがあるためではあるまいか、今後この試合を繼續するごすれば、少くも十二月中に行ふ必要がありはしないか。

東西選抜蹴球

關西方選手候補決定

昭和八年度の東西對抗蹴球試合は二月十二日明治神宮競技場で舉行されるが關西蹴球協會では先般來選考委員の手でこの試合に出場すべき代表選手の第一次豫選を行ひ次の通り候補選手を發表した、尙最後の人選は追つて發表されるはずである。

【FW】島(關學)山口(京大)西邑(關學)永野(京大OB)東海(關學)大谷(神高商)中野(京大)松江(京大)前川(神高商)山口(京大)和泉(關大)遠藤(神商大)水野(神商大)

【HB】山本(京大)川西(關學)三崎(關學)山野(關大)戸川(關大)田邊(大商大)後藤(關學OB)阿部(關學OB)萬代(關學)土井(關大)木下(大商大)

【GK】金澤(京大)丹羽(關學)

青山師範連続制覇

關東中等校蹴球大會評

山 口 勳 郎

58-2-15

九度優勝の青師

關東中等學校蹴球第十五回大會は、去る一月七日、八日、十五日、十六日、二十一日、二十二日、二十八日の七日間にわたり参加二十五チームを迎へて、上井草球場並びに神宮競技場において舉行されたが、結局技に優れ傳統を持つ青山師範が連續制覇の偉業を完成了。

青山師範は新春南甲子園における全國中等爭覇戦決勝に惜敗したがすでにその力量は等しく認むる所、大會唯一の優勝候補に挙げられてゐたが、大會半ばにおける選手故障によるチーム

の變動によつて、これを破り得るものあるか？興味の中心は一つにこゝにかけられてゐたが、連續堂々制覇の偉業を完成了。

此處において青山師範は過去十五回の大會中九回制覇を成し遂げたわけであるが、興亡常なきスポーツ界においてまた偉いふべきである。以下二十餘試合における印象を書き綴ることにする。

本格的プレイ

先づ中等學校蹴球も今や漸く本格的蹴球の過程を辿りつゝあるといふことが出来る、極言すればキックエンドラッシャ以外何物も持

たなかつた多くのチームが、今やその辯を抜け出で如何にすれば重厚なる攻防の布陣を整へ十一人の統制ある、コンビネーションによつて、威力ある攻撃網、防禦網を形成し得るかに最大の關心を持ち始めたこ

とである、退薄ながら若きフットボーラーによつて本格的蹴球の思考されることは、大きな喜びでなければならぬ、しかしその一面彼らはたゞセオリーにのみ走つて、基礎的技術の練磨を忘れてゐる、恐らくこのことは現在のカレッヂチームに對してもいひ得ることだらうが、十分なる基礎的技

術の體得があつて初めて十
一人の統制ある強力なるチ
ームを形成し得るこゝを知
らねばならぬ。

彼らの技術は彼らのセオ
リーを生かし得ない結果彼
自身デレンマに陥入つて無
意味な凡獻をしばしばして
ゐるではないか。

規則に精通せよ

今FWがボールを持つた
まゝする、彼らのセオリーは
いつ如何なる時にそれをセ
ンターリングすべきかは心
得てゐるが、彼らの未熟な
る技術は意外の地點にボ

ルを飛ばし、ノーコントロ
ールは相手HB、TBにし
ばしばボールを與へてゐ
る。若き彼等こそ基礎的技
術の體得に専念すべき時代

なるこゝをはつきり知つ
て、大成することに努めね
ばならぬ。

更に最も拙劣なるチーム
にありては、彼等は正しい
ルールを解してゐない、正
しいルールを解せずしてゲ
ームに臨むこゝは冒險であ
りまたゲームに參加する資
格なきものといはざるを得
ない。正しいルールを解し

て朗らかにゲームをするこ
とに努めなくてはならぬ。
以下戦蹟をたゞつて各チ
ームに觸れよう。

第一次試合

第一回戦に敗れたチームのうちには附屬中に對する帝都商業、東高尋に對する水海道中、日大二中に對する静岡師範、浦和中に對する川越中、青山師範に對する神奈川師範、青山學院中に對する千葉師範、慶普に對する府立二中等があるが帝都實業は大敵附屬中に堂堂五角の戦をなし未來に輝

※ 左下へフブく①

※ 右上からフブく①

かしい期待を持たせるものがあつた。水海道中學は彼等の満幅の闘志こそ身の物であるが彼等はよき指導者を得てフェヤーブレイを會得せねばならない、彼等のあの闘志と熱情をよき指導者によつて平素の練磨に向けた時こそ彼等に輝かしい時代の來る時である。

遠征軍静岡師範は二對一長恨を呑んだがよき走力とセオリーを持つてゐる、日大二中ゴール前を幾度かクロスする機會を遂に一度しか決め得なかつた決定力の

無力を痛感せねばならぬ。

川越中、神奈川師は浦和中、青山師にそれそれ大差を以て敗退したが、川越中はあの脆弱な體力では止むを得ないとして、神奈川は前日南甲子園で全國爭覇の一戦に全力を傾け急遽歸京した青山師範に對して惨敗を喫したるは意外である、大に奮起を望んで止まない

新興千葉師範は青山學院中と堂々戰つて敗れたが、彼らには巧みで、スマーズな

凡てに今一段の研鑽を積まねばならぬ。

第二次試合

東高尋は附中に延長戦で敗れたが、むしろ附中の勝

は幸運といはねばならぬ、東高尋は今一步の粘り、ボ

ールに對する執拗、そして闘志を養成せねば實力以下のゲームに甘んじなければならなくなる、東高尋と同様の感じで第二回戦に敗退したチームに、獨協中、府立一商、暁星中がある、彼らには巧みで、スマーズな

點は見られるが力強さ強引きは見受けるこゝが出来ない。浦和中は青山師範に、東亞商業は青學中に、早實は慶普にともに大敗したがいつも今一段の研鑽を経ねばならない。

第三次試合

第三回戦に惜敗したチームに附中に對する本郷中、茨城師に對する日大二中がある、本郷中はC H Bを中心として、よい走力とフットワークを持つて府中を押し抜くつてゐたが、FWはゲームの亢奮につれて全く混

亂して遂にペナルティの一
點以外に擧げるこゝが出来
ず、不幸抽籤で敗れたが今
後多く期待を持ち得る日大二中には年々向上の跡
が見られる。

青山師對八中、青學中と
慶普は共に後者が大差を以
て敗退したが折から降りし
く粉雪の中に壯快なる雪中
戦を演じた、八中FWは強
靱なる青師HBに押へ切られ
積雪によるコンディショ
ンを見て前進攻撃網の重厚
を形成した青山師HBのマー
クを忘れ前半早くも青師
HBに三點を擧げられ、後

半キック・エンド・ラッシュ
の戦法を取つたが、青師
バッカの體力に壓へられ遂
に零敗したのは實力の差さ
いふべきである。

新進慶普は府立二中、早
實を倒し三回戦に進んだこ
とは偉いふべきであるがチ
ームの充實は今後に待つ
べきである。

准決勝試合

府中は帝都商業、東高尋
は本郷中に何れも辛勝して
來たがその巧緻も茨城の體
力に抑へられて敗えない最
期を遂げた、府中は若い選
手を以てチームが組織され

※ 左下へフブく②

※ 右上からフブく②

てるだけ、各ライン共時
時鋭い閃光的なよい動きを
見せたが未だ威力ある
ものが生れてゐない、然し
例年夏ごろまでには不思議
に強くなる府中チームであ
る。

青山學院中は二對一で青
師に接戦したが密集防禦によ
つて青師の拙戦を食ひ止
めてゐたにすぎない、彼等
は最初に得た一點を死守せ
んとしたであらうが雪崩の
如く攻め込む青師FW及び
HBを六十分間支へ得らる
べきものではない、勝者た
るためには今一步積極的戦

法に出でなくてはならない
決勝試合

決勝の兩雄は過去の大會
における決勝で顔を合すこ
と二回、何れも茨城師が二
対零で敗退してゐる、茨城
師に取つては青師は正に怨
敵であり雪辱戦であるが戦
前既に勝敗の分野は見え透
いてゐた。

茨城FWは優れた結合を
持つが、鈍足であり球の操
作も未だしの感がある、こ
れに對して青師は強靱無比
のHB陣を擁してゐる、茨
城は青師に對して不思議
過去二回の決戦敗戦に縮畏

した、この日彼らの取るベ
き策はキックエンドラッシャ
、即ち深いパスを追走し
て比較的缺陷を持つ青師F
Bラインを破るべきより外

無かつたはずだが畏縮して
ゐた彼らはたゞ一二度これ
を試みただけで、徒らに青
師HBに名を成さしめてゐた、
茨城はその策において
錯誤を來ししかみならず
青師を恐れてか弱氣を失し
遂に四対零の開きを作つた
ものであり、もし策の上な
るものを使ひ捨身の一戦に
出たならたゞ敗れるにし
ろより接戦出來たに相違な

い、しかし彼等のあの眞摯
な態度に今一段のフトワ
ークを養成したらやがて制
覇の時機が来るこゝが約束
されやう。

青山師範はいさゝかの危
惧もなく堂々制覇を掌握し
たが、その功績の過半は強
靱無比なるHBラインにあ
つて、彼等の五試合二十數
點の得點中その半數近くが
HBによつて擧げられたこ
こを思へばそのHBライン
を讃へるご同時にFWライ
ンに一考を求めるに一段ご
研鑽の勞を取られたい。
(妄評多謝)

S 8 - 2 - 15



シーズンの掉尾を飾る二大蹴球試合

東西対抗選抜蹴球試合評

関西の追撃及ばず3—2で敗る

巧緻と強引の好対象を見せた試合

鈴木重義

關 東

關 西

菊川	地東	大)	LW	島(關學)
本(早	KI	西(關學)	昌(京大O	B)
津(慶	CF	永(京大)	野(京大)	B)
塚(慶	RI	中(京大)	谷(神商)	B)
駒(慶	RW	大(京大)	西(關學)	B)
岩(慶	LH	中(京大)	本(京大)	B)
石(慶	CH	山(京大)	崎(大商)	B)
近(慶	RH	三(京大)	下(大商)	B)
立(慶	LF	百(阿部)	部(關學O	B)
原(早	GK	阿(金澤)	大)	
友(慶)				
井(慶)				
繩(慶)				
4	CK	9		
1	FK	3		
11	GK	12		
0	PK	1		

優秀選手陣

日本の蹴球界での年中行事に質的に重きをなすものに四つある。一は東京カレッジリーグの第一位、二は関西学生リーグの第一位、三は決戦東西学生対抗戦、一は東西O・B対抗戦、一は全日本選手権、これにこの東西選抜対抗戦である。

この東西選抜対抗戦は今年で第二回であつて、この誕生はオリンピック出場を目指して、全日本を東西に分けて、O・Bたる学生たる所を問はず、最も強い人を集め、最も優秀なるチームを編成して東西相対する試合で、日本の代表チームを選定する試合でもある。

両チームの配陣

関東軍は、O・Bよりは一人もこらず、純然たる学生現役選手ばかりを集め、そのF・Wには本年東京リーグの優勝校慶應のF・Wの中右三人をそのまゝ使ひこれに早大の川本、帝大の菊地を入れた。H・Bは慶應の右近をC・Hミシ、岩波、早大の立原を兩翼にしF・Bは早大の井出、農大の友納で、G・Kは慶應の繩瀬を以てし先づ危げない配陣であった。

関西軍は現役選手に優秀なO・Bを二人、F・WをF・Bに加へてチームの若さに老練さを加へよう試みた。F・Wは關學の島西邑、O・Bの永野、京大の中野、神戸高商の大谷

はかるごいふやり方、ごここまで合理的に行かうとするのが特徴である。

一長一短

この両者は一長一短であつて、関東流のシステムが完成すれば、即ち精巧な機械となり、一度ボールが味方の手に入れば必ずゴールシュートまで行く、が然し機械が精巧であればある程少しの狂ひで、機械は全く停止する通り、このやり方には、少しのミスで全部を壊してしまふ虞がある。これに比すれば關西流は大まかなだけに、多少のミスは問題にならぬに済み、ゴマカシがきく、殊に相手のミス等に乗ずるに最もよいが、相手が少し強い問題にならない。ごいふ様に両者の一長一短は関東、関西に分れて成長し來たのであるから、この中から選抜されたこのチームもまたその地のもつ特徴を遺憾なく發揮してゐた。

右攻めの関東

この試合での両軍の攻撃を見るごと、關東軍はF・Wのコンビネーション良く、これにH・Bの給球もよく厚みのある、攻撃を加へてゐた。F・Wは期待された

右側よりも左側菊地、川本の聯絡よくしばしばチャンスを作つてゐた。大體このF・Wは右側より攻めて、左へ出し、川本、菊地がシュートして得点する強味のあるチームであつて、最初の一點は筋書き通り右より出たボールを川本ミツつて、

關西阿部をドッヂしシュートしてゐる。これは全くこのチームの定石で、その後は、このやり方は關西の注意する所となつたためか成功しなかつた。

右側の出来の悪かつたのは、關西がこゝからの侵入を非常に警戒したのにもよるが、また一面反対側のインサイド（川本）およびR・H（岩波）から、タイムリーのバスが出ないために働く餘地が十分なかつたためにもよる。また左側よりの侵入が成功した割に得点し得なかつたのは、菊地のセンターリングが「モウ少し後へ延びてみたら」の感がある。

G・Kの活動範囲の拡大された今日センターに就ては研究の餘地十分あるのではあるまいか。

關西の強引さ

關西の攻撃は大體がこまかいコンビネーションを餘り必要しないやり方であるが、ごいつて今日は餘りに聯絡がなさ過ぎた。H・Bが存外に出来が悪かつたことは攻撃を更に薄弱にしてゐた様に思ふ。また關西のF・Wはウイングを偏重し過ぎ、殊にR・W大谷を

極力使はうとしたが、これは關東の井出、立原のコンビネーションに押へられ然もなほこれを破らんこし、大谷R・Iに入り無駄の努力をしてゐたところは、關西の攻撃に變化を持たぬ、多くの攻め手をもたぬものと観察する。

これにまた關西の兩インサイドの動きは、C・F及びウイングミ調和せず、F・Wの一員としてよりはH・Bの役をより多くしてゐた。それがためにゴール前にいつも間に合はずC・F永野一人の突込みでは何の効もなかつた。前半は殆どチャンスらしいものはなく、後半に入つて風上ごなり漸く有利に轉回し、タイムアップ數分になりごちらかごいふご關東のミスによつて二點をあげ、關西側の持つ強引さの片鱗を見せただけに止つた。

不備の關西

關西軍は個人的スピードおよび強引さは關東軍より強いが、關東に見られる全面的強さ、克明な動きを缺き、ためにチーム全體として見る時は、スピードな點ではなく、殊にバックがボールを餘り持ち過ぎて少くともドリブルに過ぎて、折角ゴール前に達しても、關東軍は既に『ガツチリ』と守備陣を固めてしまひ、シュートの機會さへ失つてゐたのをしばしば見せられた。關西軍はその各個人の速さと、チーム全體の速さとの間の調和を考ふるによつて數段の進歩が可能ご思ふ。

兎に角關西軍の攻撃の全體を見る時は、選抜軍の悪い點を直さずためにその各自の強さを出す前に、調和を計るべく努力中に試合は終つたごいふべきである。

英断的編成

關東の守備は關東リーグ戦中C・Hとして活躍した井出をF・Bにさげて、R・Hとして働いた右近をC・Hとした英断的チーム編成は大成功ごいふべきである。

右近のC・Hは初めてであるが、この日の出来はま

づ申分ない。關西の主力を擧げて来る兩翼にそなへる立原、井出のコンビネーションはすでに試験済であるから危惧の念も持たなかつたが、友納、岩波の間の聯絡を非常に懸念したが、岩波よくつぶし、友納の非常な齧りこ相まつて、異常な出来榮であつた。

が然し後半になつて、G・KとF・Bとの間の不調和のボロを出した。即ち關西方一點がそれで、あの時結果においてG・Kは飛び出さざるを得ない立場となつてしまつたが、あれはG・Kの判断の相違ごいふよりもF・Bの間に一つの穴があり、ために生じた破綻ご思ふ。これは強ち關東のみにいふべきではなく關東が二つた第二點目についても同様にいひ得られるご思ふが、注意すべきであらう

關西の敗因

關西の守備陣は、兎明にうごく關東のF・Wにいさか面喰つた形であつて、擾乱されてゐたごいへる。このバッケンの混乱、殊に、前半におけるそれは、今日の試合を失つても、當然だつたご思はせるほどの出来の悪いものであつた。

後半になつて阿部よく活躍したのが目立つたのみで總體に振はなかつたご思はれた。

この不振は一面各人の動きの弱いためもあるが、また關西F・Wがいはゆる關東のバッケンをツップして行かぬため關東のバッケンが樂に然も正確にF・WにパスしF・Wは直ちに攻撃に入つたので關西バッケンメシは手の下し様がない恰好にあつたためにもよるもので、バッケンの不振の一半の責任は關西のF・Wのネバリの缺如に歸すべきである。

F・Wとバッケンの動きは因果關係で、F・Wが動かぬごとH・Bは苦闘に陥るごとに、又H・Bが動かぬごとF・Wは活躍出来ぬ。各層相まつて初めてチームの強大な力が躍進して來るものである。關西のバッケンは守るバッケンで攻撃に加はれないバッケンごいへる。こ



關東關西選抜蹴球試合に勝つた關東チーム
Kanto selected association football team that defeated a selected team from Kansai.

※左ページからつづく

のチームに関する限り動きの強さ、F・Wへの給球の時期に考慮を拂ふべきであらう。

成功した作戦

選抜チームは強い個人の集りではあるが、その間に意思の疎通を缺くことが多い。延いては、元氣に缺くる時をしばしば見る。この時程みじめなものはないがこれがなくピッタリと各人の意氣が投合して、完全に統制され各人の力が十分に發揮された時は實に強い。

この試合においては關東がこの點においても成功して勝ちを得たものと思ふ。それは、選抜よろしきを得たこと、選手の配陣巧みであつたことによるもので即ち各人のこれまで作られた、コンビネーションを崩さずに配陣した事、例へばF・Wに右側三人は慶應のF・Wとし横の聯絡をよくし、また井出、立原は右側バックとしてバックの兩層の聯絡を固め、左側は慶應の岩波、右近を以てした等、出来るだけ油が乗つたスムーズに廻轉してゐる所は、そのまゝ廻轉せしめ、活用し、僅かの練習期間で總體として完全に廻轉せしめた點は、關西のそれが漫然と強い人をのみ選抜配列したのに比すれば、かなりの成功であつた。なほ技術的に見ても關東軍の勝は當然だつたと思ふが、最後の數分で二点を簡単にこられたことは、氣のゆるみであつて、最後まで頑張る關志に燃ゆる所の缺如によるもので、選抜軍の最悪の缺點を現したもので、關東軍が實力的には勝利は認めるが、凡てにおいての勝利であつたことは斷言出来ない所である。

この兩選抜軍は日本蹴球界の技術的方面においてもまた、精神的方面においても、將來の目標である。自重を望んで止まぬ。

所謂OBの殻を破つた試合

第四回東西OB對抗蹴球試合の印象

【評】鈴木重義

OB試合の意義

我が日本のスポーツとはいはゆる學生スポーツであつて、一度學窓を離れば、スポーツから足を遠ざける傾がある。それがために折角完成に近づいた技倆が中途で阻まれて、圓熟を見られない。甚だ遺憾なこことであるが、これはゲームを行ふ機會に恵まれないのにも一因をなすものである。

諸外國人が四十歳前後になつてなほ嬉々としてゲームを楽しむ餘裕を持つこ

は學ぶべきではあるまいか。この意味において學窓を離れたものゝ中より選抜したチームを作り東西抵抗するこの試合は、學生スポーツと同時に重大な意味を持つものであると思ふ。

殻を破る

元來O・Bゲームは、力を最も經濟的に用ひ、ぐるいこばかりをし、そしてなほ疲労の極後半は餘り動かぬものと相場がきまつてゐたが、今度のO・B試合は決して、そうではなかつた。そのあこで行はれた選抜對抗戦と比較して、左程見おこりはしなかつた。試合前「蹴球の妙技をスローモーションによつて示してくれ」と懸念したことを恥じた。そしてまたこの試合はいはゆる専門家が見てもまた素人が見ても面白いゲームであつた。

油断した關西

O・Bのゲームに最も缺けるものは、それは元氣である。ざんざに辯解しても誰もが多少の横着心があるであるからO・Bゲーム特に一つのチームが解體して再び同じメンバーで復起したものでなく、純粹な選抜O・Bにあつては、この元氣、關志の有無は試合の八割を支配するものと思ふ。

この點において今回の關東O・Bと關西O・Bと比較すれば、關東は矢張りスコアの示す通りの差があつた様に思ふ。特に竹内、松丸、竹櫻の大童の活躍は關東軍の勝因の主たるものであらう。

關西軍は、後藤、西村、杉村等仲々の元氣な所を見せてゐたが、始め多少關東を輕視してをり、先づ一點をこり更に侮つたが、やがて一點を酬いられ狼狽し出しコンビネーションを壊し更に一點をこられ完全の敗こなつた。油断はごこまで大敵だ。

異例の選抜法

關志の關東によつて生じた裏に、その選抜方法によつて来る所がある。それは

關東では毎年度末各大學のO・Bでリーグ戦を舉行してその中から元氣な、優秀な選手を選抜してをつたが今年は選抜試合を別に行ひこれを各大學の現役主將より成る選抜委員會により選抜せしめたもので、學生選手によつての選抜だけに、選抜の一單位に元氣であることをいふ要素を取り入れたのでチームに意氣が加はつてゐたと解する。

O・Bは兎に角永い蹴球生活をしてゐる。永いものは十五年も選手生活をしたものもある位だから、蹴球のセオリーは一通り心得てゐるものであるから、これをざんざに現はすかが興味であつたのであるが、この試合では、その作戦では關西軍の完全な敗北を見らるべきである。

關西の拙策

衆知の通り一つの攻撃において、同じ攻め方、または同じ所より攻め込むことを無駄な話はない。關西軍は、F・Wの右側浅井、澤野のみをたよつてかしきりにボールを右側に出して、こゝから攻め入らうとしてゐた。然るにこの攻撃法は早くも關東軍に見破られ、關東軍バックは全體に左よりとなり、甚だづらい所をみせ、完全なる守備陣を張つてしまつた。

あの時ボールを左側に出し、大橋、琴井谷を十分に活動せしめて、然る後右側の強手を用ふべきが先づ定石と思ふ。この定石を打てなかつたことはF・Wに責任はあるが、H・Bもまた重大の過失で、得點し得なかつた一半の責任を負はねばなるまい。

效果的な動き

蹴球では、どんな巧みな人が集つても、コンビネーションのない時は、結果において零だ。五人のF・Wがばらばらに動いた時は負けないことはあつても、勝つことはまづあきらめねばなるまい。今日の試合は丁

度その感じだ。關西軍のF・Wは實にコンビネーションを持たぬ。五人別々のF・Wであつた。この點においては關東のF・Wは多少優つてゐた。右側三人は、兎に角、三、四年間の相棒で、お互に凡てを知つてゐるだけに、堅いコンビネーションを持つてゐた。この活躍は右側に多少の弱さはあるても、F・Wに一脈のコンビネーションを組成しこれにH・Bの攻撃的に出た事は、單的な、然も聯絡を持たぬ關西軍のF・Wに比し、遙かに効果的な動きが多かつた様に思ふ。

攻撃即守備

「守備は攻撃なり」のモットーを信じてゐるわけでもあるまいが、大體において關西地方のバッックは、活動範囲狭小でH・Bも守備により多く力を盡す傾を持つてゐる。今回の試合の關西の守備もこの例に漏れず然も、左側に弱點を持つてゐたことは、H・Bをより保守的たらしめた。

H・Bが攻撃に加はらずにむしる守備に力を盡すことは、あの場合、殊に後半一點をリードされてゐる時採るべき策ではない。むしろ極端に壓迫的に出て、矢つぎ早の攻撃を試みるべきではないか。漫然と中軸になつてゐた點は、實力的に強い三人であるだけに、關志に缺くる所あつたのではないかと思はれる。「攻撃は最良の守備也」と信ずる

OBの責務

他の競技は知らぬが、この蹴球においては技術的方面及び理論的方面共に伸び行くものまた伸びねばならぬものは、學生または中学生のそれよりも、現在のO・Bが行ひ、しかして考ふべきで、そして學生時代に得たものを完成させ、蹴球技の極致に達せしむるこゝが、最も可能にして最良なるものと、このO・B戦を見てつくづく感じた。

東西O・B對抗戦は、今回で第四回で、今までの成績は次の通りである。

第一回關東5-3關西(甲子園)△第二回關東2-2關西(明治神宮)△第三回關西4-1關東(甲子園)△第四回關東3-1關西(明治神宮)

アサヒ・スポーツ

關 東 關 西 選 拔 蹴 球 試 合 — 二月十二日神宮競技場で舉行 3—2 の接戦で關東勝つ



前半關東の攻撃するを關西ゴールキーパー金澤君が蹴り返したところ



前半關東の攻撃するを關西ヘッディングして逃る

Association football game between selected teams from Kanto and Kansai, Meiji Shrine, February 12, won by Kanto 3 to 2.
Top : Kanazawa, goalkeeper for Kansai, kicks back the ball.
Center : Kansai stops a Kanto advance by heading. Bottom : A struggle with the backs in front of the Kanto goal after the Kansai team has made a long rush forward by skillful passing.

後半關西バックからのパスを受け關東ゴール前で關東のバックと球を奪ひ合ふところ

= 關 東 關 西 選 拔 チ ム 跡 球 試 合 =



後半關東ゴール前に迫つた關西永野君飛び込んでボールを
得んとしたが關東のG K綾瀬君キックして難を逃がれる

後半關西軍が關東ゴール前に迫り關西中野君（手前の黒
シャツ）がヘッディングしたところ

Association football game between selected teams from Kanto and Kansai. Left: Kokitsu, Kanto goal-
keeper, uses his strong right foot on a ball brought up to his goal by Nagano. Right: Nakano, Kansai,
(black shirt near camera) heading in front of the Kanto goal.

アサヒ・スポーツ

關 東 O B 關 西 O B 蹴 球 試 合 =

二月十二日神宮競技場で舉行
3—1 で關東チム勝つ



Kanto O B - Kansai O B association football game, Meiji shrine, February 12, won by Kanto 3 to 1. Top : Danno of Kansai (in black shirt), about to get possession of the ball in front of the Kanto goal. Bottom : Saito, Kansai goalkeeper, stops a swift ball aimed at his goal.

東京帝大OB對早稲田OB蹴球試合= 三月五日東京綱町球場 7-2で帝大OB勝つ



Association football, Tokyo Imperial O. B. vs. Waseda O. B., Tsunamachi Tokyo, March 5, won by Tokyo 7 to 2. Top: Ito, Waseda goalie, about to stop a shot by Takeuchi. Bottom: Ito (Waseda), kicking back after Namikawa has centered.

関東OBサッカー評
興味は慶帝の一戦
山 田 生

二月二十六日

から開始された関東OB蹴球リーグは三日五日までに四試合を終つた、この中最長成績を收めてゐるのが慶應で法政を6—0で卻け第二戦の文大との試合は文大が選手不揃ひのため棄権したので不戦勝を記録して二勝となつてゐる。

期待された早帝戦は雨後の球場ではあつたが球場の状態では些程悪くもなく双方二人の不參者あつてナイ

なかつた事が認められる。

古色蒼然たる

往時の名手を拔擢する所は斯界のため慶賀すべきであるが勝利の前にはそのボディシジョンを埋める程度の役割しか演じてゐるのではこの結果は當然と言へよう慶應が法政に對しての一戦に於ても長坂、松丸、濱田の諸君が主張をなして得た爲めに鮮やかな勝利を收めてゐる、OB試合に於て勝った人が爲めには主戦選手を

擁する事ご體力的に見た實力の近似したもののもつて編成してあたる事が尤も有効である。

この點からいふならば慶應は優勝候補であり帝大の一戦は争覇の鍵を祕めるものであらう、早大は對帝大戦において

球年齢の相違

甚だしい爲に結合を亂して優勝圈外に拉し去られて了つた、此他明、法共により期待し得る往時の名手を擁してゐる割に振はないのは新人OBの活躍に依頼する結合自慢がある爲めより見られない。

OBリーグを總花的にスケデュールを組むよりも今シーズンの戦績に徴して二

部制、三部制に組織する必要があらう、選手の不揃、棄権の防止はOBリーグの内容を盛るために重要視する事は改めていふまでもない。

S 8 - 3 - 15



アストンヴィラ対チエルシーの蹴球試合は二月十一日スタンフォード・ブリッジで行はれ1対0の接戦でアストンヴィラが勝つた、寫眞はチエルシーのゴールキーパー、ウッドリー君が球をパンチしたところ

Association football, Chelsea vs. Aston Villa, Stamford Bridge, February 11, won by Aston Villa 1 to 0. Photo shows Woodley (Chelsea goal keeper) punching the ball.

S8-4-1



チエルシー対ボルトン・ワンダーラースの蹴球試合は二月二十五日スタンフォード・ブリッヂで行はれ1対1の引分けとなつた、寫眞はワンダーラースのゴールキーパーが熱球をセーブしたところ

Association football, Chelsea vs. Bolton Wanderers, Stamford Bridge, England, February 25, ending in a 1-to-1 tie. Photo shows Church (Wanderers) blocking the ball.

全日本地方対抗 蹴球大会の印象

山田
午郎

空虚な大会

時期を逸したために憂慮されてゐた蹴球全日本地方対抗選手権大会はこの憂慮を解消することなく僅かに三地方から慶應(關東)芳野(東海)堺中(關西)の三俱樂部チームの出場があつたのみで豫定を一日短縮し極めて淋しく舉行された。問題はこの量のみに止まらずチームの盛る内容も獨り優勝した慶應のみが一頭地を抜いただけで極めて貧弱で全日本のこの催しの中で稀に見る空虚なものであつた。

期待されてゐた中國地方がチーム編成上困難を感じて代表派遣を見合せたといふのも時期を失してゐたのが主因であると傳へられてゐるが他もこれと同じ理由の下にこの機会を捉へ得なかつたことは推量するに難くない。球界の三中心地代表を集めめたのみで、他地方は見すみす裨益されるこの機会を逸してしまつた。

誤れる指導方針

本大會開催の趣旨に伴ふ内容を盛るところの出来なか

つたのは當局者と共に返す返すも遺憾とするものである。この失敗した會期選定は種々の事情が伏在してゐるにしても常に地方球界の情勢を観望の外に置いて主要勢力地の局部的の發展向上にのみ偏倚する指導方針の然らしめたことが大きいことはねばならない。

四月二日開催された全國代議員會に北海道協會が提出した本大會開催期を十月もしくは十一月と決定を希望したのも當然の理由が存し本大會の實情が全會一致で可決するに至らしめたのは當然過ぎるほど當然である。

地方協會が意見を有しながら審議の末を豫想して埋藏し中央部の指令に唯々諾々たる一方各チームとの間に挾撃されて苦惱を重ね施す術なく殆んど無爲無力の存在たるが如き觀をしてゐる時北海道協會が一枚看板でも通過させたのは時宜を得たものであり地方殖産のため慶賀すべきことである。

無軌道行進

蹴球界の現状は空理草論

の時期にあらずベルリンのオリンピック・プログラムにおいて庭球と共に復活の見込ある蹴球競技に向つてチーム派遣の準備對策を練るの要ある時期である。このためにも局部的の指導から全國的の指導方針に轉換させねばならぬところが全國代議員會の唯一の議題として提案されるところもなく終つたやうに無氣力にして無軌道を走つてゐるのを慨かねばならぬ。

指導部の無軌道行進は制度の缺陷にもあるがこの是非は別問題として本大會はこの無軌道行進に災されたものであるところはいふまでもなく關東豫選における棄權看做問題もこの一實例として見るところが出来る。

大會組織ご内容の更正意見が擡頭してゐるが先決問題は空理草論から放れた熱意ある指導精神の確立と實踐指導にある。地方啓培のため存續の要ある本大會の更生を切祈しながら試合内容に觸れるところにするが前述した様に技術的には内容乏しいものであつた。

慶應俱對堺中俱

二日行はれた准決勝は關東代表慶應俱對關西代表堺中俱であつた。球場に多少濕潤の箇所はあつたが濱風も吹かずこの球場としては不良のコンディションとはいはれない。

慶應はH.B線のフィード不足とFW線が調子に乗り切らずスコアは三對零であつた。堺中俱守備線のマークがより決定的のものであつたならば或はこのスコアを縮小したであらうと思はれるものであつた。H.B線は慶應FW線の動向を省察するところなく進退を誤り攻守共に干渉するところが極めて薄く、この試合を決定してしまつたのはFW線の機會決定力の鈍かつたのと共に敗因として數へられるものである。

右近、駒崎兩君の巧緻の動きを封するところをせず放り出して置いたのは失敗であるが急造チームにはまだあり勝のところで責めるにはあたらないか。

チームとしての中心を有しなかつたものとしてはむしろ好戦に數へられるものであるかも知れない。センタースリーの動きと技術から見ればL.W.村田君のセンターリングが確實であつたならば無得點に終らずに勝

んだかも知れない試合であった。

決勝試合

決勝戦は堺中俱を破つた慶應俱と東海代表芳野俱との間に四月三日午後一時から良好なコンディションの下に行はれた。慶應俱はこの芳野俱を五對一で却けたがこれも順當な結果といふより他はない。芳野俱は愛知一師先輩に現役の二三人を加へて編成されたチームで洗練味に乏しいが相當強固なものであつた。殊に凄い銳氣は相手を壓服するに足るものがあつたけれども九十分の試合に對する練習不足は體力的に永續を許さず前半三十分ごろからチームとしての統制を亂すを餘儀なくされた。

開始後三分早くも幸運の一点を挙げたがこれを以て芳野の攻撃力を肯定することは出來ない。むしろ元氣のスタートを切つた芳野にさつてこの一點は死守するための焦躁を誘導したやうなものでその實力を發揮せしめずに終つたともいへる。L.W.山内君のこの得點前後の動きとそのセンター・リングは慶應右近君に遜色のないものであつたがこれに應する右翼の進退が伴はずH.B線のフィードも稀となり次第に山内君自身のボ

ーションも荒れてFW線の攻撃力は俄然鋤つて守備に傾きこの結果守備線は増幅されるところか却つて混亂し綾を織るやうな慶應の速攻に悩まされ自滅の一撃をも獻じて五對一のスコアで敗れた。

順當の結果

芳野が凄い氣魄に機先を制し速度を盛つた試合は慶應を一時周章せしめリードしてゐたが單純な試合運行はこの試合を物する事なくをはるのが當然であつた。キックアンドラッシュの中央突破、フォロウなき進出、縦線のみの攻撃等効果なき攻撃線を布いてゐたのはこのチームとしての試合場数の少かつたにもあるが試合運行の妙味を缺いてゐたのは頭脳的に試合を進めることをし得ないところにあつたといふより他ない。餘裕のあるなしに拘はらず効無効を顧みず状勢を無視して行つてゐたバッティングはこれを語るに有力な一例である。チームの素質といふものがいいはれるならば素質あるものといへるがチームとしての完成までの間隔を残してゐる。

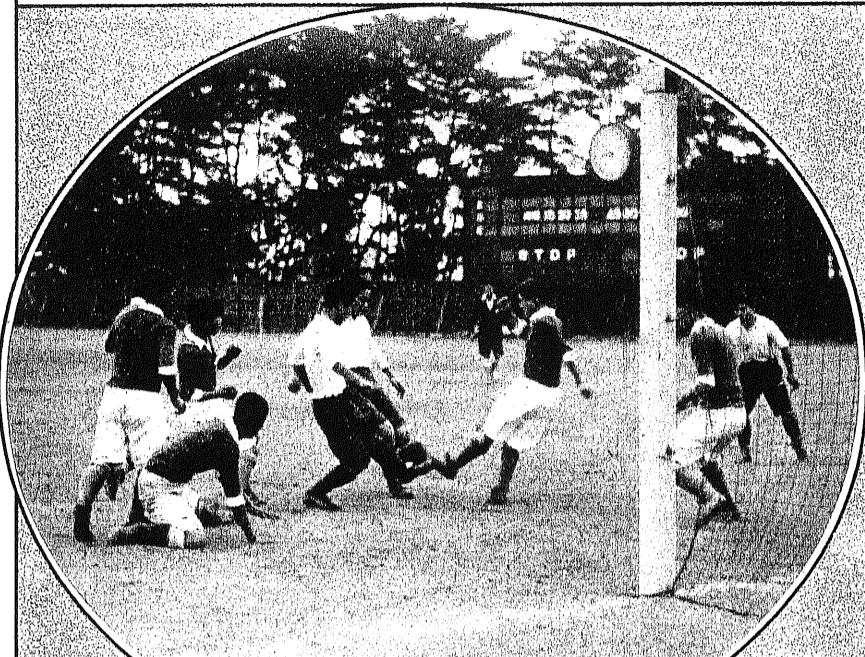
要するに洗練までは行かぬ粗雑なチームとして今後を期待するものである。ハーフタイムの直前ペナルティキックのチャンスを捉へこれを凡蹴してしまつたが意氣でスタートしたチームであるだけに3-2と内薄したなら最後まで緊張した試合を記録し得たらうござしまれるものであつた。慶應は失點を記録したが小林君に上背があつて球質が早く知られたものならばこの處置は出来たであらう。いづれも上乗の出来榮えといふところは出来ないが氣分がシックリ合つてゐるためにチームの缺陷をよくかばひながら巧みに試合を進め得た。辻君など練習不足に災されるところあつたがバックリーンの細密な協力はこれを露はさずに済んでしまつた。駒崎、塚部君らいよいよ完成に近く右近君のL.W.は往時のそれを一層光あるものとしてみたし岩波君が兩度の危機を脱したあたり老巧と稱へらるべきである。

兎まれ結果は順當なもので刺激少い中部にある芳野の精進を祈つて筆を擱く。

58-4-15

全日本地方対抗蹴球戦の優勝戦

四月三日甲子園で舉行
関東慶應俱5—1東海芳野俱



前半慶應フォアワードの攻撃



前半慶應駒澤君單身敵ゴール
を襲ひ芳野G K梅本君これを
防ひ止めるところ



優勝した関東代表慶應俱樂部
チーム



後半慶應の猛襲に對し芳野俱の梅本君美技を見せて得點を阻んだところ

Association football, Kanto Keio Club vs. Tokai Yoshino Club, Koshien, April 3, won by Keio, 5 to 1. Top and middle left: Attacks by Keio forwards. Bottom-Left: Victorious Keio team. Right: Umemoto, Yoshino Club goalkeeper, makes a fine stop.

東西學生蹴球界展望

西は京大・關學に關大が擡頭

東は慶・早・帝の鼎立

關 東 の 卷

山 田 午 郎

ビッグスリー

十月一日慶文、早農の試合でシーズンを開いた東京學生蹴球聯盟の今季におけるスケデュールは二十二日を以て三分の一を終了した。第一部は十九日の慶農戦までの七試合を通じて見るに慶應依然強く早帝またこれに劣らぬ強陣を布いて第一部においてビッグ・スリーを形成し農文および成城はそれぞれ三勝二敗の戦績を残してシーズン後半に順位を決定するといふ状態で確然とA.Bクラスの實力差を示してゐる。一方第二部は立教、法政の戦績は制覇の鍵を祕めてゐると思はれるが明治にしても東高にしても一敗の戦績をもつてしてはこのシーズンを捨てる

にはあたらない。一部から轉落した一高振はずシーズン前呼び聲の高かつた東京商船案外の不振で順位決定に錦を削るに止まるのではないか。

◆ ◆ ◆

慶應 農文及び成城を破つて早くも三勝を記録し早帝の強敵と相見えんとする前シーズンの覇者慶應は三戦を通じて見るに試合の運びは最も優れ豫想されたやうに優勝候補の第一に推さるべきものである。冒頭の對文大戦は相手の文大チームとしての形態を具へてゐなかつたにしても12-0といふ本リーグ戦創始以來の大量得點で制勝したのも陣容移動範囲の極小さ精神的統制の融

和にあつたものでチームとしては斷然すぐれた結成を示してゐる。攻めるに早く確實な球捌きゴール前の球の處理は巧いといふより他になからう、新人播磨君にはギゴチなさはあるが些して櫻井君には劣つてゐない、新人としての躊躇が缺陷といへばいへる位のものであるに過ぎない。

三試合の得點二十五點は攻撃力の優秀性を遺憾なく示しこれに反し失點は二點守備力の缺陷を物語つてゐる。正當な防陣であるならば農大に許したこの二點も阻止するには決して困難なものではなかつたがそれが穴といへばいへもしよう防陣の失敗であり缺點である。攻撃即ち防禦の鐵則に馴れ過ぎた攻めるを知つて守るを忽にした結果でフォーメイションの自潰にある。快速のドリブルーこれ

に應するFWメンがあれば慶應の防陣與し易してある。

いづれにしても奪はれるゴールよりは奪ふゴールが多いことによつて慶應に期待をかけることは強ち無理ではなからう過去の事實である。

◆ ◆ ◆

早大 早大のFW線は前シーズン異なる編成を試みたがいづれも進歩途上にある。平松長谷川のセンターリングは慶應の駒崎、藤岡のそれよりも確實味乏しく川本はC.Fとしての津村の球捌きに見劣りはするがそれだけこのFW線には頑強さがこもつてゐて侮り難い。巧味はないが、この執拗さが恐ろしい、新たに布いたH.B、F.Bの兩線は鮮麗な技術を有してはゐないが忠實である点において他にヒケをとつてゐない、G.K熊井は慶應の纏纏と共に殆んど優劣がないけれどもその技術過信から生ずる餘裕ある球捌きに失敗を招かぬとはいひ得ぬ。

慶應がチームに巧味を盛るのに比べたら不安は残る

が孜々として動く所に早大の氣魄が流れ前シーズンよりも興味満溢の早慶戦を演じるのではなからうか。慶應が思はぬ悪戦をしたと同様に早大も農大を相手にして悪戦をした。相手の農大が意氣を力に對戦した結果にもよるが攻撃よりも守備に滑らかなコンビネーションを缺いてゐるのは見逃し得まい、H.B線もゴールカヴァに加擔する事を否定するのではないか先づマーチングが防陣の第一則ではないか。

東大 永い傳統の巧味をさらりと捨てた帝大は基礎工作の途上に精進をつづけてゐる、巧味より強味への轉向は帝大をしてこのシーズンに過去の偉大な業績を讃美せざるまでには至らないであらうが高校時代の意氣をそのままに持続せしめんとする轉向は今後に期待をかけさせる。

對農、對文の苦戦を續けた二試合を通じて見る帝大はこの過渡時代の所産を暴露したに過ぎない。そのいふが如く攻撃線の劣弱、守備線の薄力は辛くも過去の記録を保たんとしてゐるが

如くであるが突くべき機會に突くことを忘れず捌くべき時の球の處置等劣弱の中にも試合運行の眞諦をよくさらへよく示してゐる。時に定型を離脱した動き、球捌きはこの帝大にのみ見られる長所であるがチームとしての完成度にありますためこれが災するこなしさはしない。これも成城を破つて慶早とともに三勝の同成績で争覇の資格をさらへるのであらうが慶早をして大成に甘んぜしめるこなはいだらう。

C.H高山君がブレイに老巧味を増して氣強いがG.Kに人のないのは帝大の悩みである。

◆ ◆ ◆

農大 は早大に5-1、慶大に5-2、帝大に3-2でビッグ・スリーのゴールを熱れも傷つけた程このシーズンはチームとして立派なまざまりを持つてゐる。練習試合を放棄して個人の完成に努めた跡は懐ばれるがFW線のゴール前における判断は鈍い結果を招いてゐる。要約すればゴール前の球の處理が拙

* 右ページへつづく



慶應対成城蹴球戦に成城ゴールキーパーがノックでピンチを逃げたところ
Seijo goalkeeper knocking the ball in the Keio-Seijo association football game.

※
左
ペ
ン
シ
カ
ウ
ツ
づ
く

劣である。それと共に C F 群山君が F W 線を率ゐることをせぬ單端の動きは時によい結果を見せ多くの場合はコンビネーション・プレーの反逆者として失敗を招いてゐる。

然し直撃な練習の跡歴然たるチームの動きはビッグ・スリーに對し好判断を出足の速さが加はれば立派にタイに進めることが出来る。今後の試合に勝利の焦躁がなければ第四位は確實に見られる。

文大

は慶應に稀有の惨敗を喫してから奮起した結果が對帝大戦において示されたがそれも全試合を通じていふことには至らなかつた。駿足榆林！ それは文大の唯一の誇りであつたに相違ないが球を放り出しての駿足は試合の上において何物にもあたらない。キッキングの不確実を第一に屈指するなら他は推して知るべし個人は勿論チームの形態を具へる所まで行つてはゐないといふも決して過言ではない。

對帝戦前半 1-1 を後半に移しながら帝大の力を忘れて攻めるを知つて守るを忘れた當然の結果は意外 9-2 の敗戦となつた、文大にはその特質を生かして行くべき道ありさいひたい。

成城

シーズン前全く無力視された成城には薄力の中にも掬すべき妙味をたゞへてゐる。力の伴はない憾みはあるが蹴球の正道を解した球の操作があり試合の運行がある。これを忘れなかつたら文農と相當の試合が出来よう、合理的の球の扱ひは文大に比すれば數段の巧みがあるといふべきで懸念されるは體力の劣る點にある。

二部

第二部では立教の呼び聲高いが對東高戦を通じて見るなら決してその制覇は樂觀出來ぬし法政は吉田の病めるため豫期したこのシーズンがチームの中核を喪つて辛くも支へてゐる状態にある。明大は法政に敗れたが漸く更生の秋を迎へ精勵如何によつては今日の曙光をさらへて復活を謳歌する所

まで行くであらう。東高は何時もながら強力不足に祟られ勝つべき試合を逸し商船はすぐれた體力に依頼しがちでチームとしての完成は未だしてある。一高は轉落、チームの變動によつて消極的な試合の運びに不利を招いてゐる。第一部の如く A、B 級を確然させず混沌たるものがあり順位争ひは頗る興味が深い。

關西の巻

三宅 二郎

京大 前年度の覇者たる京大は今春インターハイから多數の新人を迎へたが、F W 線に中野を残して西村、一藤松江、山口の四君をズラリと失つて、攻撃力は著しく低下したかの觀がある、對外語及び對大商大戦には試合から暫く遠ざかつてゐた伊藤、真田と中野を以つてセンタースリーを形成し兩サイドには新人長岡(成城出)を左へ高田(大高出)を右へ配してゐた、ところが對大商大には長岡を眞中に吉井山中を L I と L W に起用するなど前線の整備に少なからず苦心してゐる、對大外語は生憎雨中戦となつたため内に藏する力を十分に察知出来なかつたが、對大商大には前線の不統一を明らかに暴露してゐた。

セントラル セントラルは盛んにスルーパスを用ひんとするが、大商大のバツクにカットされ勝ちでまた長岡はかなり強いキックを持つてゐるがボールは浮氣味で正確さに欠け、殊に R W の高田はボールのコントロール甚だ拙劣でウイングとしての効力を發揮するところが少なかつた、突つ込みはかなり強いが、未だ定つた形なくチグハグで前年より遙かに

低下してゐる、對關學及び關大的試合までには何とか繋りをつけるであらうがさもなくなければ苦戦はまぬがれぬであらう。

H B 線では H B 高木を失つた跡には三輪、福安等をもつて十分に償ふであらうが H 山本は大外語試合に足を痛めてゐたが勿論今後の重大な試合には出場するだらうし H 山本邊さ相俟つて他校には遜色なき攻防陣を布き得る、新人の L B 持地(成城出)は珍らしく強いキックを持つてゐる餘裕あるポールに對してはまづ完全に應酬してゐたがモーションが大き過ぎるきらひが

あるため細かい技が攻められた場合にはそこから破綻を來たすのではなくらうか要は R B 植木の地味なプレーと G K 金澤とのトリオ・ワーク如何にある。

關學

昨シーズン十中八九まで覇

權を掌中に收めながら最後の對京大試合にうちやりを喰はされて恨みを呑んだ關

學は今シーズンその覇權を奪還し得るであらうか、今までに示した試合振りを見るならば京大と同様に昨年より大分劣つてゐることは否めない、バツクは L B の萬代を失つただけで、前シーズンとは大して變動ないが、L W の島と C F 東浦の二人が學窓を去つたことは同チームにさつては致命的といつて良い大きな損失である、この點京大とさもに深い悩みである。全日本地方對抗關西豫選決勝試合の對湯浅蓄電池及び對神戸高商との試合から見て左から武井、山藤、朝田、西邑、野澤の配列を根幹としウイークボイントは隨意新人抜擢のことにならうが、何れにしても優れた線とはいひ得ない。

F W 線中體をなしてゐる者は聊か極言に過ぎるが西邑のみである、西邑の技は益々冴えて獨自のフォームを作り上げ一大威力を藏してゐるが彼の持つパワーはやゝもするご他の動きに緊密でないため屢々チャンスを逸し勝ちである、要するにこの線は元氣にそして良く走ることによつて唯一の活路を見出だしてゐるに過ぎないやうな氣がする。



農大対東京帝大蹴球戦に農大ゴールキーパーのセーブイング
Aggie goalkeeper saving in the Tokyo Agricultural U-Tokyo U association football game.

對神高商試合の時 L W の武井の動きは餘り香しいものでなかつた、R W 野澤はリーグ中ウイング・プレイヤーとして隨一のスプリントアーリングであるがセンターリングに何等變化なくただ真中へ送るに過ぎなかつた、今少し機に臨み變に應じての處置がほしい、然し勵まば將來大物になる素質を十分に備へてゐる。

R H 川西は今シーズンめきめきと腕を上げ仲々よいサイド・プレーをしており O H 三崎は時折の缺點はあるが然し時宜に適したフットワークを示して捨て難いところがあるから重厚な攻撃力と防備層を作つてゐる問題は右サイドに残されてゐるのだが、對湯浅及び神高商には朝比奈を出場させてゐたが彼にはまだ果敢な點に缺けてゐる、勿論このサイドは R B 伊藤が控へてゐるが L B 松井はまだ若いだけにピンチに際しての心配が残されてゐる、對神高商には頗る苦戦を招き勝利はどちらに轉ぶか豫断を許さない有様で神高商自滅の一點で危ぶく勝利を掴み得たにしても關學にさりあの試合は全く勝負なき凡戦であった、勿論それは L W 線が七、八分の責を負はねばなるまいが、然しバツクも辯解の餘地なき試合振りであつた何故あれほど苦しい運行を續ければならなかつたかと思はれるほどであつた、それには神高商の善戦がしからしめたのも原因してゐるが、内部的缺陷がそこに爆發したもので内省する要があらう。

幾多の駿鋭を擁する湯浅を破つた力を持つてゐるのだから問題は如何にしてコンディションをベストに置くかに留意すべきであらう

關大

C F 和泉、C H 山野の二人をチームの中軸から送つた關大的打撃は大きいが、F B の奈良を山野の跡に奈良の後繼に法政から轉じた渡邊をそして C F に西山を据えて失つた穴を埋めてゐる京大、關學の兩者に比較するご幾分引け目ではあるが兎に角近來の充實振りで用兵如何によつては前二者の牙城に對等の太刀打ちが出来やう。

東京カレチ蹴球戦評

更生の文理大健闘して敗る 対早大戦における賞すべき玉碎

竹腰 重丸

更生の文理大

今シーズンの文理大は第一戦に慶大を戦つて未曾有の大敗を喫し、續いて東大にも後半戦の潰滅によつて大差をつけられそのまま進めば農大はもとより成城にも敗れ去るのではないかと危ぶまれてゐた。一方早大は農大及び成城に見様によつては慶大、東大よりも遙かに樂々と勝ち續けていたためにこの日の試合は恐らく早大の一方的試合に終るこゝと豫想せられ、文理大にさつては勝利の確信がない、早大にさつては決して敗北の虜れを懼かない試合であつたと思はれる。然るにこの日の文理大は、対慶大戦に二點を先取されて後に殆んざ棒立ちとなつて慶大の膝牆に委せ或はまた対帝大戦に決定的な得点差が出来て後の鬪士を失つた様な戦ひ振りを繰り返さず徹底的に頑張り續けて、三対一で敗れたけれども精神的には既に更生した文理大チームを見ることが出来た。

前半戦の二十数分間は殆んざ早大陣で戦はれ或は文理大が先に得点するのではないかと思はれたが決定的な得点となつたのは二、三回に止まりそれも文理大F・Wのシューティングに移る最後の動作に滑らかさがなく切れ目が出来て潰されたり或は時機を失したため遂に一點も挙げ得なかつた。

早大の球操作

この文理大優勢の戦況は文理大がボールを巧くキーでして出来たものではなく、早大のバッック・メンが例年なく球操作に難澁する傾向のあるのに乘じて文理大フォワードが優秀な體躯を利して潰したのによるところのが至當で、それに呼應して、前の二試合では消極的だった文理大の兩翼H・B並びにF・Bが非常に積極的に出てそのF・Wラインを洩れて出る球を良く拾ひ早大F・Wに容易に進出を許さず期せずして攻撃的

な守備体系が形成されてゐた。

たゞ文理大F・Wは情況判断が悪くまた個々の技術が洗練されてゐない爲に非常にギコチないバス・ワークとなり壓迫してはゐるが、観る者には攻撃してゐる感じを與へる場面は稀で文理大としては手薄な早大バッックを突き崩す意圖で戦つたのであらうが第三者には平常の味方ゴール前で持ちこたへやうとする守備を棄てて前で守る試合をしてゐる感を與へた。この亂戦中に早大はむしろ悠々と試合し逆襲の機會を巧みに掴んでL・W・平松-C・F・川本-R・I・長谷川と滑らかなバスに進んで一點を挙げ續いて壓迫した形の下にノウ・マークになつてゐたR・Wにヘッディングのボールを送りそれがC・F・に折りかへされ鮮かな第二點を得た。文理大は今年はミッド・フィールドでの守備を放棄してやり、この第一點の際の早大F・Wのバスは早大としても稀に見る滑らかさを持つてゐたため文理大としては殆んざ手の下しやうがなかつたといひ得やうがR・IがC・Fから球を受けた際一度コントロールを失つたからゴール・キーパーが適宜の處置をとつてゐたら或はその最後の線で危機を脱し得たかも知れなかつた。

文理守備の缺點

第二點は文理大守備の缺點を最も如實に示したもので、今年の文理大はたゞゴール前に早く歸つて立つのみで敵手のマークを全然忘れ殊に兩翼F・Wを放置して顧ない。この第二點の際には先づ球を反対側の早大R・Wを徹底的に自由に放置し、次には好位置にあた川本のマークを忘れて軽く得点されてしまつた。この場合は早大の逆襲を受けてゴール前で人數不足を來したわけではなく漠然とゴール前に歸つた結果R・Wを放置した形になり、更にそ

のヘッディングに當つては全員たゞその球が何處に飛ぶか眺めて特定の相手のマークを忘れてしまつたのであつて此際の守備は、ウイング・フォワードをミッド・フィールドでもゴール前でも自由に活動させてただゴール前に集らうとする傾向及びボールにのみ注意して相手のマークを忘れる傾向のある文理大守備の決定的な缺點を如實に現はしたものといふことが出来る。

後半戦に入つてからは早大も漸く本來の姿に立ち返つて前半の亂戦に比較すれば可なり整つた戦況となつたが早大F・Wには文理大守備の缺陷を突く決定的なバスが出ず個人技術の優秀さも文理大バッック・メンの捨身の防禦に潰され一點を挙げたに止まり文理大もII・Bのフィードに威力なく、またF・Wはバスを受けて後の處理(バスするにもドリブルに移るにも)に手間取つたため走力を生かし得ず早大バッックを潰し

て一點を挙げたに過ぎず兩軍共に戦況には相應しい僅少の得点に終つてしまつた。

有終の美

早大の得た第三點のキメは殆ど川本君の個人技に資るもので早大FWの形の整はなかつたあの場合單獨で得点する意圖で進んだのは機宜の處置であり、まだドリブルに正面から向つて来る文理大バッックをボールをそのままさし身體を右に持つて行つて右方に釣り左足で球を軽く押してキーパーの逆に入れた動作は鋭さはないが非常に巧妙な技術と稱揚して良いと思ふ。

兎も角も大量の失點を案じられてゐた文理大が決定的な差が出来て後も良く頑張つて遂に有終の美をなす一點を挙げまた技術的にすぐれた早大が全時間殆んざ互角の戦況を維持出来たことは文理大が勝敗に拘らず有りつけの力で早大にぶつつかつて行つた賜物であつて、その精神で技術の練磨に努むれば今シーズン中更に一段と強さを増すことを想像せられる。

GKのファンブル、三點目は成城FBのキックが轟けて來たし菊池君の膝に當つて遠く跳返つての思はぬ儲け物、そして最後の一點はGKが高山君の蹴つたPKを折角止めて置きながら後の處理悪く高山君に拾ひだされ、フォローした菊池君に入れられて丁つたといふ風に、少くとも三點は敵の凡失から得たものである。

策を誤つた東大

勿論得點はそれが凡失から得られたからといつて過少に評價されはしないが、非常に粒の揃つた帝大FWラインにして見れば、あの戦術的に極めて幼稚な成城バッックメンに對して、當然決めるべき點の決め方が少かつた、或ひはもつと根本的にいへばあのバッックメンに對してさるべき攻撃方法において最善の策をさらなかつたといふことがいひ得ると思ふ。

試合開始後忽ち帝大は成城陣に攻め込み十七八分頃に一度ゴール前を襲はれた位で殆んざ戦は成城側の半分で行はれてゐたといつていい、この間成城バッックメンは非常に鈍い不規則な動

きを示し、帝大FWはH・Bの支援をうけて全面的な攻撃を加へた。この攻撃は大體においてゴール前で球を左から右に移し、右から決める作戦だつたらしく(例へば最初の得點は右寄りからR・Iのシュート、十五分ごろにはL・WからのおよびR・IからのバスをR・Wが二度ミスシュート、二十分ごろにR・Hのミスシュート、二點目がL・IからのバスをR・Iシュートといふ風に)左側の弱い成城に對してはこの組立ては正しかつたといへる。

鶏を割く牛刀

が後半になつて成城が球

を持ち始めた。このイレヴンはかつての対慶大戦にはノーストップのショートバスによる素早い攻撃を組立てゝゐたのだが、この日は地面が滑つた爲もあるが非常に粗雑なキックアンドラッシュをさり、帝大ゴール前へ迫る時には兩インナーが遅れており前の三人に決定的なシュートがなく徒らなる前進を繰返すだけだった。が前半壓倒的な優越を保つた帝大はこの後陣を脅威され試合は殆んざ互角に進められた。この時になつて成城は帝大の乗ずべき絶好の弱點を暴露した。前半は殆んざ壓迫されてゐたために餘り目立たなかつたのだが、後半自軍のFWが帝大陣に攻め込んである時にさつてゐた兩FBの餘りに下り過ぎた位置。この抜かれるために立つてゐるやうな、そして帝大FWに球が出るご狼狽して前進し彼等が球をマスターするご度はじりじり後へ下る兩FBに對して、帝大の前の五人は決して巧みな攻撃を構成しなかつた。具體的にいへばこのFBの配置に對しては恐らくセンタースリーによる正確なバスが最善のさるべき方法であつたらう。それなのに兩インナーが遅れる場合が多く止むを得ず球はどちらかのウイングに送られた。その暇に抜かれたハーフバッックが戻つて來てゴール前に集まる爲に折角の攻撃が挫折した。後半戦二點目のL・WからのセンタリングをR・Iが頭で決めた得點の如きはたまたまこれが成功した例で、これらの兩ウイングの使ひ方はむしろ鶏を割くに牛刀を持つてした感があつた

戦術不足の成城

若しも成城のこの兩FBがもつと積極的に前へ出てプレイに參加すれば、從つて兩サイドハーフも前進するこゝが出来、更に從つて兩インナーがゴール前の決定的な瞬間に間に合ふこゝが出来るのだが、そして主としてC・F及びR・Wによつて造られた數度の好機をものにするこゝも出来てゐたらしい。

要するに成城の若いプレイヤー達には未だ蹴球に対する理解、或ひは根本的な戦術的研究が不足してゐるのだ。



京都帝大対高商蹴球試合に京大フォワードのシュートを神高商GKセーブする
Kyoto forward rush in the Kyoto Imperial-Kobe Higher Commercial football game.

※ 写真と記事の中味にとくに関係はない

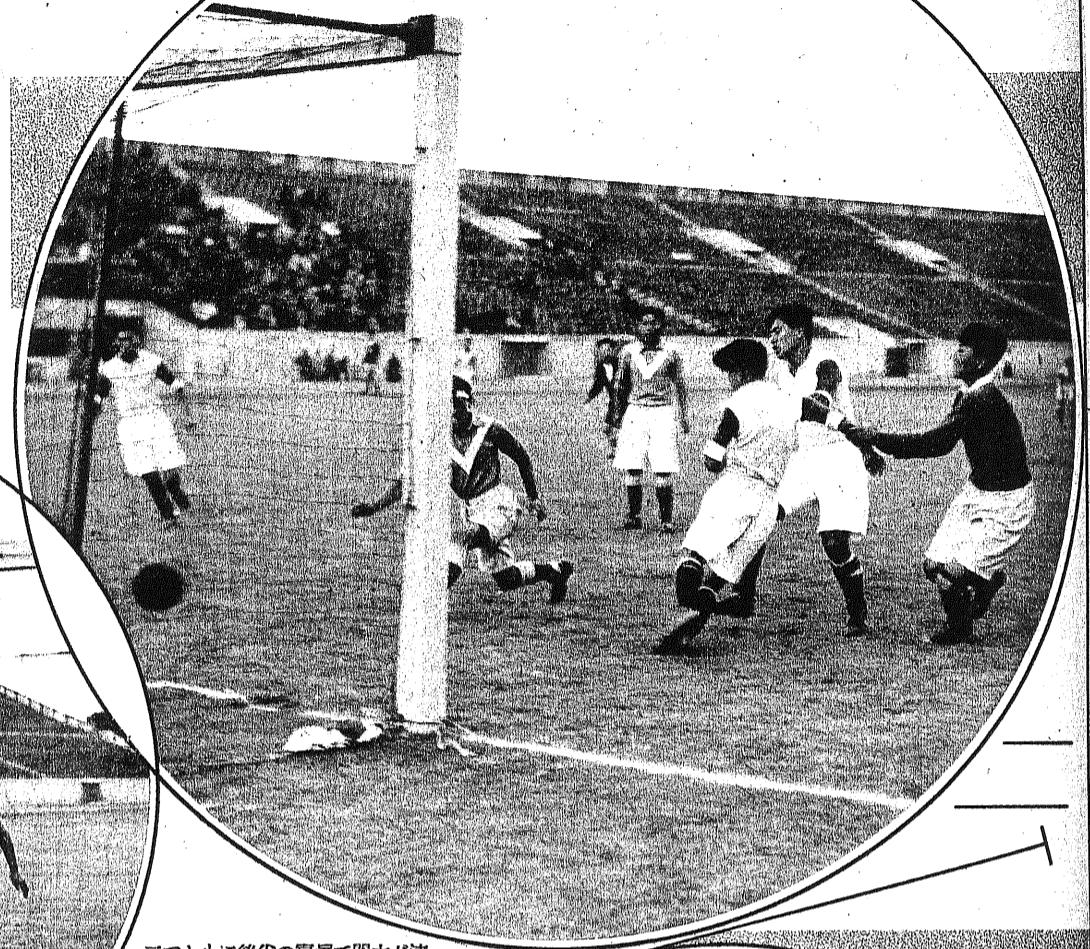
S 8-11-15

關西大學對神戶商大蹴球戰

十一月三日甲子園南で舉行

5-2 關大勝つ

Kansai U-Kobe Commercial U association football game, Koshien, November 3, won by Kansai U, 5 to 2. The two photos show Kansai U scoring twice in rapid succession in the second half.



二つともに後半の寫真で關大が連
續得點したところ



京大の攻撃を神高商フルバックがヘッディングで逃る



Kyoto Imperial-Kobe Higher Commercial association football game, Koshien, October 28, won by Kyoto, 8 to 3. Top: Kobe stopping a Kyoto rush by heading. Bottom: Kyoto left inner makes a goal in the second half.

京帝大對神高商蹴球戰

十月二十八日甲子園南で舉行

8-3 京都帝大勝つ

後半京大LIの得點するところ

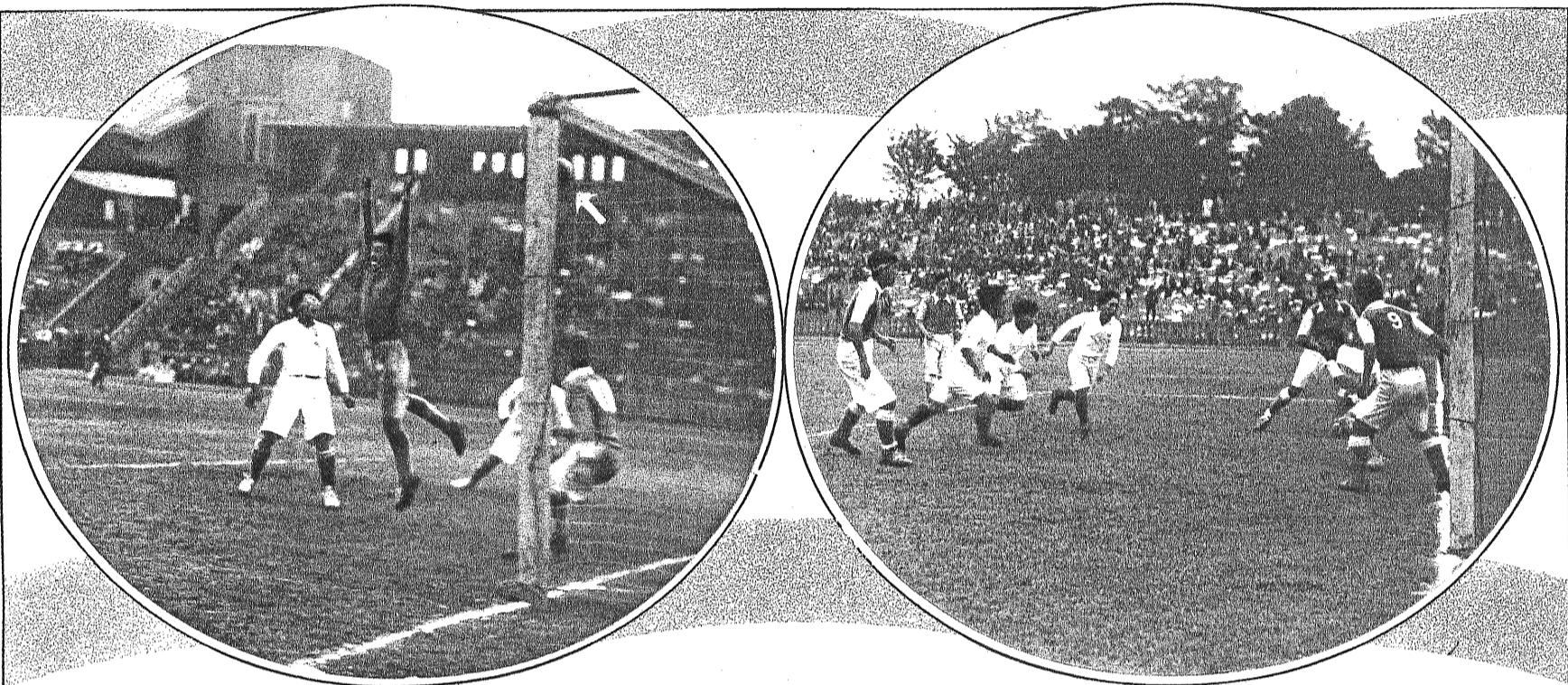
蹴

球

競

技

春の四月に行つた昭和七年度全日本地方対抗選手権大會は關東代表慶應俱樂部の優勝となり昭和八年度の大會は神宮大會に併せて行はれた、慶應俱樂部に代つて慶應B R Bが關東豫選に出場したが決勝戦において東京O B俱樂部のため恥い敗戦となつて慶應俱樂部の意思を繼承することが出来ずに終つた。辛苦の試合を重ねはしたが東京O B俱樂部の關東代表は先づ當然と見られよう。關西豫選はコンディション不良とはいへ湯浅蓄電池が爆破されたほどに試合を進めるこなく關學の前に代表権を喪つたのは番狂はせとも見られる。關東、關西の二代表の他に朝鮮を除く北海道、東北、北陸、東海、中國、九州の六代表の出場があり全日本地方対抗選手権としては勿論、神宮大會としても内容は申分ないものであつた、運命のあることによって試合の結果にも幸不幸はあつたが結局は關東代表東京O Bが覇權を握り、關東は第十回東大LBの優勝以來三回連續覇權を掌握した。



仙台対廣島の准決勝、廣島の得點

東京OB対關西學院の准決勝東京の攻撃



東京OB対仙台の優勝戦、東京第一点を入れる



東京OB対仙台の優勝戦、東京の強キックを仙台GKよくセーブする

Association Football. Top-Left : Semi-final game, Sendai vs. Hiroshima. Top-Right : Semi-final game, Tokyo O. B. vs. Kansei Gakuin. Bottom-Left : Tokyo O. B. scoring the first point in the final game against Sendai. Bottom : Sendai goalkeeper stopping a kick in the same game.

充実した地方対抗試合

老巧の技牙えて東京OBの制覇

山田 午郎



蹴球試合に優勝した東京OBチーム
Victorious Tokyo O.B. association football team.

活氣ある試合

本大會を通じて印象深いふならば函館蹴球團(北海道)と仙台サッカー俱(東北)の目覺しい進歩であり東京OB(関東)が回を重ねて崩れることなく大會中次第に個人の調子をあげチームとして完成を示したことOBチームとして珍しいことであつたといへよう。

春の出場僅か三地方さいふ寂寥々たる大會を見て本大會に眼を轉するならば數の多きにおいて活況を加へた許りでなく本大會の使命を達する上において理想的のものであつたといへるだらう。

二十七日の第一日から三十日の最終日まで二十九日の准決勝が雨後の悪いコンディションであつたのは惜しまれる、殊に争覇を目された關學大(関西)對東京OBの試合があつただけにこの不良のコンディションは惜しまれるものであつた。

關學對富師

第一回戦の關學大對富師蹴球團(北陸)は先づ順當な結果であつたといへるであらうが前半富師の力闘から見るならば6-1の大差が著しく目立つ、富師は個人としての抜群は漸く著へられてゐるが判断が鈍い爲にさるべき球を落しバスが多くカットされて攻撃力を減殺してゐたのは特に目立つてゐた、試合數少く場慣れしてゐない寡少の経験から見るならばこれは止むを得ないといふよりほかにないが試合の推移は経験を離れた判断にもまつこが出来る

はずである。体力は優れ個別の技術は見るべきものがあるがチームとしては滑らかな連鎖がなく判断の鈍いと相待つて實力のすべてを示す能はず不利な試合に終始してしまつた。

HB線の進退は合法的のものではあつたがそれは新しい型を踏んだだけ動きの効果をあらはすところまで行つてゐなかつた、攻めるにしても守るにしても鋭さのこもつてゐなかつたのは新しい流れを汲んだだけで形態的の完成から相手をリードする域にまで達してゐない結果であつたといふより他はない。富師は關學大に引込まれて實力を傾げ得なかつたで盡きるのはなからうか、關學大は後半に入つて球場に慣れ富師は鋭い動きの穴をあけてスコアを開いた。

東京對函館

突つ込みの不足から零敗を喫して退いたが函館蹴球團(北海道)は東京OBと堂堂の対戦をした。一言にしていふならば異常の躍進を遂げた驚異である。開始直後一分の機会においてCF仲村が餘裕を持つてあたなればと惜しまれるものであつた。東京OBは北邊の小敵が思はぬ大敵であつたことに陣營整備を周章の中に急がせられた。もしこゝに一點が決つたならばその感を深めさせるもので仲村の判断錯誤は大きかつたが強敵に對する冒頭の偶ま生じた機會にこの錯誤は致し方ないといすべきだらう。

函館の強い押しに試合は熱風を孕んで好試合となつ

た、荒井の率ゐるHB線は東京のそれを凌ぐ廣範囲の力強い活躍を見せ十五分、二十三分のピンチをよく脱した、然しこの直後に起つた東京の機會は忠實なマークなくして一點を失つた。函館の手ぬかりといふよりは手一杯の試合に見せなかつた穴であり巧者の東京がよく捉へたこの缺陷であつた。一點でよくくひ止めた函館は二十七分さハーフタイム直前にインナー曾和の適時進出があつたならと思はれる機会があつた。後半は極度の緊張の後に製つた弛緩によつてフィールド全面の鋭い動きはなかつたが函館の反撃力依然強く試合興味をたゞめてゐた。結局一點を加へられて二対零となつたが函館の健闘は敗れて悔いなきものであつた。殊にHB線の活躍は特筆に値するものである。FW線兩翼の長短、強軟のセンターリングと中央三人の鋭いラッシュが盛られるならばこのHB線にしてこのチームの攻撃力は申分ないものとなる。

仙台對靜高

静岡高校(東海)はその結合の中に強靭さを見出すことが出来ずFW線は後陣の相當豊富な給球あつて機会としてもきめ手を持たず十三回のCKも仙台を襲ふには物足らなかつた。押しも極めてなまぬるいものでゴールを決定するには薄力なものであつた。後半R.I木下強引な單走あつたが後退してゐた兩インナーの追走なく仙台バックスのため潰されて終つた。いづれにし

ても攻撃線を細密にすることなく守備もまたこの感深い、スコアは2-1であるが深い感銘を持たせる試合ではなかつた。静岡はチームバランスのさてゐる上に闘志を盛らねばならない。

廣島對熊本

熊本は走力を利かせ元氣に任せて出るが球がつかず結合の粗雑は大まかな廣島の守備線をつきまくることなく終つてしまつた。

試合終りに近く收めた二點は攻撃線を厚くしての結果でこれが前半においても示されたならば無得点には終らなかつたらう。廣島は迫力の鋭いものもなかつたが老巧なプレイにチームワークの粗雑を衝いてあた、試合は熊本が常に後手を引く不覺それは熊本の若いところにあつたといふよりない。

東京對關學

關學は對大阪外語戰に傷ついた關將西邑君を起用するこが出來てチームを整備させた、東京OBとの准決勝戦は大會前において事實上の優勝戦と目されて迎へられたが關學のバスケットは案外悪く東京が細かく動いて攻守陣を厚くするのに對し間隙を多くしてゐた。機會は東京の決定的であるのに對し關學は寄せ球

が荒れそれに西邑を中心にしての攻め陣を布いて失敗を重ねた、これは西邑への集球主義を捨てて極め手を持つ西邑に止めを刺さす方が成功してあたであらう。C H 三崎は對富師戦より出来榮え悪く給球不足の恨みを残しHB線の後退を急がせながら前進機會を逸してゐた。

この結果に見て三崎君をいふのではないが體力からして川西をC Hに据ゑ三崎をサイドに置くならば兩者の技倆をより生かしチームを一層強力なものとするではなからうか。FW線兩翼のセンターリングが機會を作るに乏しいものであつた。タイムの誤測で試合は四分許り縮められたが、これは持久力のある關學にさつて大いに異存のあるところであつたらう。しかし敢てこれを好まず引揚げたのはスポーツマンの襟度を示したもので讀へるべきである。

仙台對廣島

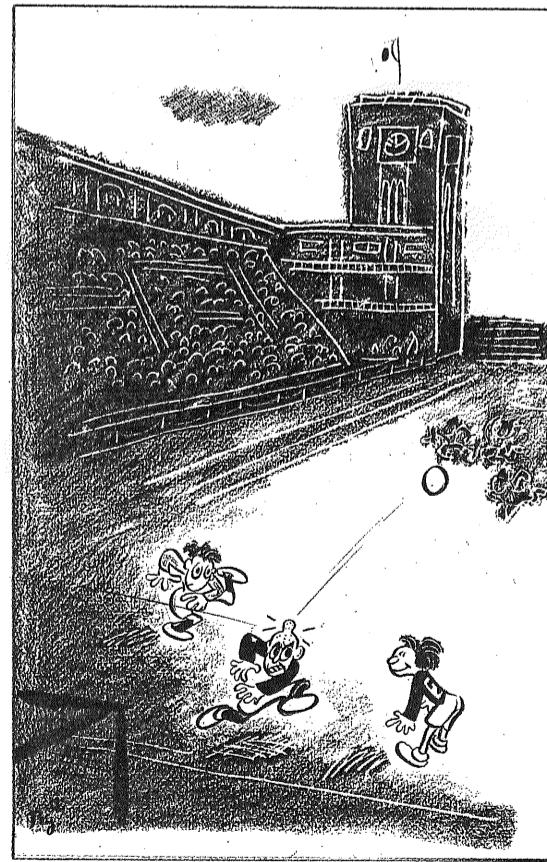
廣島は仙台の速攻に合つて守備陣を亂し一方攻撃にあたつてはバックスの前線返球淺く對熊本戦よりスピードを加へた試合をしたがこれは仙台の速攻に吊られたもので准決勝戦としては觀るに不足の試合を演じてしまつた。

東京對仙台

對廣島戦に漸くHB線も堅實のプレイを見せFW線の攻撃も威力を加へた仙台は東京OBとの一戦において辛くも一點を擧げて零敗をまねがれるの不出来な試合を行つた。尤も東京OBはラウンドの進出につれて好調の波に乗つた。特にこの試合において著しいものがあつた。C H 濱田の進退は適時に行はれ第一點を收める好調の事實を示した。FW線も兩翼の中央送球は効果薄であつたがいづれもよい動きと鋭い突つ込みに3-0を離したのは當然である。FB線は竹内の好送球と好返球に比し井出は亂調であつた。

しかし體力的に劣弱なところはあつたがよくこれをカヴァする巧緻があつた、仙台は真向から打ち込む生一本の試合に潰れたといへよう。しかし柳田、齋藤、永地の間に滑らかに行はれたトライアングルプレイは汎えてあたが局部的ではどうする事もならなかつた、根來は殊勳の一點を擧げたが齋藤と共に深く下り早く出づるの過重の負擔を引受けけるところまで行く要がある。

東京OBの善闘の前に勝利は兎も角として仙台の實力からすればスコアを短縮する事が出来たのではないか。R.H.柳田はC Hに置いてはじめてその全能全技がチームの上に力強く示されるものではなかつたかとも思ふ、東京は老巧の技に月桂冠を獲得した。



フットボール 横山 隆一

「有難う、君のヘッドディングで味方のチャンスだぞ」……「アチ、頭へモロにぶつつかつたんだぜ、誤解するな」

アサヒ・スポーツ

カレチ蹴球戦記

関大の雄圖

H·Bの不振に空し

京大、關大試合評

三宅二郎

京都帝大對關西大學蹴球試合に京大フォアワード關
大のゴールに迫つて長岡君センターリングする所Nagaoka, Kyoto forward, centering the ball
in the Kyoto Imperial - Kansai U association
football game.

十一月十一日

南甲子園運動場で行はれた京都帝大對關西大學の關西カレッジ蹴球リーグの試合は豫想を裏切つて全くあつけなく關大の慘敗するところとなつた。京大は關大に比し確かに一日の長あるを認める、結果に現はれた七対二のスコアは絶対不動なものであるにしてもこの記録が示した程に兩大學の間に力の差異があつたであらうか、京大の優位は絶対的なものと認め得るが然し左程に懸隔のあつたものは思へない、然らば關大は何故かくも大きな開きを以て敗退せねばならなかつたか、その由つて來る原因を探ねて見よう。

對京大にあたるまでの關大は相手が弱かつただけに曲りなりにも兎に角ボロを出さずし濟まし得たが、この試合によつて既に抱いてゐた缺陷を大きくクローズアップされた、その意味で關大は反省へのよき資料を得たことであらう。

FWライン

は戰前から大して期待されてゐなかつたからそれ以上に活躍を注文づけることは結局無理といふものであつた、然し京大、關學に比してさしたる遜色を認めら

れなかつた關大バックスとの試合に於る不覺な動きを顧みては恐らく汗顔を覺えたずにはゐられないであらう。

關大のゴールキーパー上吉川は脚を痛めてゐたので榎本がこれに變つて出場したのであるが、この日は日頃の彼にも似ず丸橋を渡るが如き真に危ぶなつかしいプレイに終始した、收められた失點のうちの二、三は彼がその責を負ふべきものであらう。前半最初の一點は榎本の責に歸するのは酷であるかも知れないが然しボールを十分に掻み得る餘裕を持ちながらダイレクトで蹴り返へした球が、他のプレイヤーにあたりそしてその虚に乘せられて奪はれたものであつた、これは一例に過ぎないが彼のプレー振りは

最後の關門

を委ねるには餘りにも薄力に過ぎる、今少しよき判断動きがあれば惜しまれる、勿論彼は暫く大きな試合から遠ざかつてあたために精神的な重壓下に置かれてゐたためもあるが、彼をしてかくも萎縮せしめた源は勿論他にも在る、そ

れはH·B線の不調にあつたC·H奈良は今シーズン山野の跡を襲つたものであるが彼はH·Bであつただけに概してそのプレイが退歩的で積極的な攻撃に加はる力に缺けてゐた。キックと粘りには強いが惜しむらくは重大な要素であるスプリントに缺ける廉ひがあるため攻防の両面にわたつて稍もすれば萬全を期し難かつた、それがため勢ひR·H戸川が奈良の位置を侵略し勝ちになつた譯でもあらうが兩者間のコンビは勞多くして効少しきものであつた、だがここに見逃し得ないことは京大と關大のF·Wラインを對象して京大に一轟を轟せねばならぬ關大としてはどうしてもH·B線の力強い掩護に待たねばならなかつた、それがためH·B線は出来るだけ自己の足下に球を寄せそして京大のH·Bを前方に引きつけその隙に乘じてF·Wにバスする以外京大を

打破る方策

は先づなかつた、然るにこの作戦は見事裏切られバッキングアップが遅いため却つて自らの力を甚だしく削減しマンまと京大の好餌となつた「攻撃は最大の防禦」も結局その分を超越して却つて災する。

今一つは京大両翼の薄力を過信したために屢々危地に瀕し殊にR·H戸川の動き過ぎはL·W長岡をフリーにしそこから釣り出された失點は大きなものであつた、要するにC·Hのボディションに難があるのでR·H戸川とC·H奈良の位置を入れ替へるかそれともF·Bの渡邊を起用するかしたならば今までより以上の効果を挙げ得るのではないか。

關大H·Bラインはかかる不調な状態に置かれてゐたため山本の率ゐる京大H·Bのため完全にハーフは押され或ひはまた持地の強いキックは關大のH·BとF·Bの間際に位置するウイングに巧みに送られて京大F·Wの攻撃力は倍加され、伊藤、眞田、中野の描く素早いトロワードは易々と成功したのである。

大魚を逸した
更生の關大チーム

關學、關大試合評

高田正夫

關學對關大

(十一月十九日南甲子園)

は七分の強味關學にありされてゐた戦前の豫想を裏切つて2-2の無勝負に終つた、試合は曇天無風といふ絶好のコンディションに恵まれて關大の先駆で開始された。

戦前の豫備練習よりみて好調を想はせた關學はウキーキボーポイントとされてゐる前衛左サイドの當りもよく關大の戦備とのはざる内に簡単に二點を納めてしまつた、この儘の調子を持続して行けば更に大量の得點を重ねて問題なく關大を一蹴するものと思はれた程關學のすべり出しは素的なものであつた、二點先取後の關學は強力なるH·B線の支援とI·H山藤の廣範囲にわたる活躍により關大バックスを自由に攪乱して殆

その前半戦に於ける關大のプレーは全く對京大戦に於ける關大のそれと同様に關西蹴球界に於けるビッグ・スリーの一員としての貴重は全く影をひそめてゐた様な惨めなものであつた、然るに後半戦に入るや全線に漸く調子付ける關大さゝか疲労の度を見せて來た關學は攻守全く其の位置を轉倒して關大二点を奪回するに至つた。

後半戦の中頃

からの關大の當りが今少しく早く出てゐたならば數年間破り得なかつた宿敵關學を其の軍門に降し得るの快戦を演じたかも知れない何れにしても關大にさつては此の一戦まさに今一息といふ所で大魚を逸し去つた憾みがある。

さて兩軍がたゞつた戦の跡を一瞥するに關大はその陣容編成に想像以上の苦心を拂つた事だらう、即ちC·H奈良をR·HにR·H戸川をC·Hに入れ換へて攻撃に強い戸川をH·B線の中心にすゑた事は相手が得點する以上の得點を納めんとする考慮の現はれさみるべきだらう、この編成も前半は兩君のボディション不馴れのためか左程効果的な纏りのある動きを全面的にみせ更にH·B、F·B線は優れた體能を利して小柄な關學F·Wをよく潰し其の上バックスよりの時機を得た好フキードは割合薄力な關大の前衛線をよく支持してゐた、殊にバツクメンがオフェンシブに出た事は敵陣よりの洩れ球を完全に吸收して前線への給球を容易にしてゐた、關學F·Wを後半に入るや完全に封鎖して

攻撃的守備網

を張つた事は前衛に於る

ベタラン津田、森等をして後顧の憂なく、思ひ切つて健闘さすところの鍵さもなつた、關西蹴球界に於ける唯一のウキングプレイヤーと謳はれてゐる關大L·W津田もこの日最近好調にある關學R·H清水にマークされて殆ど其の快走を封ぜられてゐたが、最後迄ねばり強く頑張り抜いた彼の奮闘振りは關大二個の得點を納める直接の原因となつてゐる。

殊に後半四十分關學R·H清水の追走をうけながらの彼のプレーは同點になるチャンスメーカーとして推賞されるに値するであらう然しあの場合清水さしては更にもう一步思ひ切つてタックルすべきではなかつたか?、彼のどちらつかずの追走が却つて關學R·H伊藤、C·H三崎の活動範囲に變化を來しひいては老巧津田、森に虚を衝かれる一端をなしたと思はれる。

關學F·Wは負傷したR·W野澤の跡へ久し振りに駿足立上を起用したが練習不十分な彼に往年のプレーを求むるは少しく無理な注文であつた、其の上關學F·Wは若手プレイヤーの多い爲に調子が乗るごと、前半戦の様な活躍振りを示すが一度逆境に陥るごと全く判断が鈍り遂に

焦燥の因

さなつて數年來の關學には全く見る事の出来なかつた程の收拾出來ぬ混亂を自ら招じて自滅する様な傾向がある、之は名手西邑を擁する關學F·Wとして如何とも解決し難い問題だらうが、關學後半戦に於ける不振の原因の一としてF·WとH·B間の連絡がさきれた事を數へやう、更に關學

關西大學對關西學院蹴球試合の後半關學の攻撃を關大GK上吉川君キックした所
Kamiyoshikawa, Kansai U goalkeeper, kicks the ball away from his goal in the Kansai U - Kansei Gakuin association football game.

※左ページからつづく

アサヒ・スポーツ

逆襲に移つてからのL・W武井の離球時のおくれた事はC・F朝田の判断をまざはしめ、返つて帝大L・F渡邊のプレーを容易ならしめる様な結果になつた。後半に數度試みた關學の逆襲の機会が、殆んと正鶴を失したとおぼしき武井の不振に依つて、潰された事は一考に値しやう、昨シーズン掌中の王座を京大に奪はれて以來、一意專心覇權

奪回に邁進する關學としてこの試合に終始精根を打込んだ良き戦を闘ひ得たと自負し得られるだらうか。「王座への精進」が根強かつただけに吾等の期待も大きかつたがそれは遂に望み得なかつた、關西の蹴球界が主動的工作のもつこ力あるものを關學チームに求めてゐる事は掩へない事實である。

廣範囲に動いた高山君が漸く疲労加はり銳さを失ふにつれてその守備線の反撃力減じ一方慶應は勢づいて攻撃線を進めてこの正面衝突となつた。慶應の引續いて収めた第三、四點は前半暴進プレーなぎに不安を漂はしてゐたGK大村君の判断が正しかつたら或は波に乗掛けた慶應の得點を阻むことが出来たかも知れない。バックスのマークの不十分を考慮の外に置きはしないが手の下しやうのない

ほど決定的のものではなかつたと思ふ。前半は帝大が遮二無二動いて慶應の銳鋒を封じてゐたが限りある力から醸し出される動きであつて見れば蹉跌は自然の成行でなければならぬ、帝大は力一杯の試合をした。帝大にチーム・バランスがされてあたなら前半の優勢を最後まで持続したであらう。いふならばこの試合は帝大の善闘、慶應は文字通りの辛勝に盡きるものであつた。

理由に本づくのであらうか? 帝大漸く放心状態より醒め對慶大戦前半の好調を再現せんものと徐々に調子を高めて行つたが、二十七分L・I菊池が早大R・F堀江と頭彈を競合つて猛烈な正面衝突をし左顔面に内出血を起して昏倒退出するに及び、整備したチーム・ワークによつて早大陣の攪乱を策することは極めて困難となり、劈頭の失點が或ひは物をいふやうになるのではないかとの危惧の念を抱かしめられたが、爾後展開された戦況は不幸にもこれが事實なることを裏書した。

他の四人のために常に攻撃の口火を切り得點の鍵を握るFWのエース菊池の退場は、理詰の攻法による得點の希望を殆んと断ち切つた。二十八分R・W和田の好中央送球はこれを收める人を缺いて空しく、四十四分ゴール前へのクロスキックを和田中へ切れ込んで拾ひ強蹴にゴールを製ひ熊井轉倒辛くもセーブして球が右前の無人の地點に轉つた時も、フォローする者無くして止んだ。正に

四人FWの悲哀

である、十人の帝大は後半崩れるかと危惧されたが旺盛な精神力を以て完全に十一人の早大に拮抗し、開始後十分前後の五分間に四個の隅蹴を左右に連取して却つて早大を壓迫するの氣強さをさへ示した。然し攻撃力薄くして同點に漕ぎつけるに至らず、その後はL・W徳田の縦横の活躍と、C・H高山主将の良きチームの把握と鋭い進退、L・H木村の適時のF・W線参加等が目立つたのみで、四十四分徳田の強い中央送球が熊井をゴール内に釘づけにしておいてC・F川原に渡つた時——これは突進強く球は身體から弾返つてゴール・アウトした——を除いては機会らしいものに當らずして終つた。

菊池の中途退場は攻撃線を薄力ならしめたのみでなく、これを支援すべきH・B線の威力をも滅殺した。一般の豫想を裏切つて慶應との一戦に殆んと勝利を手中にした帝大善戦の鍵は高山君以下のハーフの活躍にあつた。特にその前半戦においては、相手のバックスメ

ンが味方のFWの鋭い「潰し」に遭つて困惑してゐるのに乘じて積極的に進出し、その前線への送球を屢々カットして相手の攻撃の芽を盡く刈取りゴールを泰山の安きに置いた。然しこの日は四人のFWのため敵を壓迫下に置くことが出来ず、前述したやうに個人的の活躍こそあつたがチームの脊椎としての線の強さを發揮するこことが出来なかつた。

後半戦の帝大

FWの前出不足を難ずる向もあるけれども、個人技に未だ勝れずキック・アンド・ラッシュに馴れない彼等にこれを要求することは徒らに中央の密集防禦を得意とする早大後陣の重圍に陥るの結果を招來するに過ぎなかつたと考へられ、寧ろ側面攻撃の好機を屢々失して逸した宿將和田の不振を責めたい。

帝大のために數へ上げられた極めて少數の得點機會は悉く人手不足が災して空しかつたが、相手のゴールへ同點球を確實に送り込み得たと想はれる機会がこの外にないこともなかつた。後半戦初頭隅蹴を連取した時がこれである。この時キッカーを除く三人の第一線をもつて數に於て二倍する敵手を前にゴールを望むの愚を演じてゐたが、早大陣が動搖して不安の念に襲はれてゐた際であるから、英断一番H・Bによる第一線増加を計つて一舉に得點する強氣の戦法を探つてあらざ惜しまれる。

與へられた紙敷も残り少く、且つその真価は来るべき覇権争奪の早慶戦を待つて詳細に検討されるここと思はれるから、早大チームに對してはこれを簡単に一瞥するに止めよう。早大は今

チーム建設

の途上にあるやに見受けられる。夏期合宿において午前の練習時間を悉く羅府オリンピックの體操主將本間君の指導による體操のために割いた如き、昨年度チームに見られなかつたF・W間のバスワーク研究の跡の見られるが如き、同チームが新しい分野に伸び行くための努力を拂つてゐる事が想見される、然し、より高級な蹴球への發展途

東大の善闘に
慶應辛くも勝つ

慶帝試合評

山田 午郎

實力の相違

さていへこのシーズンは慶早帝がA級、農文それに新編入の成城がB級といふやうに第一部が割然としてしまつた。A級は三戦三勝、B級は三戦三敗、試合はシーズン半ばに至るにつれて綫を織つただけて勝つべき豫想を立てられたものが順調な勝利を得てシーズン後半はA級が三ツ巴なつてトップを争ひB級の刻印を捺された農文と成城がラストを避けんとする血みどろの試合が持ち越されてしまつた。当事者からすればいづれは苦しい試合であるが第三者からは興味の特に深い試合である。

この綫を織りかけた中にビッグスリーの争覇圈内にある慶帝が十一月十日相見えた。帝の強力、慶の巧技の豫想に試合の興味は期待されたが事實は凡戦で帝大が豫想された好戦を示し慶應が悪戦の中に辛くも勝利の括りをつけた試合に終つてしまつた。

帝大は前期

の雪辱に燃えて闘志を漲らせ堅實なプレーに慶應の出鼻を挫いてしまつた。試合の滑り出しの悪い慶應は皆身體を浮かして球捌きを亂し前半はさうでも巧技に綫を織り試合に變化を求めるところか帝大のため完全に試合をリードされてしまつて漢括き抜いて前半2-0のスコアで帝大の試合となつてしまつた。F・W線五人が揃ひも揃つてゴールゲッターである慶應の攻撃力は粗雑で帝大バッ

クスのためチャンスを潰されたさいふよりもそれ自身がチャンスを凡失してしまつた前半であつた。帝大が極少のチャンスに二點を収めたのは寧ろ平調で慶應はC・H大崎君の動きがチームをリードするに至らずモーターの油のきれたやうな不調によつて局部的の齧縫に終始した四十五分であつた。

慶應バックスは帝大の後走に力を殺いて前線の給球は當然不足を來しF・W線にフット・ワート悪く帝大ゴールの寄せに銳さを見せず一方凡蹴を繰り返してゐたのでは無得點の前半であつたのもまた止むを得ないものであつた。

前半有利な試合

を進めた帝大が4-3のスコアでこの試合を惜しくも逸したのは後半開始直後に失つた一點にあつた。帝大バックスは常にC・H高山君の快速な動きを確実で鋭いプレイに守備線を保つてゐるのであるが後半開始直後の布陣の整はんとした矢先を衝かれてしまつた。ノウ・マークのフリーシュートではGK大村君も施すに術なく慶應は四十五分の後に漸く帝大ゴールを見出して蘇生の思ひがしたらう。慶應にこのゴールが十分も遅れてゐたならばこの試合は帝大に味方したか知れない。慶應はこゝに漸くチーム・ワークに正調を求める所をまざめ始めた。第二點は播磨君の粘り強い球捌きからチャンスの緒を作つて2-2の同點となつた。



慶應大學對東京帝大蹴球試合の前半慶應GK・織田君のノックイング

Kokitsu, Keio goalkeeper, knocking the ball away from his goal in the Keio - Tokyo Imperial association football game.

跋行の東大に
追つめられた早大

早帝試合評

濱田 謙吉

對慶大戦の時

さ同様定刻を過ぐる一分後東大チームは漸くフィードに勢揃ひした。堅く閉ざされた更衣室内でこの間如何なる祕策が授けられ、激励の辭が與へられてゐたか知らない。然し八日前慶應に對した時には凄まじいまでの意氣込が各自の面上に現はれ、チーム全體に烈々たる鬨闘が溢れてゐたのが歴然と看取されたのに、この日は何とはなしに氣分の緩みが感ぜられた。

果然相手方のキックオフの球を軽く奪つた早大は帝大バックスの間を無難作に繰りてこれを右に運びR・W長谷川の中央送球をC・F川本受けてG・Kを尻目にゴール左隅に轉じ込み開始後一分ならずして早くも最初の得點が早大のため

に記録された。

餘りにも飽氣ない得點だつた。キックオフの球が早大側に奪はれてから得點されるに至るまでの凡ゆる瞬間に帝大側はこれを阻止し得る機會を持ち乍ら悉くこれを見送つた。川本の蹴つた最後の瞬間においてすら誰かがゴールカヴァーをして居れば、クリヤリング・キックとなつて反対に逆襲機會を生み出してゐたかも知れない——さへる位に……。

帝大は前期

對農大戦その他においても劈頭の失點によつて試合を重苦しいものにしてあたゞ記憶してゐる。かういふこことは最も安全率の高い想像される同チームが却つて一再ならずこれを裏切つてあることは如何なる

※右ページへつづく

※ 左ページからつづく

上にあるためか未だティーム・ワークの妙は示されてゐない。F・Wのパスワークだけを考察して見ても、

兩翼からの中央送球、兩インナーからC・Fに出す縦の選球等の単純な攻撃要具すら、度々試みられてゐたが失敗した方が寧ろ多かつた。より複雑した種類のも

のは更に未だしの感を深うするのみで、却つて従来の同チームの特徴たる奔放な動きがバスに縛られて意味を減じたやうに思はれる節さへあつた。記録した得點は二に止まり、しかもそれは劈頭の帝大自滅の一撃と後半戦の罰蹴によるもので、名手川本の巧技は屢次相手方ゴールを脅かしたが、遂にF・Wの自力による得點を收め得なかつた。

しかしてF・Wの攻撃を推進せしむべきバツクメンもC・H立原の攻撃参加を除いては、前線に對する

給球に關心

淺く、最も容易な地域防禦に安んずるに止まつた。

菊池を缺く帝大の四人の攻撃を相手にしながら、球を自軍内にキープし得ない事を暴露したのは三省を要する事と信する。さもあれ彼等は今なほティーム整備の途上にある、各人がより良く蹴技を理解し、ティームの有機的構成に成功する日が來たら、獨自の猛練習による旺盛な體力を満々たる闘志と相俟つて、斯界に君臨する事も難事ではあるまい。

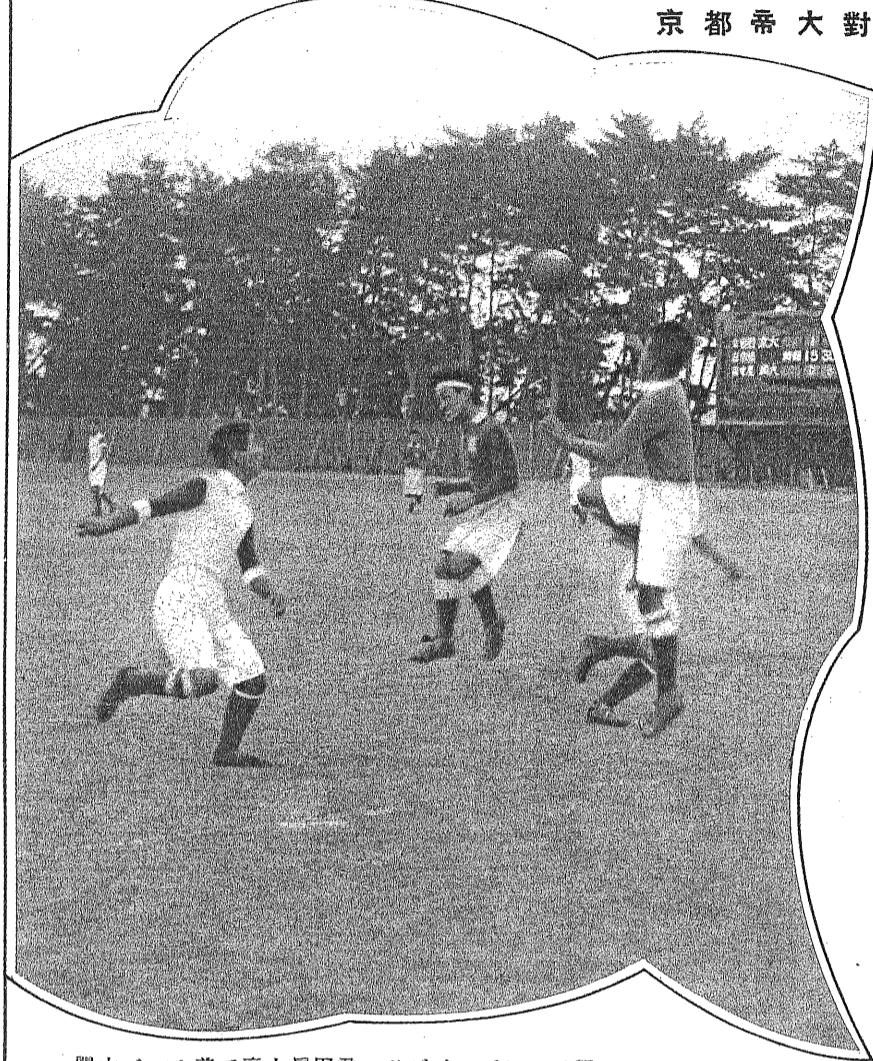
試合は期待された帝大が負傷退場者を出して跛行し、早大また分裂した動きに終始したため大試合に相應しからぬ内容を盛るに過ぎないものとなつた。高山川本の一騎打を筆頭に美技熱戦が隨所に點綴されて觀る者の觀賞を誘つたが、所詮局部的小競合の域を脱せず、豫想されたやうな全局を支配する決戦に遂に接し得なかつたのは寂しかつた。

アサヒ・スポーツ

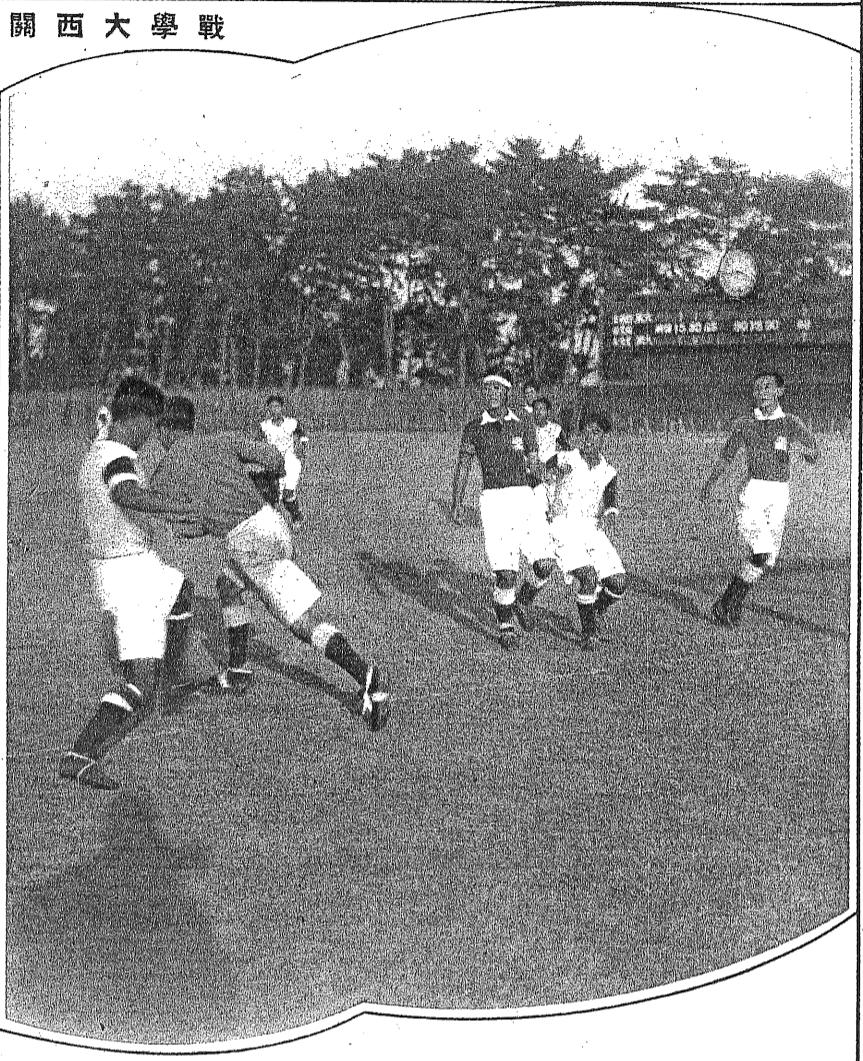
京都帝大對關西大學蹴球戰、十一月十一日舉行、7—2京大勝つ

關西大學對關西學院蹴球戰、十一月十八日舉行、2—2 引分け

京都帝大對關西大學戰



關大ゴール前で京大眞田君ヘッディングしたが關大GK榎本君防ぐ



後半關大フォアワードのバスを京大GK金澤君巧にカット

關西大學對關西學院戰



後半關大陣で關學自由蹴を得て球はゴール正面に飛んだが關大渡邊君これを蹴返す

Top-Left : Kyoto Imperial - Kansai U association football game, Koshien, November 11, won by Kyoto 7 to 2. Photo shows Enomoto, Kansai U goalkeeper, stopping a ball headed by Sanada (Kyoto). Top-Right : Kanazawa, Kyoto goalkeeper, breaks up a series of passes by Kansai U forwards in the same game. Bottom : Kansai U - Kansai Gakuin association football game, Koshien, November 18, resulting in a 2-to-2 tie. Photo shows Watanabe (Kansai U) kicking the ball back when Kansai Gakuin sends it directly for the goal on a free kick in Kansai U territory.

アサヒ・スポーツ

早稻田大學對東京帝大蹴球戰十一月十八日舉行、2—0早大勝つ

慶應大學對東京帝大蹴球戰十一月十日舉行、4—3慶應勝つ

早稻田對東京帝大戰



慶應對東京帝大戰



Top : Waseda - Tokyo Imperial association football game, November 18, won by Waseda 2 to 0. Photo shows Kumai, Waseda goalkeeper, saving after Kawahara heads an Imperial kick from a corner. Bottom : Keio - Tokyo Imperial association football game, October 10, won by Keio 4 to 3. Photo shows Kokitsu, Keio, goalkeeper, sending clear a shot by Takayama (Imperial).

早大九年振に王座を獲得

慶應を破り全勝記録の榮光

早 大 4 (1-1) 1 慶 大

竹 腰 重 九

(早大)	(慶大)
平名川野長谷中立	松澤村原野木江井
藤澤建塙駒岩大右岩城越縫	間磨村部崎波崎近崎
F W	H B
9 CK 7	10 F K 9
4 O F 5	23 G K 19

昨 年 度 は

一回二対二の無勝負に終り双方ともに帝大を破つて再度會戦し慶應がはじめて覇權を確立したが、本年は早慶とも四戦四勝を記録して東京學生蹴球聯盟今シーズン最終の試合（十一月二十六日）を迎へた。

この日までの四試合に慶應は得點二十九に對して失

點五、早大は得點十六に對して失點三を記録してをり或者は慶大の強大な得點數に着眼してもしもこの試合が得點競争となれば慶大は五點以上を得て覇權を獲得するごとに從來の得點記録を破ることを期待し或者はまた帝大に對する兩者の戦跡を基礎として早大の守備は帝大の守備以上に強力であるから恐らく慶大の攻撃を封じて勝利をつかむであらう等種々の觀點から種々の豫想が行はれてゐた。

然るに早大

は對帝大戦の時と同様に慶大のキック・オフを奪つて滑らかなパスに慶大守備陣を簡単に抜き去り開始後

一分ならずして川本君の強蹴による一點を擧げ逸早くも機先を制した形となつた。併しながら慶大も得點力に自信を持つてゐた故かこの失點を殆んど意に介せぬものゝ様に試合を進め再三好機を迎へるうち二十二分に至つて遂に右側からの送球を L・W 藤岡君がきめて同點とし更に機會はあつたが得點に至らず一對一のまゝ前半戦を終つた。

この前半戦において早大はそのパック・メン及兩翼 F・W よりも球操作において優つてゐるにも拘はらずその潰しから確實に球を進めようとはせずに更にまた荒いパスを出したために慶大の守備を或程度混乱させるこには成功したけれども結局その F・W の隊形が整はず遂に最初の一回のみに止まつてしまつた。



東京學生蹴球界の覇者となつた早稲田大學チーム
Waseda association football team, Tokyo intercollegiate champions.

はらず外側寄りに浅い隊形を探つてゐる守備陣の矛盾を衝くものでありそれは帝大チームが慶大に對して探つた作戦でもあつたが、早大 F・W は全體として帝大 F・W よりも球操作において優つてゐるにも拘はらずその潰しから確實に球を進めようとはせずに更にまた荒いパスを出したために慶大の守備を或程度混乱させるこには成功したけれども結局その F・W の隊形が整はず遂に最初の一回のみに止まつてしまつた。

他 方 慶 大 は

守備陣混亂のためにその F・W に好球をフィード出来ず守備から攻撃への滑らかな轉換には困難したけれども早大パックから出た球を慶大 H・B が得た場合には慶大らしい巧味を見せて早大の危険線近くまで鋭く寄せシートの機會も一再に止まらなかつた。惜しいことに R・I 塚部君に平常の當りが出ず決定的な機會を凡塵し他の F・W も早大パックメンの強烈な體當りに辟易して個人的な鋭い突込みが足らず機會は芽のうちに刈り取られてしまつた。守備についていへば慶大は帝大との試合に現はした缺陷を既にこの前半戦に暴露したけれども前述の様に早大 F・W が最後の仕上げに移る方策を忘れたのに助けられた感があつたが、早大の守備は慶大パックから好球が出なかつた故もあらうが從前の四試合に見ない整然と組織立てられた動きを示し殆んど危機を感じさせなかつた。

從来の早大守備隊形は兩翼 H・B が翼 F・W とインサイド F・W との中間に漠

守備の動きをさり、積極的にこの三人をオフサイドに陥れる作戦をさうとするかに見受けられ、これによつてもしばしば慶大の攻撃を阻んでゐたと思ふ。

後半戦に於て

は前半戦は逆に慶大好調にスタートし十分ごろまでは斷然優勢を示す度々シートの機會を迎へ形勢は逆転するのではないかと思はれたが慶大 F・W は早大パックの強烈な體當りを嫌つてか渾身の力をこめたシートは出すシーズン初めに示した鋭いダッショによる迫力ある攻撃も見られなかつた。もしもこの際一回を先取するこが出來てあたら得點競争を誘發出來て慶大が有利になつたかとも思はれるが遂に得點に至らず、十二分ころ逆襲せられて左に C・K を與へ R・I 野澤の軽く左足で引掛けたボールはカーブしてキーバーの逆に入り致命的な一点を與へてしまつた。二対一となつても慶大が挽回するに時間は十分あつたのであるがそれまでに迎へた好機會が全部潰されてしまつたため慶大 F・W は全く確信を失つたものゝ様に精彩のない動きとなりまた守備陣は前半戦の混亂に引き續いて、動きの強い早大 F・W に崩されたので一層不安を感じたものが前進を忘れて各ライン間に大きな溝を生じ攻撃に粘り強さを失つて反撃され易くなるごとに同時に早大 H・B 内殊に L・H 中村君と C・H 立原君で一つか二つのバスを使って餘裕をもつてその F・W へ好球をフィードせる様な結果を生じた。

二 対 一

となつて後も慶大は間歇的に攻撃の機會を得たが F・W は攻撃精神を失つて上體は後に反りバスする際に止つてしまうために形の上では良いバスであつても流動的な強味を失つて早大守備陣に容易に處理されまた H・B 及び F・B は疲労のため動きが非常に弱くなりその一角が崩されても他の者がそれを補ふ動きがされず廣い競技場に斑らに佇立するのみといふ感じを與へるに至つた。この様な状勢に立ち至つては最早、策の施し様もなく慶大陣は調子に乗つた早大 F・W のため



Dribbling, Passing & Unhappy Returns.

蹴球の生命とするところはスピード一辺倒です、しかもそれは絲をあやつるやうな圓滑な連繋を基調としたものでなければなりません、いつ如何なるときにでもボールを完全に制御し得てこそ初めてその實効が現はれるものです、寫眞（上）は物理的原則を應用して豫期せざる角度のボールをマスターせんために役立たせ、（下）はボールのコントロールを習得せんための練習手段です=寫眞はイギリス・ロッテルダムのスバルタ俱樂部選手の練習振り（J・M生）



早稻田大學對慶應大學蹴球試合

十一月二十六日舉行
4-1 早稻田勝つ



Waseda - Keio association football game, November 26, won by Waseda 4 to 1. Top : Kumai, Waseda goalkeeper, punches a shot by Fujioka. Bottom : Iwasaki (Keio) heads a ball from the toe of Tatehara twenty-five minutes after the start of the first half.

* 左ページハウツブ

全く躊躇せられ前半戦以上の混亂、間隙を生じて二十分及び三十五分にはR.HとR.Hとの間に出来たときに早大C・F及びL.Iが位置して球を受けスピードをかけてR.Bを外す形で更に二点を加へられ四対一の決定的な開きが出来

遂に挽回に努力する氣力をも喪失して潰滅し去つた。

此日の戦況

から見れば、慶大は守備においては對帝大試合に暴露した缺陷を早大の奔放な強攻に衝かれて混亂し破綻を生ずると共にF.Wへのフィードに困難し、F.W

はまた早大の從來に見られた守備によつて文理大、成城、農大に對しては決定的であり帝大に對してもその後半戦に鈍さを見せた定石的なバスワークを阻まれて勝味を見出せなかつたが、この試合の前半戦の終りこ

ろ或は後半戦の初めごろに得點を先んずることが出来てあたならば心理的な要素がかなり大きく作用して更に活氣のある戦況となつたのではないかと思ふ。

慶大F.Wがシーズン初めに示した浅い形から鋭いダッシュを利かしての勤的

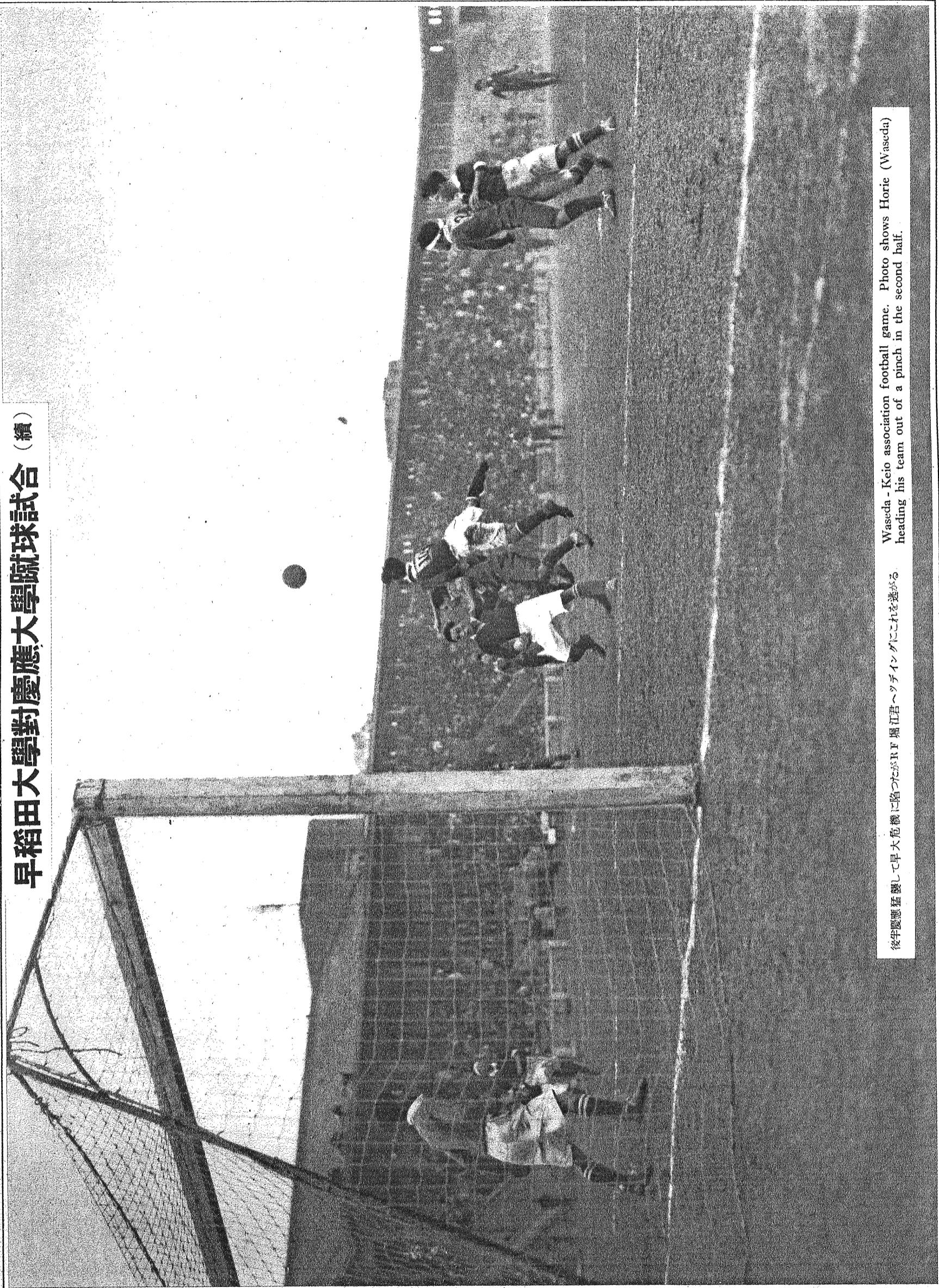
なバスワークを完成せずに漸次靜的なものに固定化して遂にこの破綻を來したことを惜しむさまにもシーズン初頭不調に見えた早大が堅忍不拔の精神を保持して他に比較してすぐれて均衡のされた攻守を示すに至り壓倒的な闘志を盛つてこの

優勝戦を確保し、雌伏八年の後遂に第十回リーグ戦の覇権を確立したことに對して祝福し、かつ今後の精進を希ひたいと思ふ。

S 8-12-15

アサヒ・スポーツ

早稻田大學對慶應大學蹴球試合（續）



後半慶應猛襲して早大危機に陥つたが R.F 堀江君ヘダイングにてこれを逃がる。
Waseda - Keio association football game. Photo shows Horie (Waseda) heading his team out of a pinch in the second half.

関学を倒した現帝大カレッジ蹴球の全貌

京大再び關學を破る

關學後半の奮起遂に空し

京大 3(3-0)2 關學

市橋時藏

(京大)	—	(關學)
長伊	岡藤	(武山)
眞中	FW	井藤
高田	野田	朝西
山福	邊安	田畠
持植	H.B.	澤西
金	F.B.	川三
		清松
		木澤
		G.K. 伊丹
35	G.K.	10
6	C.K.	6
7	F.K.	6

シーズンの幕

が切つて落されるや關大はピッヂスリーの一つとしての呼聲高く相當波瀾を起すだらうと報道された。京大には慘敗の憂目に遭つたが關學には引分けした、然し兩チーム實力伯仲さいふのではなく關學の不調のためさいつた方が至當の見方さすれば京大、關學ともにプレーの技術的方面は勿論精神的部分においてもさもなく他の何れよりも優り關西の二雄として今年も對立の貴祿を示してゐた、我々は關西においてピッヂゲームとしてこの一戦しか持たな

いことは蹴球界のために寂莫を訴へる者であり同時にこの二雄の牙城に内薄する優秀チームの出現を望んで止まない。

この決戦

に當り豫想は四分六さ各新聞紙は豫想してゐたが簡単にこれを受入れることは甚だ危険であつた、何となればこの比較の中には當日のコンディション及び試合に對する選手の精神力さかいふ要素を度外視し單に表面上の測定に過ぎないからである。

グラウンドに折しも初冬の時雨は訪れグラウンドの状態は悪い方でこれを如何に利用するか選手の資擔は一つ増した譯である。

從來關西チームのFBは關東のそれに比しやゝ消極的な位置を占めてゐる様に思はれる點があつて、それはFWの攻法が然らしめたものゝ様であるが近時FBの動きにつき各チームは非

常に研究されて來たこを見受けたのは喜ばしいこである。

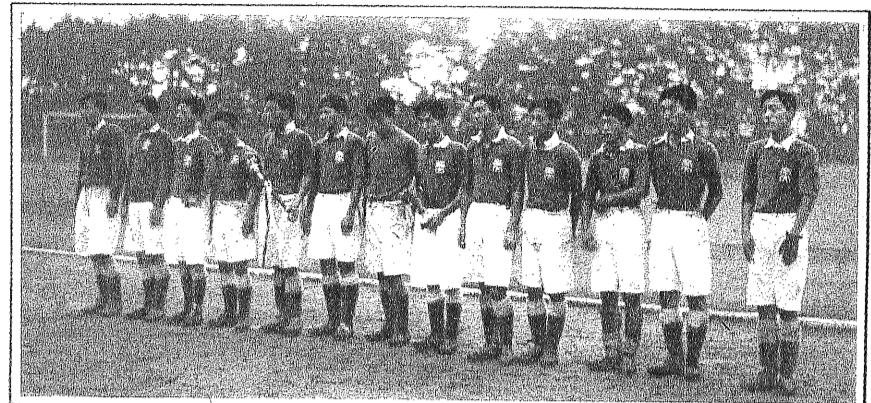
H.B.も概して思ひ切つた例へば東大高山君の如き攻撃参加を敢行するH.B.は少い。

戦前の豫想

ではH.B.ラインはその造球力及び堅實の點より關學に分があるが京大兩Iの強引なプレーをされだけ阻止出来るか興味ある點であつた。

FWにおいては獨自の攻法を持つ京大に一日の長あるやに見えた。然し結果は京大FWの優勢も全試合を通じてその力を示し得ず前半と後半は全然別の形の試合となつて展開された。

兩軍最初より細いコンビネーションによらんとしたが徒らに敵にボールを獻ずるばかりで一進一退燃ゆる鬪志にプレーは添はない。この試合勝負の數分に出来るだけ力を出してゐなければ以後急に鋭い動きを必要としても遂に動けないまま試合を終る、チーム指導者はこの間の動きと試合の運びに大いに留意する必要がある。漸く操球に馴れ、試合



關西學生蹴球界の覇者となつた京都帝大チーム
Kyoto Imperial U association football team, Kansai intercollegiate champions.

は急テンポの攻防に入つた。

京大R.H.よりのバスをL.W.受け更に中央敵ゴール前に送ればセンタスリーのダッシュ素早くG.K.丹波君捕球を見えたがチャージ押込みの一點を擧ぐ。これにより京大H.B.の出足をよくし關學FWに對する給球をよくカットし出て兩インナーのバスに移されしばしばチャンスを迎へたが

肝腎のゴール前

においてインナーの球捌きに苦心するうち敵に潰されてゐた、これは競技場中央におけるI.W.の聯絡なきためバックメンの中央寄り後退となつてゴール前は自然封塞される結果となつてゐた、關學バックは京大I.I.のバスをしばしば繰返させたのはよし得點にまでしなかつたことはいへ危険だこれはC.H.三崎君が平常よりやゝ消極的ポジションにあつたためである……京大

C.F.眞田君が餘り前方に位置してゐた事あらうが…従つて關學の攻撃に際して後援續かずの形となり、なほ更京大Iの活動範囲を大にしてゐた。

關學二十五分三十分に左に右に絶好のチャンスを迎へたが凡失した、殊にR.W.は球に執着心乏しくR.I.との聯絡にのみ頼り全線の調和を乱してゐたW獨特のプレーを研究する必要があらう我軍隊の教範に「狀況を判断するには大局に着眼し敵に對して主動的地位に立ち動作の自由を獲得するに努め特に敵の意表に出づるの着意極めて肝要なり」さこれは蹴球の何れの部分にも共通する言葉だが殊にWに對して適切だと思ふ二點目も自由蹴よりC.I.のチャージにてG.K.共ゴールインとなり第三點目は左サイドよりのクロスバスを中野君中寄に受け見事ゴールを割る。

三點の先取

によつて京大は後半樂に試合を進め得るはずなのに意外關學は賢策を提げて登場京大チームに大きなひづを入らしめた。

關學は風上を巧みに利用し猛然と出直つた。開始後京大ゴール前密集後方に前进してゐたC.I.三崎君は鋭いショットを放つたがG.K.の好捕に止んだ、このこでも關學H.B.の攻撃参加が改められたことを示してゐる。同時にFB伊藤君の前進は共によく全チームを主動の位置に置いたその策の出づる處稱讃に價する。

次いでC.F.の中央突破は京大の最も弱點を狙つた處である引續きチャンスは數

多くあつたが三崎君のチャージボール風に流れG.K.の判断を誤らしめ合計二點にしては折角の主動的地位を把握したことに対する申譯がないだらう。

京大持地君の位置はFWの最も乗る處でなければならぬ關學バックは壁の如く京大のキックを返へしてゐたが其處には關學の動きの鋭さはあつたにしても京大FW三人の無策に原因してゐる。

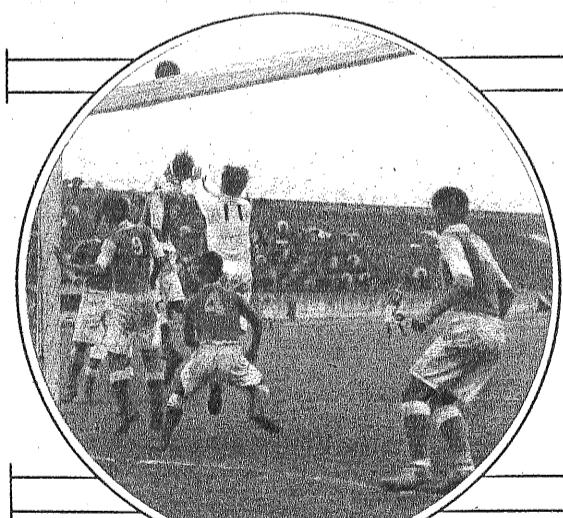
或時はF.I.が戻り過ぎる位置でボールを持ち出すが之を受取るべき人の動きが全然ない京大W.I.は足に根が生えたかの感があつた關學C.H.、L.H.、F.I.の無理のないパスはよくチャンスを作つた。が然し後半斯く

全く主動的

なプレーに始終しながら今一步さいふ處で押の利かなかつたことは關學の爲に残念に思ふ。之は單にキックの凡失を責めるよりFWの自信力がなかつた爲であらう。

兎に角京大はあの場合關學の重壓より如何にすれば早く脱し得られるかまた關學は主動的地位に立つた場合の根本的な攻法を研究されない。

試合中敵の意圖を看破り之に對し臨機應變の策がたてられるやう技術の練習と同様練習を積まねばならない来年極東大會を控へ蹴球界はいよいよ多端である研究には最も時機を得てゐる諸君よりよき蹴球へ精進しようではないか。



京都帝大對關西學院蹴球戦に京大のコーナー・キック
關學ゴール前に飛んで關學必死の防戦

Kansei Gakuin players protecting their goal against a corner kick by Kyoto in the Kyoto Imperial-Kansei Gakuin association football game.

アサヒ・スポーツ

京都帝大對關西學院蹴球試合—十一月二十六日舉行
3—2京大勝つ



京大の攻撃を關學 G K 丹羽君飛上つてセーヴする



後半關學二點を返したは猛襲し三度目に入つたボール惜しくもオフサイドで得点とならず



後半關學二點を返した後14分さらに京大ゴールに迫つたが京大G K 金澤君セーヴする

Kyoto Imperial - Kansei Gakuin association football game, November 26, won by Kyoto 3 to 2. Top : Niwa, Kansei Gakuin goalie jumps and prevents a goal. Center : Kansei Gakuin, with a chance to tie the score, makes a goal, only to lose it for being offside. Bottom : Kansei Gakuin, fourteen minutes after the start of the second half, has another chance to tie the score but Kanazawa, the Kyoto goalkeeper, spoils it.